



IBM Systems - iSeries

i5/OS コマンド

DLTF (ファイル削除) での開始～

バージョン 5 リリース 4





IBM Systems - iSeries

i5/OS コマンド

DLTF (ファイル削除) での開始～

バージョン 5 リリース 4

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、341 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、i5/OS (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 4、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りが無い限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM Systems - iSeries
i5/OS Commands
Starting with DLTF (Delete File)
Version 5 Release 4

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

ファイル削除 (DLTF)	1	DBCSフォント・テーブルの削除 (DLTIGCTBL)	27
パラメーター	2	パラメーター	27
ファイル (FILE)	2	DBCSフォント・テーブル (IGCTBL)	28
システム (SYSTEM)	3	例	28
制約の除去 (RMVCST)	3	エラー・メッセージ	28
例	4		
エラー・メッセージ	4	イメージ・カタログの削除 (DLTIMGCLG)	31
		パラメーター	31
フォント資源の削除 (DLTFNTRSC)	7	イメージ・カタログ (IMGCLG)	31
パラメーター	7	イメージ・ファイルの保持 (KEEP)	31
フォント資源 (FNTRSC)	7	従属イメージ・カタログ (DEPIMGCLG)	32
例	8	例	32
エラー・メッセージ	9	エラー・メッセージ	32
フォント・テーブルの削除 (DLTFNTTBL) 11		IPX記述削除 (DLTIPXD)	35
パラメーター	11	パラメーター	35
フォント・テーブル (FNTTBL)	11	IPX記述 (IPXD)	35
例	12	例	35
エラー・メッセージ	12	エラー・メッセージ	36
用紙定義の削除 (DLTFORMDF)	13	ジョブ記述削除 (DLTJOBQ)	37
パラメーター	13	パラメーター	37
用紙定義 (FORMDF)	13	ジョブ記述 (JOBQ)	37
例	14	例	38
エラー・メッセージ	15	エラー・メッセージ	39
フィルターの削除 (DLTFTR)	17	ジョブ待ち行列削除 (DLTJOBQ)	41
パラメーター	17	パラメーター	41
フィルター (FILTER)	17	ジョブ待ち行列 (JOBQ)	41
例	18	例	42
エラー・メッセージ	18	エラー・メッセージ	42
図形記号セット削除 (DLTGSS)	19	ジャーナル削除 (DLTJRN)	45
パラメーター	19	パラメーター	45
図形記号セット (GSS)	19	ジャーナル (JRN)	46
例	20	例	47
エラー・メッセージ	21	エラー・メッセージ	47
DBCS変換辞書削除 (DLTIGCDCT)	23	ジャーナル・レシーバー削除 (DLTJRNCV)	49
パラメーター	23	パラメーター	50
DBCS変換辞書 (IGCDCT)	23	ジャーナル・レシーバー (JRNCV)	50
例	24	オプション (DLTOPT)	51
エラー・メッセージ	24	例	52
		エラー・メッセージ	52
DBCS分類テーブルの削除 (DLTIGCSRT) 25		JAVAプログラムの削除 (DLTJVAPGM) 55	
パラメーター	25	パラメーター	55
DBCS分類テーブル (IGCSRT)	25		
例	25		
エラー・メッセージ	26		

クラス・ファイルまたはJARファイル (CLSF)	55	例	79
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	56	エラー・メッセージ	79
例	56		
エラー・メッセージ	56		
ライブラリー削除 (DLTLIB)	57	モジュールの削除 (DLTMOD)	81
パラメーター	58	パラメーター	81
ライブラリー (LIB)	58	モジュール (MODULE)	81
ASP装置 (ASPDEV)	58	例	82
例	59	エラー・メッセージ	82
エラー・メッセージ	59		
ライセンス・プログラムの削除 (DLTLICPGM)	61	モード記述削除 (DLTMOOD)	85
パラメーター	61	パラメーター	85
プロダクト (LICPGM)	62	モード記述 (MODD)	85
削除する任意選択部分 (OPTION)	62	例	85
リリース (RLS)	62	エラー・メッセージ	86
ライセンス・プログラムの言語 (LNG)	63		
例	63	メッセージ・ファイル削除 (DLTMSGF) 87	
エラー・メッセージ	63	パラメーター	87
		メッセージ・ファイル (MSGF)	87
		例	88
		エラー・メッセージ	89
回線記述の削除 (DLTLIND)	65	メッセージ待ち行列削除 (DLTMSGQ) . . . 91	
パラメーター	65	パラメーター	91
回線記述 (LIND)	65	メッセージ待ち行列 (MSGQ)	91
例	65	例	92
エラー・メッセージ	66	エラー・メッセージ	93
LINUXサーバーの削除 (DLTLNXSVR) . . . 67		ネットワーク・ファイル削除 (DLTNETF) 95	
パラメーター	67	パラメーター	95
ネットワーク・サーバー記述 (NWSD)	67	ファイル (FILE)	95
例	67	メンバー (MBR)	95
エラー・メッセージ	68	ファイル番号 (NBR)	96
		ユーザー (USER)	96
		例	96
		エラー・メッセージ	97
ロケール削除 (DLTLOCALE)	69	ノード・グループの削除 (DLTNODGRP) 99	
パラメーター	69	パラメーター	99
ロケール名 (LOCALE)	69	ノード・グループ(NODGRP)	99
例	69	例	100
エラー・メッセージ	69	エラー・メッセージ	100
媒体定義の削除 (DLTMEDDFN)	71	ノード・リストの削除 (DLTNODL) . . . 103	
パラメーター	71	パラメーター	103
媒体定義 (MEDDFN)	71	ノード・リスト (NODL)	103
例	72	例	104
エラー・メッセージ	72	エラー・メッセージ	104
管理コレクションの削除 (DLTMGTCOL) 75		NETBIOS記述の削除 (DLTNTBD) . . . 107	
パラメーター	75	パラメーター	107
管理コレクション (MGTCOL)	75	NETBIOS記述 (NTBD)	107
例	76	例	107
エラー・メッセージ	76	エラー・メッセージ	108
メニュー削除 (DLTMNU)	77	NETWAREボリュームの削除 (DLTNTWVOL) 109	
パラメーター	77		
メニュー (MENU)	77		
参照されたオブジェクトの削除 (DLTREFOBJ)	78		

パラメーター	109
ボリューム (VOL)	109
サーバー (SERVER)	109
取り外し (DISMOUNT)	109
例	110
エラー・メッセージ	110

ネットワーク・インターフェース記述の 削除 (DLTNWID) 111

パラメーター	111
ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)	111
例	111
エラー・メッセージ	112

NWS構成の削除 (DLTNWSCFG) 113

パラメーター	113
ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)	113
例	114
エラー・メッセージ	114

ネットワーク・サーバー記述の削除 (DLTNWSD) 117

パラメーター	117
ネットワーク・サーバー記述 (NWS)	117
例	117
エラー・メッセージ	118

NWS記憶スペースの削除 (DLTNWSSTG) 119

パラメーター	119
ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)	119
例	119
エラー・メッセージ	119

出力待ち行列削除 (DLTOUTQ) 121

パラメーター	121
出力待ち行列 (OUTQ)	121
例	122
エラー・メッセージ	123

オーバーレイの削除 (DLTOVL) 125

パラメーター	125
オーバーレイ (OVL)	125
例	126
エラー・メッセージ	127

一時変更削除 (DLTOVR) 129

パラメーター	129
一時変更されるファイル (FILE)	129
呼び出しレベル (LVL)	130
例	130
エラー・メッセージ	131

プログラム装置項目一時変更削除 (DLTOVRDEVE) 133

パラメーター	133
一時変更されるプログラム装置 (PGMDEV)	133
呼び出しレベル (LVL)	134
例	134
エラー・メッセージ	135

ページ定義の削除 (DLTPAGDFN) 137

パラメーター	137
ページ定義 (PAGDFN)	137
例	138
エラー・メッセージ	138

ページ・セグメントの削除 (DLTPAGSEG) 141

パラメーター	141
ページ・セグメント (PAGESEG)	141
例	142
エラー・メッセージ	143

PDFマップの削除 (DLTPDFMAP) 145

パラメーター	145
PDFマップ (PDFMAP)	145
例	146
エラー・メッセージ	146

印刷記述子グループ削除 (DLTPDG) 147

パラメーター	147
記述子グループの印刷 (PDG)	147
例	148
エラー・メッセージ	149

PEXデータの削除 (DLTPEXDTA) 151

パラメーター	151
データ・メンバー (DTAMBR)	151
データ・ライブラリー (DTALIB)	151
例	151
エラー・メッセージ	152

プログラム削除 (DLTPGM) 153

パラメーター	153
プログラム (PGM)	153
例	154
エラー・メッセージ	155

パネル・グループ削除 (DLTPNLGRP) 157

パラメーター	157
パネル・グループ (PNLGRP)	157
例	158
エラー・メッセージ	158

問題削除 (DLTPRB) 161

パラメーター	161
問題識別コード (PRBID)	161
状況タイプ (STATUS)	162
日数 (DAYS)	162
起点 (ORIGIN)	163

例	163	エラー・メッセージ	187
エラー・メッセージ	163	検索見出し削除 (DLTSCHIDX)	189
PSF構成の削除 (DLTPSFCFG)	165	パラメーター	189
パラメーター	165	検索見出し (SCHIDX)	189
PSF構成 (PSFCFG)	165	例	190
例	166	エラー・メッセージ	190
エラー・メッセージ	166	スペル援助辞書削除 (DLTSPADCT)	193
プログラム一時修正の削除 (DLTPTF)	167	パラメーター	193
パラメーター	167	スペル援助辞書 (SPADCT)	193
PTF (PTF)	167	例	194
プロダクト (LICPGM)	167	エラー・メッセージ	194
リリース (RLS)	168	スプール・ファイル削除 (DLTSPLF)	195
重複PTF番号の削除 (DLTDUPPTF)	168	パラメーター	195
例	168	スプール・ファイル (FILE)	195
エラー・メッセージ	168	ジョブ名 (JOB)	196
QUERY管理機能書式の削除		スプール・ファイル番号 (SPLNBR)	196
(DLTQMFORM)	171	ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)	197
パラメーター	171	作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)	197
QUERY管理機能報告書書式 (QMFORM)	171	ファイル選択 (SELECT)	198
例	172	ASP装置 (ASPDEV)	199
エラー・メッセージ	172	例	199
QUERY管理機能プログラム削除		エラー・メッセージ	199
(DLTQMQR)	175	SQLパッケージの削除 (DLTSQLPKG)	201
パラメーター	175	パラメーター	201
QUERY管理機能プログラム (QMQR)	175	SQLパッケージ (SQLPKG)	202
例	176	例	203
エラー・メッセージ	176	エラー・メッセージ	203
QUERY削除 (DLTQRY)	179	サービス構成の削除 (DLTSRVCFG)	205
パラメーター	179	パラメーター	205
QUERY (QRYパラメーター)	179	通信構成の削除 (DLTCMNCFG)	205
例	180	例	205
エラー・メッセージ	180	エラー・メッセージ	206
質問・回答の削除 (DLTQST)	181	サービス・プログラムの削除	
パラメーター	181	(DLTSRVPGM)	207
Q/Aデータベース (QSTDB)	181	パラメーター	207
Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)	182	サービス・プログラム (SRVPGM)	207
例	182	例	208
エラー・メッセージ	182	エラー・メッセージ	208
Q/Aデータベース削除 (DLTQSTDB)	183	テープ・カテゴリーの削除	
パラメーター	183	(DLTTAPCGY)	211
Q/Aデータベース (QSTDB)	183	パラメーター	211
Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)	184	カテゴリー (CGY)	211
例	184	例	212
エラー・メッセージ	184	エラー・メッセージ	212
サブシステム記述削除 (DLTSBSD)	185	テーブル削除 (DLTTBL)	213
パラメーター	185	パラメーター	213
サブシステム記述 (SBSD)	185	テーブル (TBL)	213
例	187	例	214

エラー・メッセージ	214
時間帯記述削除 (DLTTIMZON)	217
パラメーター	217
時間帯記述 (TIMZON)	217
例	217
エラー・メッセージ	218
トレースの削除 (DLTTRC)	219
パラメーター	219
データ・メンバー (DTAMBR)	219
データ・ライブラリー (DTALIB)	219
例	220
エラー・メッセージ	220
ユーザー定義FSの削除 (DLTUDFS)	221
パラメーター	221
ユーザー定義ファイル・システム (UDFS)	221
例	222
エラー・メッセージ	222
ユーザー見出し削除 (DLTUSRIDX)	223
パラメーター	223
ユーザー見出し (USRIDX)	223
例	224
エラー・メッセージ	224
ユーザー・プロファイル削除 (DLTUSRPRF)	227
パラメーター	228
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	229
所有オブジェクト・オプション (OWNOBJOPT)	229
1次グループ・オプション (PGPOPT)	230
EIM関連 (EIMASSOC)	231
例	231
エラー・メッセージ	231
ユーザー待ち行列削除 (DLTUSRQ)	233
パラメーター	233
ユーザー待ち行列 (USRQ)	233
例	234
エラー・メッセージ	234
ユーザー空間削除 (DLTUSRSPC)	237
パラメーター	237
ユーザー・スペース (USRSPC)	237
例	238
エラー・メッセージ	239
ユーザー・トレースの削除 (DLTUSRTRC)	241
パラメーター	241
ジョブ名 (JOB)	241
例	242
エラー・メッセージ	242

妥当性検査リストの削除 (DLTVLDL)	243
パラメーター	243
妥当性検査リスト (VLDL)	243
例	244
エラー・メッセージ	244
WINDOWSサーバーの削除 (DLTWNTSVR)	245
パラメーター	245
ネットワーク・サーバー記述 (NWSD)	245
例	245
エラー・メッセージ	245
WSCSTの削除 (DLTWSCST)	247
パラメーター	247
ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)	247
例	248
エラー・メッセージ	248
ジョブ遅延 (DLYJOB)	249
パラメーター	249
ジョブ遅延時間 (DLY)	249
ジョブ再開時刻 (RSMTIME)	249
例	250
エラー・メッセージ	250
オブジェクト・ダンプ (DMP)	251
パラメーター	251
オブジェクト (OBJ)	252
例	252
エラー・メッセージ	252
CLプログラム・ダンプ (DMPCLPGM)	253
パラメーター	253
例	253
エラー・メッセージ	253
クラスター・トレースのダンプ (DMPCLUTRC)	255
パラメーター	255
クラスター (CLUSTER)	256
クラスター資源グループ (CRG)	256
ノードID (NODE)	256
構成オブジェクト・タイプ (LEVEL)	256
物理ファイル (FILE)	257
上書きオプション (OVERWRITE)	257
例	258
エラー・メッセージ	258
通信トレースのダンプ (DMPCMNTRC)	261
パラメーター	261
構成オブジェクト (CFGOBJ)	261
タイプ (CFGTYPE)	262
TOストリーム・ファイル (TOSTMF)	262

ファイルの置き換え (REPLACE)	262
例	262
エラー・メッセージ	262

文書ライブラリー・オブジェクト・ダンプ (DMPDLO) 265

パラメーター	265
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	265
フォルダー中 (FLR)	266
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	266
システム・オブジェクト属性 (SYSOBJATR)	266
例	266
エラー・メッセージ	267

ジョブ・ダンプ (DMPJOB) 269

パラメーター	269
ダンプするプログラム (PGM)	270
ジョブ構造区域 (JOBARA)	270
アドレスで参照されたオブジェクト (ADROBJ)	271
ジョブ・スレッド (JOBTHD)	271
組み込むスレッドID (SLTHD)	272
例	272
エラー・メッセージ	273

ジョブ内部事象ダンプ (DMPJOBINT) 275

パラメーター	275
例	275
エラー・メッセージ	275

JAVA仮想マシンのダンプ (DMPJVM) 277

パラメーター	277
ジョブ名 (JOB)	277
スタック・フレーム (STACKFRAME)	278
重複ジョブ・オプション (DUJOBLOPT)	278
例	278
エラー・メッセージ	279

メイン・メモリー情報のダンプ (DMPMEMINF) 281

パラメーター	281
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	282
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	282
ページ数(NBRPAGE)	283
例	283
エラー・メッセージ	283

オブジェクト・ダンプ (DMPOBJ) 285

パラメーター	285
オブジェクト (OBJ)	286
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	286
例	286
エラー・メッセージ	287

システム・オブジェクト・ダンプ (DMPYSOBY) 289

パラメーター	289
オブジェクト (OBJ)	290
コンテキストまたはライブラリー (CONTEXT)	291
内部オブジェクト・タイプ (TYPE)	291
内部オブジェクト・サブタイプ (SUBTYPE)	291
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	292
16進オフセット (OFFSET)	292
ダンプする空間の区域 (SPACE)	293
例	293
エラー・メッセージ	294

テープ・ダンプ (DMPTAP) 299

パラメーター	299
装置 (DEV)	300
ボリューム識別コード (VOL)	300
順序番号の範囲 (SEQNBR)	301
ファイル・ラベル (LABEL)	301
ダンプするデータ・ファイル情報 (TYPE)	302
ダンプするデータ・ブロック (DTABLK)	303
ダンプ・ボリューム・ラベル (VOLLBL)	303
コード (CODE)	304
テープ終了オプション (ENDOPT)	304
例	304
エラー・メッセージ	304

トレースのダンプ (DMPTRC) 307

パラメーター	307
メンバー (MBR)	307
ライブラリー (LIB)	308
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	308
テキスト'記述' (TEXT)	308
例	309
エラー・メッセージ	309

ユーザー・トレースのダンプ (DMPUSRTRC) 311

パラメーター	311
ジョブ名 (JOB)	311
トレース・レコード識別コード (TRCRCID)	312
出力 (OUTPUT)	312
組み込むスレッドID (SLTHD)	312
除外するスレッドID (OMTHD)	313
例	313
エラー・メッセージ	313

DOグループ (DO) 315

パラメーター	315
例	315
エラー・メッセージ	316

DO FOR (DOFOR) 317

パラメーター	317
CL変数名 (VAR)	317
取り出し値 (FROM)	318
宛先値 (TO)	318
値による (BY)	318

例	319
エラー・メッセージ	319
DO UNTIL (DOUNTIL)	321
パラメーター	321
条件 (COND)	321
例	321
エラー・メッセージ	322
DO WHILE (DOWHILE)	323
パラメーター	323
条件 (COND)	323
例	323
エラー・メッセージ	324
ジョブの切り離し (DSCJOB)	325
パラメーター	325
ジョブ・ログ (LOG)	326
回線切断 (DROP)	326
ジョブ名 (JOB)	326
重複ジョブ・オプション (DUPIJOBPT)	327
例	327
エラー・メッセージ	328
アクセス・コード表示 (DSPACC)	329
パラメーター	329
出力 (OUTPUT)	329
例	329
エラー・メッセージ	329
アクセス・コード権限表示 (DSPACCAUT)	331

パラメーター	331
ユーザー・プロファイル (USER)	331
出力 (OUTPUT)	331
例	332
エラー・メッセージ	332
活動事前開始ジョブの表示 (DSPACTPJ)	333
パラメーター	333
サブシステム (SBS)	333
プログラム (PGM)	333
出力 (OUTPUT)	334
例	334
エラー・メッセージ	334
活動プロファイル・リスト表示 (DSPACTPRFL)	337
パラメーター	337
出力 (OUTPUT)	337
例	337
エラー・メッセージ	338
活動化スケジュールの表示 (DSPACTSCD)	339
パラメーター	339
出力 (OUTPUT)	339
例	339
エラー・メッセージ	339
付録. 特記事項	341
商標	342
使用条件	343

ファイル削除 (DLTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファイル削除(DLTF)コマンドは、システムから1つまたは複数のファイルを削除します。

データベース（物理または論理ファイル）が削除される場合には、ファイルに入っているすべてのメンバーも削除されます。物理ファイルを削除できるのは、論理ファイルがそれに対応していない場合だけです。システム間通信機能(ICF)ファイルが削除される場合には、そのファイルに含まれるすべてのプログラム装置項目も削除されます。削除中のファイルがプログラムによって使用されている（ファイルがオープンされている）場合には、そのファイルは削除されません。

総称名による削除操作は、削除に適格でその総称名をもつすべてのファイルを削除します。削除できないファイルについては、診断メッセージが送信されます。次の理由により、ファイルが削除に不適格となる場合があります。

- 論理ファイルは、その基礎となっている物理ファイルを削除する前に削除しなければなりません。
- SQLビューは、それらの基礎となっている物理ファイル、SQLテーブル、またはSQLビューを削除する前に削除しなければなりません。

制約事項:

- ファイルのオブジェクト存在(*OBJEXIST)およびオブジェクト操作(*OBJOPR)権限が必要です。また、ファイルが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限も必要です。
- 物理ファイルを削除する場合で、論理ファイルがその物理ファイル中のデータを使用している場合には、最初に論理ファイルを削除しなければなりません。
- SQL具体化照会テーブルの選択リストに物理ファイルまたはSQLビューが参照されている場合には、DLTFは許可されません。最初に具体化照会テーブルが削除されなければなりません。
- デバッグ中にDLTFコマンドを入力する場合に、デバッグ開始(STRDBG)コマンドまたはデバッグ変更(CHGDBG)コマンドにUPDPROD(*NO)が指定されている場合には、データを含んでいてプロダクション・ライブラリーの中にある物理ファイルは削除することはできません。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ*SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。またこのコマンドは、タイプ*SNAの分散データ管理機能(DDM)ファイルにスレッド・セーフでもなく、SYSTEM(*RMT)またはSYSTEM(*FILETYPE)を指定すると正常に実行されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	
SYSTEM	システム	*LCL, *RMT, *FILETYPE	オプション
RMVCST	制約の除去	*RESTRICT, *REMOVE, *KEEP	オプション

トップ

ファイル (FILE)

これは必須パラメーターです。

削除する1つ以上のファイルを指定します。特定のファイル名または総称ファイル名を指定することができません。

参照制約の親または従属ファイルとして定義済みまたは確立済みのファイルが削除される可能性があります。削除されるファイルが従属ファイルの場合には、次の項目も除去されます。

- 従属ファイルについてのすべての制約関係
- 従属ファイルのすべての外部キーのアクセス・パスおよび外部キー

削除されるファイルが親ファイルの場合には、除去される制約関係を指定するために**制約の除去 (RMVCST)**パラメーターが使用されます。

修飾子1: ファイル

総称名 削除するファイルの総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が続く文字ストリングで指定できます。

名前 削除するファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、ライブラリーQGPLが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。オブジェクト名が指定されている（総称名ではなく）場合には、その名前で見つかった最初のオブジェクトが削除されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGGL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

トップ

システム (SYSTEM)

ファイルをローカル・システムから削除するかあるいはリモート・システムから削除するか、そのいずれかを指定します。

***LCL** ファイルはローカル・システムから削除されます。

***RMT** ファイルはリモート・システムから削除されます。ファイル (FILE)パラメーターにDDMファイルを指定しなければなりません。DDMファイルは、削除されるファイルを識別し、リモート・システムも識別します。

*FILETYPE

FILEパラメーターにDDMファイルが指定されていない場合には、ローカル・システムからファイルが削除されます。FILEパラメーターにDDMファイルが指定されている場合には、リモート・システムからDDMファイルのリモート・ファイルIDが削除されます。

トップ

制約の除去 (RMVCST)

参照制約の親ファイルを削除する時に、従属ファイルの関連セット中で除去される制約関係の数を指定します。

***RESTRICT**

制約関係が親ファイルと従属ファイルの間で定義済みまたは確立済みの場合には、親ファイルは削除されず、制約関係は除去されません。従属ファイルの外部キーのアクセス・パスも外部キーも除去されません。

***REMOVE**

親ファイルと従属ファイルの間の制約関係は除去されます。従属ファイルの対応する外部キーのアクセス・パス（存在し、共有されていない場合）および外部キーは除去されます。

***KEEP**

制約関係はもう確立されていませんが、制約定義は除去されません。従属ファイルの外部キーのアクセス・パスも外部キーも除去されません。

トップ

例

例1: 特定のファイルの削除

```
DLTF FILE(BILLING/ORDERS)
```

このコマンドは、ライブラリーBILLINGのORDERSという名前のファイルを削除します。このファイルは、BILLINGライブラリーで検索されるだけです。

例2: 参照制約の親ファイルの削除

```
DLTF FILE(BILLING/QUERIES) RMVCST(*KEEP)
```

このコマンドは、ライブラリーBILLINGのQUERIESという名前のファイルを削除します。QUERIESファイルは参照制約の親ファイルであるために、設定された参照制約は除去されますが、制約の定義は除去されません。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE**メッセージ

CPF0601

&2のファイル&1に対する操作は許可されていない。

CPF0605

&2の装置ファイル&1は、記憶域を解放して保管された。

CPF0607

ファイルが別のジョブによって削除された。

CPF0610

&2のファイル&1が使用可能でない。

CPF0675

&2の装置ファイル&1が使用中である。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF2190

リモート削除または名前変更要求を行うことはできない。

CPF320B

データベース・ファイル&1に対して操作が正しくない。

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF3219

&2のファイル&1のファイルまたはメンバーを削除することができない。

CPF3220

&2のファイル&1に対して操作を実行することはできない。

CPF323C

QRECOVERYライブラリーを割り振ることができなかった。

CPF324B

ファイル&1にディクショナリーを割り振ることができない。

CPF3252

マシン・ロックの最大数を超えた。

CPF326A

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF327F

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF3273

ファイルまたはメンバーは、作成、削除または変更されなかった。

トップ

フォント資源の削除 (DLTFNTRSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント資源削除(DLTFNTRSC)コマンドは、指定したライブラリーからフォント資源を削除します。フォント資源が見つかった場合には、それが削除されます。フォント資源が見つからなかった場合には、フォント資源を見つけることができなかったということを示すメッセージがユーザーに送られます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FNTRSC	フォント資源	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フォント資源	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

フォント資源 (FNTRSC)

削除するフォント資源を指定します。特定のフォント資源または総称フォント資源を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: フォント資源

総称名 削除するフォント資源の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称フォント資源名と同じ接頭部の名前をもつすべてのフォント資源が削除されます。

名前 削除するフォント資源の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

フォント資源を削除するために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGGL      QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

[トップ](#)

例

例1: 現行ライブラリーのフォント資源の削除

```
DLTFNTRSC  FNTRSC(*CURLIB/FNTRSC1)
```

このコマンドは、フォント資源FNTRSC1が現行ライブラリーに入っている場合は、これを削除します。

例2: すべてのライブラリーのフォント資源の削除

```
DLTFNTRSC  FNTRSC(*ALLUSR/FNTRSC1)
```

このコマンドは、すべてのユーザー・ライブラリーのFNTRSC1という名前のすべてのフォント資源を削除します。Qから始まるライブラリー(QPGLを除く) は検索されません。

例3: FDから始まるフォント資源の削除

```
DLTFNTRSC  FNTRSC(*LIBL/FD*)
```

このコマンドは、ジョブのライブラリー・リストでFDから始まるすべてのフォント資源を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

フォント・テーブルの削除 (DLTFNTTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント・テーブル削除(DLTFNTTBL)コマンドは、指定されたフォント・テーブルを削除します。

フォント・マッピング・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、印刷サービス機能(PSF)フィーチャーが必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FNTTBL	フォント・テーブル	修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: フォント・テーブル	名前, *PHFCS, *HPFCS, *PHCP, *HPCP	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

フォント・テーブル (FNTTBL)

削除するフォント・テーブルを指定します。

単一値

*PHFCS

印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのテーブルが削除されます。

*PHCP

印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが削除されます。

*HPFCS

ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのテーブルが削除されます。

*HPCP

ホスト常駐から印刷装置常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが削除されます。

修飾子1: フォント・テーブル

名前 印刷装置常駐から印刷装置常駐へのマッピング・テーブルが削除されます。

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルを削除する時には、フォント・テーブルの名前を指定しなければなりません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

*CURLIB

フォント・テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 フォント・テーブルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
DLTFNTTBL FNTTBL(MYLIB/MYFNTTBL)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBからMYFNTTBLという名前の印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント・マッピング・テーブルを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9805

ライブラリー&3のオブジェクト&2が壊れている。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

用紙定義の削除 (DLTFORMDF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

書式定義削除(DLTFORMDF)コマンドは、指定したライブラリーから書式定義を削除します。書式定義が見つかった場合には、それは削除されます。書式定義が見つからなかった場合には、書式定義を見つけることができなかったということを示すメッセージがユーザーに送られます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FORMDF	用紙定義	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 用紙定義	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

用紙定義 (FORMDF)

削除する書式定義を指定します。特定の書式定義または総称書式定義を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 用紙定義

総称名 削除する書式定義の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称書式定義と同じ接頭部の名前をもつすべての書式定義が削除されます。

名前 削除する書式定義の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

書式定義を削除するために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

[トップ](#)

例

例1:指定の書式定義の最初に現れる文字を削除

```
DLTFORMDF  FORMDF(*LIBL/FORMDF1)
```

このコマンドは、FORMDF1の最初に現れる文字をライブラリー・リストで見つかった場合に削除します。

例2:指定の書式定義のすべてのオカレンスを削除

```
DLTFORMDF  FORMDF(*ALLUSR/FORMDF1)
```

このコマンドは、すべてのユーザー・ライブラリーのFORMDF1という名前のすべての書式定義を削除します。Qから始まるライブラリー(QGPLライブラリーを除く) が検索されます。

例3: FDから始まる書式定義の削除

```
DLTFORMDF  FORMDF(*USERLIBL/FD*)
```

このコマンドは、すべてのユーザー・ライブラリーにおいてFDから始まるすべての書式定義を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

フィルターの削除 (DLTFTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フィルターの削除(DLTFTR)コマンドでは、指定したライブラリーからフィルター・オブジェクトが削除されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

フィルター (FILTER)

削除されるフィルターの修飾名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLXXXXX	QUSRIJS	QUSRVXRXXM
QGGL	QSRVAGT	QUSRINFSKR	
QGGL38	QSYS2	QUSRNOTES	
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND	
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA	
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR	
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS	
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS	
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI	

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

フィルター名

削除するフィルターの名前を指定してください。

総称*フィルター名

削除するフィルターの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。総称名を指定すると、名前がその総称名で始まり、ユーザーに権限のあるすべてのフィルターが削除されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なフィルター名と見なします。

[トップ](#)

例

```
DLTFTR FILTER(MYLIB/MYFILTER)
```

このコマンドは、フィルターMYFILTERをライブラリーMYLIBから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

図形記号セット削除 (DLTGSS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グラフィックス・シンボル・セット削除(DLTGSS)コマンドを用いて、1つまたは複数のライブラリーから1つまたは1グループのグラフィックス・シンボル・セットを削除することができます。

制約事項: 削除するグラフィックス・シンボル・セットのオブジェクト存在権をもっていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
GSS	図形記号セット	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 図形記号セット	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

図形記号セット (GSS)

削除するグラフィックス・シンボル・セット (複数も可) の名前およびライブラリーを指定します。特定のグラフィックス・シンボル・セットまたはグラフィックス・シンボル・セットの総称名を指定することができます。いずれのタイプでも任意にライブラリー名で修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

グラフィックス・シンボル・セット名

削除するグラフィックス・シンボル・セットの名前を指定してください。

総称*グラフィックス・シンボル・セット名

削除するグラフィックス・シンボル・セットの総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が続く文字ストリングで指定できます。

注: GSSパラメーターに総称名を指定した場合には、総称グラフィックス・シンボル・セットと名前の接頭部が同じであるグラフィックス・シンボル・セットがすべて削除されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、該当するグラフィックス・シンボル・セットを検索します。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

使用するライブラリーを指定します。ここで指定するライブラリーに対しては、その操作権限をもっていなければなりません。

トップ

例

```
DLTGSS  GSS(ADMUVTIP)
```

このコマンドは、システムからグラフィックス・シンボル・セットADMUVTIPを削除します。

トップ

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

DBCS変換辞書削除 (DLTIGCDCT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DBCS変換辞書削除(DLTIGCDCT)コマンドによって、指定した2バイト文字セット(DBCS)変換辞書がシステムから削除されます。この辞書には、英数字項目とそれらに関連したDBCSの語句が入っています。システムは、DBCS変換を行なう場合にDBCS変換辞書を参照します。

このコマンドを使用するためには、次の権限が必要です。

- このコマンドに対するオブジェクト操作権
- この辞書に対するオブジェクト操作権およびオブジェクト存在権
- 辞書が保管されているライブラリーに対するオブジェクト操作権

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IGCDCT	DBCS変換辞書	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: DBCS変換辞書	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

DBCS変換辞書 (IGCDCT)

削除される2バイト文字セット(DBCS)変換辞書およびそれが入れられているライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

辞書名 削除するDBCS変換辞書を指定してください。

総称*名

削除する辞書のグループを指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とそれに続くアスタリスク(*)からなる文字ストリングとして指定することができます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

辞書を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

辞書が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

例

```
DLTIGCDCT  IGCDCDCT(DBCSLIB/IGCDCT*)
```

このコマンドは、システムにライブラリーDBCSLIB中の名前が文字IGCDCTで始まる各DBCS変換辞書を削除させます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

DBCS分類テーブルの削除 (DLTIGCSRT)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DLTIGCSRT (漢字分類テーブル削除) コマンドは、漢字分類テーブル (オブジェクト・タイプ*IGCSRT) をシステムから削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IGCSRT	DBCS分類テーブル	修飾子リスト	オプション、位置 1
	修飾子 1: DBCS分類テーブル	名前	

[トップ](#)

DBCS分類テーブル (IGCSRT)

漢字分類テーブル・オブジェクトの名前を指定します。このテーブルは、ライブラリーQSYSに存在してなければなりません。

使用できる値は、次の通りです。

テーブル名

漢字分類テーブル・オブジェクトの名前。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

DBCSフォント・テーブルの削除 (DLTIGCTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DBCSフォント・テーブル削除(DLTIGCTBL)コマンドにより、指定したDBCSフォント・テーブルがシステムから削除されます。DBCSフォント・テーブルにはシステムで使用される外字のイメージが入っていて、装置で使用されるマトリックスに応じて各種のマトリックス・サイズで文字を表示および印刷するために使用されます。システムで使用されないドット・マトリックス・パターンで文字を表示および印刷するテーブルの削除を検討してください。テーブルを削除すると、システム記憶域が節減されます。テーブルを削除する前に、将来の使用に備えてテープまたはディスクにコピーしておくことも考慮してください。テーブルをテープまたはディスクにコピーするためには、DBCSフォント・テーブル・コピー(CPYIGCTBL)コマンドを参照してください。

追加の考慮事項:

システムに接続され現在オンに構成変更されている装置が使用している漢字フォント・テーブルは、削除しないでください。そのようなテーブルを削除すると、システムから次のものを識別するメッセージが送られてきます。

- 削除されたテーブルを使用している装置
- 削除しようとしているテーブルを使用している装置と同じ制御装置に接続されている装置
- 次回にそれらの装置で外字を印刷または表示しようとした時に損傷する制御装置

このような問題が起こった場合には、次のようにしてください。

1. 影響を受ける装置をオフに構成変更する (VRYCFGコマンド)。
2. 影響を受ける制御装置をオフに構成変更する。
3. 影響を受ける制御装置をオンに構成変更する。
4. 影響を受ける装置をオンに構成変更する。
5. 通常システム作業を続行する。

たとえば、日本語5555表示装置がオンに構成変更されている時には、QIGC2424 を削除しないでください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IGCTBL	DBCSフォント・テーブル	名前, QIGC2424, QIGC2424K, QIGC2424C, QIGC2424S, QIGC3232, QIGC3232S	オプション的, 定位置 1

[トップ](#)

DBCSフォント・テーブル (IGCTBL)

削除される2バイト文字セット(DBCS)フォント・テーブルの名前を指定します。

QIGC2424

24 X 24ドット・マトリックス・イメージの外字の表示および印刷に使用される日本語DBCSフォント・テーブルが削除されます。

QIGC2424C

24 X 24ドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される中国語DBCS フォント・テーブルが削除されます。

QIGC2424K

24 X 24ドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される韓国語DBCS フォント・テーブルが削除されます。

QIGC2424S

24 X 24ドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される中国語（簡体字）DBCSフォント・テーブルが削除されます。

QIGC3232

32 X 32ドット・マトリックス・イメージの外字の表示および印刷に使用される日本語DBCSフォント・テーブルが削除されます。

QIGC3232S

32 X 32ドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される中国語（簡体字）DBCSフォント・テーブルが削除されます。

QIGCRRCCCL

削除するDBCSフォント・テーブルの名前を指定してください。名前は常にQIGCRRCCCLという形式になっていなければなりません。*RR*はテーブル行のマトリックス・サイズ、*CC*はテーブル列のマトリックス・サイズ、*L*は任意選択の言語識別コードを示します。

[トップ](#)

例

```
DLTIGCTBL IGCTBL(QIGC2424)
```

このコマンドは、日本語DBCSフォント・テーブルQIGC2424を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8422

漢字フォント・テーブル&1を使用することはできない。

CPF8425

メッセージ&1で取り消し応答を受け取った。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

イメージ・カタログの削除 (DLTIMGCLG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログ削除(DLTIMGCLG)コマンドは、イメージ・カタログ・オブジェクト(*IMGCLG)をライブラリーQUSRSYSから削除して、関連付けられたイメージ・ファイルを任意に削除するために使用します。イメージ・ファイルは、イメージ・カタログ作成(CRTIMGCLG)コマンドに指定されたディレクトリーにあります。

制約事項:

- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- イメージ・カタログを削除するには、次の権限が必要です。
 1. ライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。
 2. イメージ・カタログに対する*OBJEXIST権限。
 3. イメージ・カタログ・パス名の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	必須, 定位置 1
KEEP	イメージ・ファイルの保持	*YES, *NO	オプションル
DEPIMGCLG	従属イメージ・カタログ	*NODELETE, *DELETE	オプションル

トップ

イメージ・カタログ (IMGCLG)

削除するイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

イメージ・ファイルの保持 (KEEP)

イメージ・カタログと関連したイメージ・ファイルを保持するかどうかを指定します。

***YES** イメージ・カタログと関連したイメージが削除されないことを指定します。

***NO** イメージ・カタログと関連したイメージを、そのイメージ・カタログを含むディレクトリーから削除することを指定します。

従属イメージ・カタログ (DEPIMGCLG)

すべての従属イメージ・カタログを削除するかどうかを指定します。

*NODELETE

すべての従属カタログが削除されないことを指定します。

*DELETE

すべての従属カタログが削除されることを指定します。

例

例1: イメージ・カタログを削除

```
DLTIMGCLG  IMGCLG(MYCLG)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**をライブラリー**QUSRSYS**から削除し、関連イメージ・ファイルをそのままにします。

例2: イメージ・カタログおよびすべての従属カタログの削除

```
DLTIMGCLG  IMGCLG(MYCLG) KEEP(*NO) DEPIMGCLG(*DELETE)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**、すべての従属カタログ、およびすべての関連イメージ・ファイルを削除します。

例3: イメージ・カタログおよび関連イメージ・ファイルの削除

```
DLTIMGCLG  IMGCLG(MYCLG) KEEP(*NO)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**およびすべての関連イメージ・ファイルをライブラリー**QUSRSYS**から削除します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFBC18

イメージ・カタログ&1が削除されなかった。

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

IPX記述削除 (DLTIPXD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IPX記述削除(DLTIPXD)コマンドはIPX記述を削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IPXD	IPX記述	修飾子リスト	必須, 定位置 1
	修飾子 1: IPX記述	総称名, 名前	

[トップ](#)

IPX記述 (IPXD)

削除されるIPX記述の名前を指定します。

IPX記述名

削除するIPX記述の名前を指定してください。

総称 *IPX記述名

IPX記述の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は, ユーザーが権限をもち, 総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ, システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

DLTIPXD IPXD(IPXDESC)

このコマンドは, IPXDESCという名前のIPX記述をシステムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26C2

活動IPX記述&1を変更または削除できない。

[トップ](#)

ジョブ記述削除 (DLTJOBDB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ記述削除 (DLTJOBDB)コマンドは、指定されたジョブ記述をシステムから削除します。すでに処理中のジョブはこのコマンドの影響を受けません。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 削除するジョブ記述に対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限、およびそのジョブ記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOBDB	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ記述	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBDB)

削除するジョブ記述の名前およびライブラリーを指定します。特定のジョブ記述または総称ジョブ記述を指定することができ、いずれの場合もライブラリー名で修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ記述

総称名 削除されるジョブ記述の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。このパラメーターに総称名を指定した場合には、総称ジョブ記述と同じ接頭部を持つ名前のすべてのジョブ記述が削除されます。

名前 削除するジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。特定のオブジェクト名（総称名ではなく）を指定した場合には、最初に見つかったその名前のオブジェクトだけが削除されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ライブラリー・リストのユーザー部分にリストされたライブラリーだけが検索されます。特定のオブジェクト名（総称名ではなく）を指定した場合には、最初に見つかったその名前のオブジェクトだけが削除されます。

*ALL 現在スレッドのライブラリー名スペースの一部となっている補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。これには、システムASP (ASP 1), すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。ユーザーの固有のQTEMPライブラリーだけが検索されます。スレッドの名前スペースのすべてのライブラリーの、指定された名前およびオブジェクト・タイプと一致したすべてのオブジェクトが削除されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLIB       #RPLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSCR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX  QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBDM     QUSRRDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
DLTJOB    JOBD(MYLIB/MYJOB)
```

このコマンドは、MYJOBという名前のジョブ記述をライブラリーMYLIBから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列削除 (DLTJOBQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ待ち行列削除(DLTJOBQ)コマンドは、指定されたジョブ待ち行列をシステムから削除します。

制約事項

- 削除するジョブ待ち行列に項目が入ってはいけません。待ち行列上のすべてのジョブが完了しているか、削除されているか、あるいは別のジョブ待ち行列に移動されていなければなりません。
- サブシステムをジョブ待ち行列に対して活動状態にすることはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

削除するジョブ待ち行列を指定します。特定のジョブ待ち行列または総称ジョブ待ち行列を指定することができます。いずれのタイプの場合も、任意にライブラリー名によって修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ待ち行列

総称名 削除するジョブ待ち行列の総称名を指定してください。総称名は、'AR*'などのように1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称ジョブ待ち行列名と同じ接頭部の名前を持つすべてのジョブ待ち行列が削除されます。削除するジョブ待ち行列が検索されるライブラリーは、指定するか、あるいは省略時の値として使用されるライブラリー修飾子によって決まります。

名前 削除するジョブ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***CURLIB**

ジョブ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
DLTJOBQ JOBQ(SPECIALJQ)
```

このコマンドは、ジョブ待ち行列SPECIALJQをシステムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1763

- 1 つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3324

&2のジョブ待ち行列&1は削除されなかった。ジョブ待ち行列は使用中です。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

[トップ](#)

ジャーナル削除 (DLTJRN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル削除(DLTJRN)コマンドにより、システムから指定された1つまたは複数のジャーナルが削除されます。

制約事項:

- このコマンドが出された時に、オブジェクトは指定されたジャーナルにジャーナル処理することができず、このジャーナルをコミットメント制御に使用したどのジョブもそのまま活動状態にしておくことができません。どのオブジェクトがジャーナル処理されているかどうか判別するためには、ジャーナル属性処理(WRKJRNA)コマンドを出してください。
 - いくつかのオブジェクトがジャーナル処理されている場合には、アクセス・パス・ジャーナル処理終了(ENDJRNAP)、ジャーナル処理終了(ENDJRN)、オブジェクトのジャーナル処理終了(ENDJRNOBJ)、および物理ファイルのジャーナル処理終了(ENDJRNPF)コマンドを出してジャーナル処理を終了してください。
 - このジャーナルをコミットメント制御用に使用したジョブでまだ活動状態のものがある場合には、活動状態の各ジョブごとにジョブ終了(ENDJOB)コマンドを出してください。
- ジャーナルが活動状態でそのソース・ジャーナルからジャーナル項目を受け取り中であるか、あるいはジャーナル項目を別のリモート・ジャーナルに複写中である場合には、そのジャーナルを削除することはできません。ジャーナルのリモート・ジャーナル処理情報を判別するためには、ジャーナル属性処理(WRKJRNA)コマンドを使用してください。リモート・ジャーナル処理の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JRN	ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

ジャーナル (JRN)

削除される1つまたは複数のジャーナル名およびライブラリーを指定します。特定のジャーナル名または総称ジャーナル名を指定することができ、いずれのタイプのジャーナル名も、ライブラリー名によって任意に修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル

ジャーナル名

削除されるジャーナルの名前を指定してください。ライブラリー名として*LIBLまたは*USRLIBLが指定されている場合には、この名前で見つかった最初のジャーナルだけが削除されます。ライブラリー名として*ALLUSRまたは*ALLが指定された場合には、指定した名前別にジャーナル・オブジェクトを複数のライブラリーから削除することができます。

総称*ジャーナル名

削除されるジャーナルの総称名を指定します。総称名は、1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえばABC*など）として指定できます。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX  QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
```

QMQM DATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR
QMQM PROC	QUSRBRM	QUSR RDARS
QPFR DATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

例

DLTJRN JRN(MYLIB/JRNLA)

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのJRNLAという名前のジャーナルをシステムから削除します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2153

ライブラリーQSYSのジャーナルQAUDJRNは削除されない。

CPF2154

タイプ権限ホルダーのオブジェクトを表示することができません。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF70EA

&2のジャーナル&1は削除できない。

CPF70E1

&2のジャーナル&1は削除できない。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF7021

&2のジャーナル&1は削除できない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

[トップ](#)

ジャーナル・レシーバー削除 (DLTJRNRCV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル・レシーバー削除(DLTJRNRCV)コマンドは、指定されたジャーナル・レシーバーをシステムから削除し、そのジャーナル・レシーバーに割り振られた記憶スペースを解放します。出口点 QIBM_QJO_DLT_JRNRCVはDLTJRNRCVコマンド用に用意されています。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter)で、API解説(英文)を参照してください。

制約事項:

- このコマンドを出す時には、ジャーナル・レシーバーがジャーナルに接続されてはいけません。
- リモート・ジャーナルに接続されたジャーナル・レシーバーを削除しようとして、そのリモート・ジャーナルが活動状態でジャーナル項目を受け取っていないか、あるいはジャーナル項目を複製していて、DLTOPT(*IGNINQMSG)が指定されていない場合には、照会メッセージ(CPA705E)が要求元のワークステーションに送られます。この要求がバッチ・ジョブから行われた場合には、メッセージはシステム操作員に送られます。この照会メッセージには自動的に応答することができます。詳細については、ジョブ記述作成(CRTJOB)コマンドのINQMSGRPYパラメーターを参照してください。
- ジャーナル・レシーバーは、損傷がない場合、あるいはその二重レシーバーが損傷している場合は、オンライン・レシーバーの連鎖の中間にあってはなりません。(レシーバーの範囲内でギャップが生じないようにするために、レシーバーは切り離れた順序と同じ順序で削除しなければなりません。)
- 保管が済んでいないジャーナル・レシーバーを削除しようとして、DLTOPT(*IGNINQMSG)が指定されていない場合には、照会メッセージ(CPA7025)が要求元のワークステーションに送られます。この要求がバッチ・ジョブから行われた場合には、メッセージはシステム操作員に送られます。この照会メッセージには自動的に応答することができます。詳細については、ジョブ記述作成(CRTJOB)コマンドのINQMSGRPYパラメーターを参照してください。
- *IGNEXITPGM特殊値を指定するためには、*ALLOBJ権限および*SECADM権限が必要です。
- 出口プログラムが出口点QIBM_QJO_DLT_JRNRCVに次のように登録されている場合には、このコマンドは条件付きでスレッド・セーフになります。
 - 出口プログラムが登録されていない場合、あるいはDLTOPT(*IGNEXITPGM)が指定されている場合には、このコマンドはスレッド・セーフです。
 - すべての出口プログラムがスレッド・セーフであり、マルチスレッド・ジョブで実行されるように登録されている場合には、コマンドはスレッド・セーフです。
 - マルチスレッド・ジョブで実行されるように登録されていない出口プログラムをマルチスレッド・ジョブで実行しようとする、コマンドは失敗し、ジャーナル・レシーバーは削除されません。

ADDEXITPGMコマンドにMLTTHDACNパラメーターを使用して、出口プログラムがマルチスレッド・ジョブで実行可能であるかどうかを指定してください。詳細については、ADDEXITPGMコマンドを参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JRNRCV	ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル・レシーバー	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	
DLTOPT	オプション	単一値: *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *IGNINQMSG, *IGNEXITPGM, *IGNTGTRCV	オプション

トップ

ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)

削除されるジャーナル・レシーバー(1つまたは複数)の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル・レシーバー

ジャーナル・レシーバー名

削除されるジャーナル・レシーバー名およびライブラリーを指定します。ライブラリー名として *LIBLまたは*USRLIBLが指定されている場合には、この名前で見つかった最初のジャーナル・レシーバーだけが削除されます。ライブラリー名として*ALLUSRまたは*ALLが指定された場合には、指定した名前別にジャーナル・レシーバー・オブジェクトを複数のライブラリーから削除することができます。

総称*ジャーナル・レシーバー名

削除しているジャーナル・レシーバーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGGL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

オプション (DLTOPT)

ジャーナル・レシーバーが削除される前に追加の検査を実行するかどうかを指定します。

*NONE

ジャーナル・レシーバー削除は、ジャーナル・レシーバーが削除される前に実行される保護検査のどれも無視しないで試みられます。

*IGNTGTRCV

ターゲット・システムでただちにダウンストリームとなる、このジャーナルと対応したリモート・ジャーナルがすべてこのジャーナル・レシーバーの完全なコピーを持っているかを検査しません。削除操作は、リモート・ジャーナルのどれかが完全なコピーを持っていない場合でも続行されます。ジャーナル・レシーバーに対するこの保護が適用されるのは、リモート・ジャーナル除去(QJOREMOVEREMOTEJOURNAL) APIを使用して除去されるまで、あるいはジャーナルが除去されるまで、最初にリモート・ジャーナルがリモート・ジャーナル追加(QJOADDREMOTEJOURNAL) APIを使用して追加された場合だけです。APIの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説(英文)を参照してください。

*IGNINQMSG

照会メッセージを無視します。照会メッセージCPA7025は、このレシーバーが完全に保管されていない場合(たとえば、レシーバーが切り離された後の保管など)でもユーザーに表示されません。

また、照会メッセージCPA705Eは、レシーバーがリモート・ジャーナルに接続されている場合でもユーザーに表示されません。削除操作は続行されます。

***IGNEXITPGM**

ユーザー出口プログラムを無視します。このジャーナル・レシーバーを削除することができるかどうかに関する判断には、出口点QIBM_QJO_DLT_JRNRCVに登録済みのユーザー出口プログラムはどれも呼び出されず、それに含まれることもありません。

トップ

例

DLTJRNRCV JRNRCV(MYLIB/JRNRCCLA)

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのジャーナル・レシーバーJRNRCCLAをシステムから削除します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF70ED

出口プログラムのためにレシーバーは削除されなかった。理由コードは&7です。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF7022

接続中にジャーナル・レシーバー&1を削除することはできない。

CPF7023

&2のジャーナル・レシーバー&1を削除することはできない。

CPF7024

&2のレシーバー&1は削除されなかった。理由コードは&3です。

CPF7025

&2のレシーバー&1の削除は取り消された。

CPF705B

OPTION(*IGNEXITPGM)を指定する権限がない。

CPF705E

&2のレシーバー&1の削除は取り消された。

CPF705F

レシーバーが&8個のリモート・ジャーナルに複製されていません。

CPF707C

理由コード&5のためにジャーナル・レシーバー&1は削除できない。

CPF707D

ライブラリー&2のジャーナル・レシーバー&1は削除されなかった。

CPF707E

ライブラリー&2のジャーナル・レシーバー&1は削除されなかった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

トップ

JAVAプログラムの削除 (DLTJVAPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

JAVAプログラム削除(DLTJVAPGM)コマンドは、JAVAクラス・ファイル、JARファイル、またはZIPファイルと関連したJAVAプログラムを削除します。

JAVAプログラムが指定されたファイルと関連していない場合には、通知メッセージJVAB526が送られ、コマンド処理は続行されます。

制約事項:ファイルは次のファイル・システムの1つに入っていないければなりません: QOPENSYS,"ROOT", またはユーザー定義ファイル・システム。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLSF	クラス・ファイルまたはJARファイル	パス名	必須, 定位置 1
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE, *ALL	オプション

[トップ](#)

クラス・ファイルまたはJARファイル (CLSF)

関連したJAVAプログラムを削除する元になるクラス・ファイル名を指定します。クラス・ファイル名は1つまたは複数のディレクトリー名によって修飾することができます。

クラス・ファイル名

使用するクラス・ファイル（1つまたは複数）を識別するクラス・ファイルの名前またはパターンを指定してください。パターンは名前の最後の部分に指定することができます。アスタリスクは任意の数の文字と一致し、疑問符は単一の文字と一致します。名前が修飾されているか、あるいは名前にパターンが含まれている場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。修飾されたクラス・ファイル名の例は、'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYCLASSNAME.CLASS'です。パターンの例は'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYCLASS*.CLASS'です。

JARファイル名

使用するJARまたはZIPファイル（1つまたは複数）を識別するJAVAアーカイブ(JAR)ファイルの名前またはパターンを指定してください。ファイル名が'.JAR'または'.ZIP'で終わっていると、ファイルはJARファイルであると見なされます。パターンは名前の最後の部分に指定することができます。アスタリスクは任意の数の文字と一致し、疑問符は単一の文字と一致します。名前が修飾されているか、あるいは名前にパターンが含まれている場合には、アポストロフィで囲まなければなり

ません。修飾されたJARファイル名の例は'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYAPPNAME.JAR'です。
パターンの例は'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYAPP*.ZIP'です。

[トップ](#)

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

CLSFキーワードと一致するファイルを探そうとするときにディレクトリー・サブツリーを処理するかどうかを指定します。

*NONE

オブジェクト名のパターンと一致するファイルのみを処理します。サブツリーは処理されません。ディレクトリーにサブディレクトリーが含まれている場合には、サブディレクトリーもサブディレクトリー内のオブジェクトも処理されません。

***ALL** CLSFパラメーターで指定された名前と一致するファイルのJAVAプログラムを作成するために、CLSFに指定されたパスのサブツリー全体が処理されます。

[トップ](#)

例

```
DLTJVAPGM CLSF('/PROJECTA/MYJAVACLASSNAME.CLASS')
```

このコマンドは、クラス・ファイルMYJAVACLASSNAMEと関連付けたJAVAプログラムを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

JVAB526

"&1"に対するJAVAプログラムを削除することができません。

JVAB527

&1のJAVAプログラムが削除された。&2のJAVAプログラムは削除されていません。

JVAB535

監視されていない例外を受け取った。

[トップ](#)

ライブラリー削除 (DLTLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー削除(DLTLIB)コマンドでは、指定したライブラリーの中のすべてのオブジェクトを削除してから、そのライブラリーをシステムから削除します。削除されるライブラリーにオブジェクトが入っている場合は、このコマンドはまずオブジェクトをすべて削除してから、ライブラリーを削除します。

ライブラリー内のすべてのオブジェクトを削除する権限がない場合には、権限のあるオブジェクトだけが削除されます。この場合には、ライブラリーおよびライブラリーの中のその他のオブジェクトは、いずれも変更されないまま残ります。ライブラリー中のオブジェクトが使用中である（別のスレッドまたはジョブによってロックされている）場合には、そのオブジェクトは削除できません。

ライブラリーが損傷している場合には、損傷を解消しないで、削除することはしないでください。ほとんどの場合、初期プログラム・ロード(IPL)手順を開始してユーザー・ライブラリー (QGPLライブラリーを含む) を再作成することにより、損傷を解決できます。それでもまだ損傷がある場合には、ライブラリーを削除してください。損傷したライブラリーの代わりにそのライブラリーの保管済みバージョンを復元するか、またはそのライブラリーを再作成することができます。

制約事項:

1. ライブラリーを削除するためには、指定したライブラリーに対する使用(*USE)およびオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限、およびそこに入っているすべてのオブジェクトに対する*OBJEXIST権限が必要です。ライブラリーに対する*OBJEXIST権限がない場合には、何も削除されません。ライブラリー内の1つまたは複数のオブジェクトに対する*OBJEXIST権限がない場合には、それらのオブジェクトおよびライブラリーは削除されません。
2. ライブラリーが現行スレッドのライブラリー・リスト内にある場合には、そのライブラリーを削除することはできません。
3. システムで活動状態である1次スレッドのライブラリー・リストにライブラリーが入っている場合には、QLIBLCKLVLシステム値がそのライブラリー・リスト内のライブラリーをロックするように設定されていると、そのライブラリーは削除できません。
4. このコマンドは、QQALIB, QRECOVERY, QRCYXXXXX, QSPL, QSPLNNNN, QSYS, QSYSXXXXX, QSYSCGI, QSYS2, QSYS2XXXXX, QTEMP, SYSIBM,またはSYSIBXXXXXライブラリーを削除するために使用することはできません('XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号で、'NNNN'は基本ユーザーASP か1次または2次ASPの番号です)。
5. QDOCライブラリーは、削除されると、次のIPL時にもう一度作成されます。
6. このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。次の制約事項が適用されます。
 - マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ*SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *CURASPGRP, *SYSBAS	オプション

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

削除されるライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 削除されるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

削除されるライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。このライブラリーがスレッドのライブラリー名スペースの一部でない場合には、必ず正しいライブラリーがライブラリー削除操作のターゲットになるようにするために、このパラメーターを指定しなければなりません。

*
- 現在、スレッドのライブラリー・ネーム・スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32),およびASPグループ内のすべての1次および2次ASP (スレッドがASPグループを持っている場合)が含まれます。

*CURASPGRP

スレッドがASPグループをもっている場合には、そのASPグループ内にある1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)と定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドがASPグループを持っていても、1次および2次ASPは検索されません。

名前 ライブラリーを見つけるために検索される1次または2次ASP装置の名前を指定してください。この1次または2次ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに変更することによって)、「使用可能」の状況になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)と定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。

注: 特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、ASPグループ中の各ASP装置に対する*USE権限が必要です。

[トップ](#)

例

例1:ライブラリーの削除

DLTLIB LIB(W)

このコマンドは、ライブラリーWをそのすべてのオブジェクトが削除された後で削除します。ライブラリーWにオブジェクトがあり、そのすべてのオブジェクトを削除する権限がある場合には、ライブラリーWおよびそのすべてのオブジェクトが削除されます。すべてのオブジェクトを削除する権限がない場合には、権限のあるオブジェクトだけが削除され、ライブラリーは削除されません。

例2:独立補助記憶域プール(ASP)中のライブラリーの削除

DLTLIB LIB(INVENTORY) ASPDEV(SALES)

このコマンドは、SALESという名前の独立補助記憶域プール(ASP)にあるライブラリーINVENTORYをそのすべてのオブジェクトが削除された後で削除します。SALES ASPは活動化されて（ASP装置をオンに構成変更することによって）、状況が「使用可能」になっていなければなりません。ライブラリーINVENTORYにオブジェクトがあり、そのすべてのオブジェクトを削除する権限がある場合には、ライブラリーINVENTORYおよびそのすべてのオブジェクトが削除されます。すべてのオブジェクトを削除する権限がない場合には、権限のあるオブジェクトだけが削除され、ライブラリーは削除されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA030

オブジェクトはすでに使用中である。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF210D

ライブラリー&1は使用中である。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2129

システム・ライブラリー&1の消去または削除が取り消された。

CPF2161

ライブラリー&1の一部のオブジェクトを削除することができない。

CPF2166

ライブラリー名&1は無効である。

CPF2167

ライブラリー&1は、ライブラリー・リストに入っているため、削除することができない。

CPF2168

ライブラリー&1は削除されなかった。

CPF218C

&1は1次または2次ASPではない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF8122

ライブラリー&4に&8の損傷がある。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

[トップ](#)

ライセンス・プログラムの削除 (DLTLICPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライセンス・プログラム削除(DLTLICPGM)コマンドは、ライセンス・プログラムを構成するオブジェクトを削除するために使用されます。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. このコマンドを使用するためには、*ALLOBJ権限をもっているか、あるいは機密保護担当者から受ける特定権限をもっていなければなりません。
3. ユーザーがシステム配布ディレクトリーに登録されている場合にだけ、いくつかのライセンス・プログラムを削除することができます。この制約の説明については、それぞれのライセンス・プログラムの資料を参照してください。
4. ライセンス・プログラム5722SS1 *BASE (オペレーティング・システム) および5722SS1オプション1 (拡張基本サポート) およびオプション3 (拡張基本ディレクトリー・サポート) は、削除することができません。
5. オペレーティング・システムの2次言語ライブラリーを削除するためには、LICPGMメニューおよびオペレーティング・システムのオプション1および3を使用しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LICPGM	プロダクト	文字値	必須, 定位置 1
OPTION	削除する任意選択部分	*ALL, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09	オプション
RLS	リリース	文字値, *ONLY, *ALL	オプション
LNG	ライセンス・プログラムの言語	文字値, *ALL	オプション

トップ

プロダクト (LICPGM)

削除されるライセンス・プログラムの7桁のIDを指定します。ユーザーは、削除するライセンス・プログラムを1つしか選択できません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

削除する任意選択部分 (OPTION)

プロダクトプロンプト(LICPGMパラメーター) に指定されたライセンス・プログラムのどの部分が削除されるかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** プロダクトプロンプト(LICPGMパラメーター) にリストされたライセンス・プログラムと関連したすべての部分（任意選択部分および基本部分の両方）が削除されます。

注: ライセンス・プログラム5722SS1を指定した場合には、オプション1および3を除く任意選択部分だけが削除されます。その他のライセンス・プログラムを指定した場合には、すべての部分が削除されます。

任意選択部分番号

削除したいリストされたライセンス・プログラムの任意選択部分と対応する番号を指定してください。

[トップ](#)

リリース (RLS)

ライセンス・プログラムで削除するバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ONLY

ライセンス・プログラム・オプションに導入されたバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを削除します。

***ALL** ライセンス・プログラムに導入されたすべてのバージョンを削除します。

リリース・レベル

VXRYMZの形式でリリース・レベルを指定してください。ここで、VXはバージョン番号、RYはリリース番号、そしてMZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

[トップ](#)

ライセンス・プログラムの言語 (LNG)

LICPGMパラメーターに指定されたライセンス・プログラムで削除される各国語バージョン(NLV)オブジェクトを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** LICPGM, OPTION,およびRLSパラメーターに指定されたライセンス・プログラムのすべてのNLVオブジェクトおよびプログラム・オブジェクトが削除されます。

機能コード

削除される各国語バージョン(NLV) IDを指定してください。指定したNLVだけが削除されます。ライセンス・プログラムのプログラム・オブジェクトは削除されません。弊社提供の言語機能コードはINSTALL, UPGRADE, OR DELETE I5/OS AND RELATED SOFTWARE BOOK (SC41-5120)にリストされているか、またはGO LICPGM,オプション20を使用して表示することができます。

[トップ](#)

例

例1:すべてのライセンス・プログラム・オブジェクトの削除

```
DLTLICPGM LICPGM(5716WP1)
```

このコマンドは、5716WP1ライセンス・プログラムに関連したすべてのオブジェクトを削除します。

例2:特定のライセンス・プログラム・オブジェクトの削除

```
DLTLICPGM LICPGM(5716CB1) LNG(2929)
```

このコマンドは、ライセンス・プログラム5716CB1のすべてのオプションでドイツ語版(NLV 2929)オブジェクトのみを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3875

ライセンス・プログラム&1オプション&2は削除されなかった。

[トップ](#)

回線記述の削除 (DLTLIND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述の削除(DLTLIND)コマンドは、指定された回線記述を削除します。回線記述は、これを削除するためにこのコマンドが出される前に、オフラインに構成変更されなければなりません。

注: フレーム・リレー・ネットワーク・インターフェースに接続されている回線を削除している場合には、ネットワーク・インターフェース(NWI)をオフラインに切り替えなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	総称名, 名前	必須, 定位置 1

トップ

回線記述 (LIND)

削除する1つまたは複数の回線記述の名前を指定します。特定の回線記述または総称の回線記述を指定することができます。

名前 削除したい回線記述の名前を指定してください。

総称名 削除する回線記述の総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

トップ

例

```
DLTLIND LIND(LINE01)
```

このコマンドは、LINE01という名前の回線の回線記述をシステムから削除します。

削除される回線記述に関連の制御装置記述がある場合には、それらが切り離され、その制御装置名を示すメッセージがシステム操作員に送られます。切り離された制御装置記述は、その名前が回線記述作成コマンドに指定されれば新しい回線記述に関連付けられます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF26AB

回線&1はオンに構成変更中に削除することはできない。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2627

制御装置記述は前に削除されている。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2668

オブジェクト記述は削除されなかった。

[トップ](#)

LINUXサーバーの削除 (DLTLNXSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

LINUXサーバーの削除 (DLTLNXSVR)コマンドは、指定されたLINUXネットワーク・サーバー記述およびLINUXサーバーの導入 (INSLNXSVR)コマンドによって作成した関連オブジェクトをすべて削除します。これらの関連オブジェクトには、回線記述、TCP/IPインターフェース、サーバー記憶スペース、およびLINUXサーバー導入(INSLNXSVR)コマンドによって作成されたシステム作成のネットワーク・サーバー記憶スペースがあります。DLTLNXSVRコマンドを出す前に、ネットワーク・サーバーをオフに構成変更しなければなりません。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)および全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWSD	ネットワーク・サーバー記述	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ネットワーク・サーバー記述 (NWSD)

削除するネットワーク・サーバー記述を指定します。

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

名前 削除するネットワーク・サーバー記述の名前を指定します。ネットワーク・サーバー記述名は最大8文字とすることができます。

[トップ](#)

例

DLTLNXSVR NWSD(RHEL3MAR)

このコマンドはLINUXサーバーRHEL3MARと、その関連のすべてのオブジェクトを削除します。これにはネットワーク・サーバー記述(*NWSD)オブジェクト、回線記述(*LIND)オブジェクト、およびRHEL3MAR1およびRHEL3MAR2の名前の2つのネットワーク・サーバー記憶スペース(*NWSSTG)オブジェクトも含まれます。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

NTA1004

&2コマンドには&3特殊権限が必要です。

CPFA473

ネットワーク・サーバー&1はオフに構成変更しなければならない。

CPF26AE

ネットワーク・サーバー記述&1が見つからない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

ロケール削除 (DLTLOCALE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ロケール削除(DLTLOCALE)コマンドは指定されたロケールを削除します。

ロケールの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「グローバル化」情報を参照してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LOCALE	ロケール名	パス名	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ロケール名 (LOCALE)

削除されるロケールのパス名を指定します。

[トップ](#)

例

```
DLTLOCALE LOCALE('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/USLOCALE.LOCALE')
```

このコマンドは、MYLIBライブラリー中のUSLOCALEという名前のロケールをシステムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

媒体定義の削除 (DLTMEDDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

媒体定義削除(DLTMEDDFN)コマンドは、指定された媒体定義をシステムから削除します。

制約事項:

- 媒体定義に対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限と、媒体定義が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MEDDFN	媒体定義	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 媒体定義	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

媒体定義 (MEDDFN)

削除する媒体定義を指定します。

修飾子1: 媒体定義

総称名 削除する媒体定義の総称名を指定します。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称媒体定義名と同じ接頭部をもつ名前のすべての媒体定義が削除されます。

名前 削除する媒体定義の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、削除する媒体定義を見つけるためにQGPLが使用されます。

*USRLIBL

ライブラリー・リストのユーザー部分にリストされたライブラリーだけが検索されます。特定の媒体定義名が指定された(総称名の代りに)場合には、その名前で見つかった媒体定義だけが削除されます。

*ALL QSYSを含むシステム上のすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSCR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM    QUSRRDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 媒体定義が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

例

```
DLTMEDDFN  MEDDFN(LIBA/MEDDFNA)
```

このコマンドは、LIBAという名前のライブラリーのMEDDFNAという名前の媒体定義をシステムから削除します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

管理コレクションの削除 (DLTMGTCOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

管理収集削除(DLTMGTCOL)コマンドは、システムから管理収集を削除します。このコマンドを入力するユーザーは、削除する管理収集に対する*OBJEXIST権限および*USE権限をもっていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MGTCOL	管理コレクション	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 管理コレクション	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

管理コレクション (MGTCOL)

削除する管理収集の名前およびライブラリーを指定します。特定または総称の管理収集を指定することができます。どちらのタイプもライブラリーで任意に修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGGL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSR RDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

指定できるユーザー空間の値は次の通りです。

管理収集名

削除する管理収集の名前を指定してください。

総称*管理収集名

管理収集の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。総称名が指定されている場合には、名前が総称名で始まっていてユーザーが権限を持っているすべての管理収集が削除されます。

[トップ](#)

例

```
DLTMGTCOL  MGTCOL(MYLIB/Q099365001)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBから、ライブラリーに入っているQ099365001という名前の管理収集を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

メニュー削除 (DLTMNU)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メニュー削除(DLTMNU)コマンドは、指定されたメニューをシステムから削除します。

注: このコマンドによって、表示装置ファイル(*DSPF)メニューに関連した表示装置ファイルおよびメッセージ・ファイルを削除するか、あるいはプログラム(*PGM)メニューに関連したプログラムを削除することもできます。

制約事項:

- メニューに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST),オブジェクト管理(*OBJMGT),およびオブジェクト操作(*OBJOPR)権限と、メニューが入っているライブラリーに対する使用(*USE)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MENU	メニュー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メニュー	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	
DLTREFOBJ	参照されたオブジェクトの削除	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *DSPF, *MSGF, *PGM	オプション

トップ

メニュー (MENU)

削除する1つまたは複数のメニューを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メニュー

総称名 削除するメニューの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、その総称メニュー名と同じ接頭部の名前を持つすべてのメニューが削除されます。

名前 削除するメニューの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されません。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM     QUSRDRDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

参照されたオブジェクトの削除 (DLTREFOBJ)

メニューによって参照される表示装置ファイル、メッセージ・ファイル、またはプログラム・オブジェクトが削除されることを指定します。TYPE(*DSPF)メニューだけが表示装置ファイルまたはメッセージ・ファイルを参照することができ、TYPE(*PGM)メニューだけがプログラムを参照することができます。

注: メニューに指定された現行ライブラリーおよびプロダクト・ライブラリーは、オブジェクトの検索および削除に使用されません。

単一値

*NONE

メニューによって参照されるオブジェクトはどれも削除されません。

***ALL** メニューによって参照されるすべての表示装置ファイル、メッセージ・ファイル、およびプログラム・オブジェクトが削除されます。

その他の値（最大3個指定可能）

***DSPF** メニューによって参照される表示装置ファイルが削除されます。

***MSGF**

メニューによって参照されるメッセージ・ファイルが削除されます。

***PGM** メニューによって参照されるプログラムが削除されます。

トップ

例

例1:メニューのみを削除

```
DLTMNU MENU(FINLIB/ARMENU)
```

このコマンドは、名前ARMENUのメニューを名前FINLIBライブラリーから削除します。

例2:画面およびメッセージ・ファイルを削除

```
DLTMNU MENU(EXLIB/TEST) DLTREFOBJ(*DSPF *MSGF)
```

このコマンドは、名前TESTのメニューを名前EXLIBライブラリーから削除します。また、名前TESTのメニューと関連した表示装置ファイルおよびメッセージ・ファイルも削除します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2107

ライブラリーは消去または削除されなかった。機能チェックが起きました。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

モジュールの削除 (DLTMOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モジュール削除(DLTMOD)コマンドは、コンパイルされたモジュールまたはモジュールのグループを削除します。モジュールがバインド・ディレクトリーと関連している場合には、このモジュールのバインド・ディレクトリー内の項目は、削除の後では無効となります。

制約事項:

- モジュールに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限およびそのモジュールの保管先のライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MODULE	モジュール	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: モジュール	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

モジュール (MODULE)

削除するモジュールを指定します。特定のモジュールまたは総称を指定することができます。いずれのタイプも、ライブラリー名を指定して任意に修飾することができます。

注: 特定のライブラリーについてすべてのモジュール・オブジェクトを除去するには、RMVLNK OBJLNK('QSYS.LIB/LIBNAME.LIB/*.MODULE')を使用することができます。ここで、LIBNAMEはすべてのモジュールの削除元のライブラリーの名前です。詳細については、RMVLNKコマンドを参照してください。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: モジュール

総称名 削除するモジュールの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。総称名が指定された場合には、その総称名で始まる名前のモジュールで、それに対してユーザーが権限をもっているすべてのモジュールが削除されます。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全なモジュール名と見なします。

名前 削除するモジュールの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLIB       #SDALIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
DLTMOD  MODULE(XYZ/M*)
```

このコマンドは、文字Mで始まっているライブラリーXYZ内のモジュールのすべてを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPFA030

オブジェクトはすでに使用中である。

CPFE007

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

[トップ](#)

モード記述削除 (DLTMOOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モード記述削除(DLTMOOD)コマンドは、指定されたモード記述を削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MOOD	モード記述	修飾子リスト	必須, 定位置 1
	修飾子 1: モード記述	総称名, 名前	

[トップ](#)

モード記述 (MOOD)

削除する1つまたは複数のモード記述の名前を指定します。特定のモード記述または総称のモード記述を指定することができます。

モード記述名

削除したいモード記述の名前を指定してください。

総称*モード記述名

削除したいモード記述の総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

```
DLTMOOD MOOD(MODE01)
```

このコマンドは、モード記述MODE01をシステムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

[トップ](#)

メッセージ・ファイル削除 (DLTMSGF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ・ファイル削除(DLTMSGF)コマンドでは、指定されたメッセージ・ファイルを、ファイルに記憶されているすべてのメッセージ記述を含めて、システムから削除します。このファイルを使用するメッセージが待ち行列上に存在する場合には、それらのメッセージにとって使用可能なメッセージ・テキストはありません。

制約事項:指定されたメッセージ・ファイルを削除するには、そのファイルに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が必要です。弊社提供のメッセージ・ファイルであるQCPFMSG (OS/400メッセージ用) およびライセンス・プログラム・メッセージ・ファイル(QRPGMSGなど)は削除できません(ただし、機密保護担当者によって認可された場合は別です)。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

メッセージ・ファイル (MSGF)

削除する1つ以上メッセージ・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メッセージ・ファイル

メッセージ・ファイル名

削除するメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

総称*メッセージ・ファイル名

削除するメッセージ・ファイルの総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称メッセージ・ファイル名と同じ接頭部の付いた名前を持つすべてのメッセージ・ファイルが削除されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、ライブラリーQGPLが使用されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

例

```
DLTMSGF  MSGF(INV)
```

このコマンドは、INVという名前のメッセージ・ファイルを削除します。INVに保管されているすべてのメッセージ記述も除去されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列削除 (DLTMSGQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ待ち行列削除(DLTMSGQ)コマンドでは、指定されたメッセージ待ち行列およびそれらのメッセージ待ち行列の中のすべてのメッセージを削除します。待ち行列の中の応答を必要とするメッセージは、そのメッセージによって指定された省略時の応答を用いて応答されます。メッセージ待ち行列が別のジョブによって使用中である場合は、メッセージ待ち行列は削除できません。

制約事項:

1. メッセージ待ち行列に対する使用(*USE),オブジェクト存在(*OBJEXIST),および削除(*DLT)権限が必要です。
2. メッセージ待ち行列が入っているライブラリーに対する読み取り(*READ)権限が必要です。
3. システム操作員メッセージ待ち行列(QSYSOPR)およびワークステーション・メッセージ待ち行列を削除することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGQ	メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

削除する1つ以上のメッセージ待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メッセージ待ち行列

メッセージ待ち行列名

削除するメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

総称*メッセージ待ち行列名

削除するメッセージ待ち行列の総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称メッセージ待ち行列名と同じ接頭部の付いた名前を持つすべてのメッセージ待ち行列が削除されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLIB       #RPLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

例

```
DLTMSGQ  MSGQ(JONES)
```

このコマンドは、JONESという名前のメッセージ待ち行列を削除します。JONES待ち行列に保管されているメッセージも除去されます。メッセージ待ち行列を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2403

&2にメッセージ待ち行列&1が見つからない。

CPF2408

メッセージ待ち行列&1は認可されていない。

CPF2451

メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。

CPF2477

メッセージ待ち行列&1は現在使用中である。

CPF2505

ワークステーション・メッセージ待ち行列を削除することはできない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

ネットワーク・ファイル削除 (DLTNETF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ファイル削除(DLTNETF)コマンドは、到着したネットワーク・ファイルのユーザーの待ち行列からファイル(1つまたは複数)を削除します。機密保護担当者権限をもつユーザーは、どのユーザーに送信されたファイルでも削除することができます。機密保護担当者以外のユーザーは、自分または自分のグループ・プロファイル宛に送信されるファイルだけを削除することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	文字値	必須, 定位置 1
MBR	メンバー	文字値, <u>*ONLY</u> , *ALL	オプション, 定位置 2
NBR	ファイル番号	整数, <u>*LAST</u> , *ONLY, *ALL	オプション, 定位置 3
USER	ユーザー	名前, <u>*CURRENT</u>	オプション

[トップ](#)

ファイル (FILE)

1つまたは複数のメンバーを削除したいネットワーク・ファイルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

削除するファイル・メンバーの名前を指定します。

*ONLY

1つのファイル・メンバーだけを削除します。

ALL** このファイルで使用可能なすべてのファイル・メンバーが削除されます。ここでALL**を指定した場合には、**ファイル番号**プロンプト (NBRパラメーター) にも***ALL**を指定しなければなりません。

メンバー名

削除するファイル・メンバーの名前を指定してください。ファイルが保管ファイルの場合には、そのファイル・メンバー名を指定することはできません。

ファイル番号 (NBR)

削除されるネットワーク・ファイル・メンバーの番号を指定します。この番号は、ファイル内に同じ名前のメンバーが複数ある時に、削除されるメンバーを識別するために使用されます。

*LAST

ファイルプロンプト (FILEパラメーター) およびメンバープロンプト (MBRパラメーター) で識別されたネットワーク・ファイル・メンバーの最後のコピーが削除されます。ユーザーのシステムに最後に到着したメンバーが、最終ファイル・メンバーとみなされます。

注: ユーザーのシステムに最後に到着したファイル・メンバーが、送信側ユーザーによって送信された最終メンバーにならない場合があります。ネットワークは、個別に送信されたファイルの到着順については保証しません。

*ONLY

指定されたファイル名のファイル・メンバーが1つだけ削除されます。指定された名前のメンバーが複数ある場合には、エスケープ・メッセージが送られ、このコマンドは実行されません。

***ALL** ファイルプロンプト (FILEパラメーター) およびメンバープロンプト (MBRパラメーター) で識別されるすべてのメンバーが削除されます。メンバー名が指定された場合には、その名前のすべてのメンバーが削除されます。MBRパラメーターに*ALLが指定された場合には、ファイルのすべてのメンバーが削除されます。

番号 削除するファイル・メンバーのネットワーク・ファイル番号を指定してください。

ユーザー (USER)

削除されるファイルの送信先のユーザーを指定します。

*CURRENT

現行のユーザーに送信されるファイルを削除します。

ユーザー名

ファイルが送られた送信先のユーザーの名前を指定してください。機密保護担当者権限をもつユーザーは、どのユーザーに送信されたファイルでも削除することができます。機密保護担当者以外のユーザーは、自分または自分のグループ・プロファイル宛に送信されるファイルだけを削除することができます。

例

例1: 単一メンバーの削除

```
DLTNETF FILE(APPOINTMNT) MBR(FRIDAY)
```

このコマンドは、ファイルAPPOINTMNTのメンバーFRIDAYを削除します。

例2: ファイルの削除

```
DLTNETF FILE(SCHEDULE) USER(NETUSER1) NBR(708926)
```

このコマンドは、ファイルSCHEDULE,番号708926をユーザーNETUSER1のネットワーク・ファイルから削除します。このコマンドはNETUSER1, NETUSER1グループのメンバー、または機密保護担当者権限をもつユーザーだけが実行します。

例3:メンバーのすべての削除

```
DLTNETF FILE(OLDINFO) MBR(*ALL) NBR(*ALL)
```

このコマンドは、ファイルOLDINFOに使用可能なすべてのメンバー（名前が重複しているすべてのメンバーを含む）を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF8060

指定された選択項目と対応するファイルはない。

CPF8063

必要な資源を割り当てることができない。

CPF8070

ユーザー&1にはファイルの処理は許可されていない。

CPF8077

同じ名前の複数のファイルが見つかった。前に表示されたメッセージを参照してください。

CPF8081

ファイル&5メンバー&6番号&7はすでに処理されている。

CPF8082

ネットワーク・ファイル&5メンバー&6番号&7を獲得することができなかった。

CPF8083

ネットワーク・ファイルは削除されなかった。

CPF9005

この要求を完了するのに必要なシステム資源を使用することができない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ノード・グループの削除 (DLTNODGRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ノード・グループの削除(DLTNODGRP)コマンドは、リレーショナル・データベース・ファイルと関連したノード・グループを削除します。このコマンドは、そのノード・グループに対して作成したファイルには影響しません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NODGRP	ノード・グループ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・グループ	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

ノード・グループ(NODGRP)

削除されるノード・グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ノード・グループ

総称名 削除されるノード・グループの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。総称名が指定された場合には、その総称名で始まる名前のノード・グループで、それに対してユーザーが権限をもっているすべてのノード・グループが削除されます。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていない場合には、システムはこれを完全なノード・グループ名と見なします。

名前 削除されるノード・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGGL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
DLTNODGRP  NODGRP(LIB1/GROUP1)
```

このコマンドは、GROUP1という名前のノード・グループを削除しますが、このノード・グループで作成されたファイルはそのまま使用できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF3166

ノード・グループ&1がライブラリー&2に見つからなかった。

[トップ](#)

ノード・リストの削除 (DLTNODL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ノード・リスト削除(DLTNODL)コマンドによって、ユーザーはノード・リストを指定したライブラリーから削除することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NODL	ノード・リスト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・リスト	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

ノード・リスト (NODL)

削除しているノード・リストの修飾名を指定します。

ノード・リスト名は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLXXXX	QUSRIJS	QUSRVXRXXM
QGGL	QSRVAGT	QUSRINFSKR	
QGGL38	QSYS2	QUSRNOTES	
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND	
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA	
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR	
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS	
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS	
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI	

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

削除するノード・リストが入っているライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

ノード・リスト名

削除しているノード・リストの名前を指定してください。

総称*ノード・リスト名

削除しているノード・リストの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名は、名前が総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。完全なオブジェクト名が指定されて、複数のライブラリーが検索された場合には、名前に*ALLまたは*ALLUSRライブラリー値が指定された場合にかぎり、複数のオブジェクトを戻すことができます。

トップ

例

```
DLTNODL  NODL(MYLIB/NODL*)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB中で名前がNODLで始まるすべてのノード・リストを削除します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

NETBIOS記述の削除 (DLTNTBD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETBIOS記述削除(DLTNTBD)コマンドは、指定されたNETBIOS記述を削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NTBD	NETBIOS記述	修飾子リスト	必須, 定位置 1
	修飾子 1: NETBIOS記述	総称名, 名前	

[トップ](#)

NETBIOS記述 (NTBD)

削除するNETBIOS記述の名前を指定します。

NETBIOS記述名

削除するNETBIOS記述の名前を指定してください。

総称*NETBIOS記述名

NETBIOS記述の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

DLTNTBD NTBD(MYNETBIOS)

このコマンドは、MYNETBIOSという名前のNETBIOS記述をシステムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

NETWAREボリュームの削除 (DLTNTWVOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWAREボリューム削除(DLTNTWVOL)コマンドは、既存のボリュームを削除します。ボリュームがネットワーク・サーバーから取り外されていない場合は、それを削除することはできません。ボリュームをネットワーク・サーバーから取り外すためには、DISMOUNT(*YES)を指定してください。また、ボリュームが削除される時には、ネットワーク・サーバーが活動状態になっていなければなりません。

制約事項:このコマンドを使用するためには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリューム	文字値	必須, 定位置 1
SERVER	サーバー	文字値	必須, 定位置 2
DISMOUNT	取り外し	*YES, <u>*NO</u>	オプションル

[トップ](#)

ボリューム (VOL)

削除するボリュームを指定します。

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

ボリュームが置かれているネットワーク・サーバーを指定します。ボリュームが削除される時には、サーバーが活動状態になっていなければなりません。

[トップ](#)

取り外し (DISMOUNT)

ボリュームを削除する前にそれを取り外すかどうかを指定します。ボリュームが取り外されていない場合は、それを削除することはできません。

***NO** ボリュームを削除する前に取り外しません。

***YES** ボリュームを削除する前に取り外します。

[トップ](#)

例

```
DLTNTWVOL VOL(APPS) SERVER(MKTING)
```

このコマンドは、サーバーMKTING上にある名前APPSのボリュームを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

FPE0108

ボリューム&1が削除されなかった。

[トップ](#)

ネットワーク・インターフェース記述の削除 (DLTNWID)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・インターフェース記述削除(DLTNWID)コマンドは、指定されたネットワーク・インターフェース記述を削除します。このコマンドを出す前に、ネットワーク・インターフェース記述をオフに構成変更しなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWID	ネットワーク・インターフェース記述	総称名, 名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)

これは必須パラメーターです。

削除するネットワーク・インターフェース記述の名前を指定します。特定のネットワーク・インターフェース記述または総称ネットワーク・インターフェース記述を指定しなければなりません。

ネットワーク・インターフェース記述

削除されているネットワーク・インターフェース記述の名前を指定してください。

総称*ネットワーク・インターフェース記述

削除するネットワーク・インターフェース記述の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。ネットワーク・インターフェースの総称名を指定した場合には、総称ネットワーク・インターフェース記述名と接頭部が同じ名前のすべてのネットワーク・インターフェース記述が削除されます。

[トップ](#)

例

DLTNWID NWID(THISONE)

このコマンドは、THISONEという名前のネットワーク・インターフェースのネットワーク・インターフェース記述をシステムから削除します。

削除されるネットワーク・インターフェース記述に関連の回線記述がある場合には、それらが切り離され、その回線記述名を示すメッセージがシステム操作員に送られます。切り離された回線記述は、その名前がネットワーク・インターフェース記述を作成するコマンドに指定されれば新しいネットワーク・インターフェース記述に関連付けられます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF27A4

ネットワーク・インターフェース記述&1が見つからない。

CPF27A9

ネットワーク・インターフェース記述&1はオフに構成変更されていない。

[トップ](#)

NWS構成の削除 (DLTNWSCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NWS構成の削除 (DLTNWSCFG)コマンドは、指定されたネットワーク・サーバー構成および関連する妥当性検査リストを削除します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- 削除しているネットワーク・サーバー構成に対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限および使用(*USE)権限が必要です。
- IPSECRULE, CHAPAUT,またはSPCERTIDパラメーターに省略時値以外の値が指定された場合には、ネットワーク・サーバー構成を削除するために機密保護管理者 (*SECADM)特殊権限が必要です。
- 活動ネットワーク・サーバー記述がこのネットワーク・サーバー構成と関連付けられている場合には、このコマンドを実行することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWSCFG	ネットワーク・サーバー構成	通信名	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)

ネットワーク・サーバー構成の名前を指定します。

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

修飾子1: ネットワーク・サーバー構成

総称名 総称ネットワーク・サーバー構成名を指定してください。

名前 特定のネットワーク・サーバー構成を処理します。

修飾子2: ライブラリー

QUSRSYS

ライブラリーQUSRSYS中のネットワーク・サーバー構成が削除されます。

名前 ライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

DLTNWSCFG NWSCFG (ADMIN)

このコマンドは、ADMINという名前のネットワーク・サーバー構成および関連する妥当性検査リストを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPFA030

オブジェクトはすでに使用中である。

CPFA1B8

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

CPFE007

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ネットワーク・サーバー記述の削除 (DLTNWSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記述削除(DLTNWSD)コマンドは、指定されたネットワーク・サーバー記述を削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWSD	ネットワーク・サーバー記述	総称名, 名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ネットワーク・サーバー 記述 (NWSD)

削除するネットワーク・サーバー記述の名前を指定します。

ネットワーク・サーバー記述名

削除するネットワーク・サーバー記述の名前を指定してください。

総称*ネットワーク・サーバー記述名

ネットワーク・サーバー記述の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

DLTNWSD NWSD(REMODEL)

このコマンドは、REMODELという名前のネットワーク・サーバー記述をシステムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2668

オブジェクト記述は削除されなかった。

[トップ](#)

NWS記憶スペースの削除 (DLTNWSSTG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記憶スペース削除(DLTNWSSTG)コマンドは、既存のネットワーク・サーバーの記憶スペースを削除します。

記憶スペースがネットワーク・サーバー記述にリンクされている場合には、それを削除することはできません。ネットワーク・サーバー記憶リンク除去(RMVNWSSTGL)コマンドを使用してリンクを除去しておかなければ、リンクされた記憶スペースを削除することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWSSTG	ネットワーク・サーバー記憶スペース	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)

削除するネットワーク・サーバーの記憶スペースを指定します。

[トップ](#)

例

DLTNWSSTG NWSSTG(STGSPACE1)

このコマンドはSTGSPACE1という名前のネットワーク・サーバー記憶スペースを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPDA427

オブジェクト&1は認可されていない。

CPFA437

記憶域スペース&1が使用中。

[トップ](#)

出力待ち行列削除 (DLTOUTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

出力待ち行列削除(DLTOUTQ)コマンドは、指定された出力待ち行列(1つまたは複数)をシステムから削除します。

制約事項:

- 削除する出力待ち行列にはなにも項目を入れることはできません。各ファイルの出力は印刷されるか、削除されるか、または別の出力待ち行列に移動しなければなりません。
- サブシステムは活動状態であってはなりません。
- 待ち行列はスプール書き出しプログラムで使用中であってはなりません。
- 待ち行列がシステムによって特定の印刷装置用に作成された場合は、それを削除することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

出力待ち行列 (OUTQ)

削除する出力待ち行列を指定します。特定の出力待ち行列または総称出力待ち行列を指定することができます。いずれのタイプの場合も、任意にライブラリー名によって修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 出力待ち行列

総称名 削除する出力待ち行列の総称名を指定してください。総称名は、'AR*'などのように1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称出力待ち行列名と同じ接頭部の名前を持つすべての出力待ち行列が削除されます。削除する出力待ち行列名を検索されるライブラリーは、指定したか、あるいは省略時の値として使用されるライブラリー修飾子によって決まります。

名前 削除する出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGGL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX  QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***CURLIB**

出力待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
DLTOUTQ  OUTQ(PUNCH2)
```

このコマンドは、出力待ち行列PUNCH2をシステムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1763

1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3360

&2の出力待ち行列&1は削除されなかった。出力待ち行列は使用中です。

CPF3467

出力待ち行列&1が削除されてから、再作成された。

CPF3469

出力待ち行列に対する操作は認められない。

[トップ](#)

オーバーレイの削除 (DLTOVL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オーバーレイ削除(DLTOVL)コマンドは、指定したライブラリーからオーバーレイを削除します。オーバーレイが見つかった場合には、それは削除されます。オーバーレイが見つからなかった場合には、オーバーレイを見つけることができなかったということを示すメッセージがユーザーに送られます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OVL	オーバーレイ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オーバーレイ	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

オーバーレイ (OVL)

削除するオーバーレイを指定します。特定のオーバーレイまたは総称オーバーレイを指定することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オーバーレイ

総称名 削除するオーバーレイの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称オーバーレイ名と同じ接頭部の名前をもつすべてのオーバーレイが削除されます。

名前 削除するオーバーレイの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オーバーレイを削除するために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 ライブラリー名を指定してください。オーバーレイを削除するために、このパラメーターに指定されたライブラリーだけが検索されます。

トップ

例

例1: すべてのライブラリーのオーバーレイの削除

```
DLTOVL  OVL(*ALL/OVL1)
```

このコマンドは、すべてのライブラリーのOVL1という名前のすべてのオーバーレイを削除します（すべてのIBM提供のライブラリーを除く）。

例2: 現行ライブラリーのオーバーレイの削除

```
DLTOVL  OVL(*CURLIB/OV*)
```

このコマンドは、現行ライブラリーで「OV」の文字から始まるすべてのオーバーレイを削除します。

トップ

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

一時変更削除 (DLTOVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

一時変更削除(DLTOVR)コマンドは、呼び出しレベルで前に指定された1つまたは複数のファイル一時変更（メッセージ・ファイルの一時変更を含む）を削除するものです。DLTOVRコマンドで指定した一時変更された各ファイルの場合には、DLTOVRコマンドと同じ呼び出しレベルで指定された一時変更が削除されます。コマンドが対話式に指定された時、あるいはバッチ・ジョブのプログラムの外側で指定された時には、呼び出しレベルのファイル一時変更が削除されます。コマンドがCLプログラムで使用された時には、そのプログラムの呼び出しレベルのファイル一時変更が削除されます。ファイル一時変更は、ファイル一時変更コマンドの結果です。

DLTOVRコマンドは、同じ呼び出しレベルのすべてのファイルのすべてのファイル一時変更あるいは同じ呼び出しレベルの指定されたファイルのファイル一時変更を削除します。コマンドが指定された呼び出しレベルのファイル一時変更だけが削除されます。たとえば、一時変更コマンドを経路指定ステップ中の1つのプログラムで指定し、呼び出される別のプログラムにも一時変更コマンドが含まれている場合には、2番目のプログラムに指定されたDLTOVRコマンドは、そのプログラム内での一時変更だけを削除することができます。DLTOVRコマンドは、そのプログラムが呼び出される前に指定された一時変更コマンドには何も影響しません。削除されたファイル一時変更は、ファイルのその後の使用方法にはまったく影響しません。

制約事項:

- マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドは、最初のスレッドからしか出すことができません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	一時変更されるファイル	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前, *PRTF	必須, 定位置 1
LVL	呼び出しレベル	*ACTGRPDFN, *, *JOB	オプション

[トップ](#)

一時変更されるファイル (FILE)

ファイル一時変更を削除する呼び出しレベルの一時変更されたファイルの名前を指定します。

単一値

***ALL** このコマンドが入力された呼び出しレベルに存在しているすべてのファイルの一時変更が削除されます。

その他の値 (最大50個指定可能)

*PRTF

このコマンドが入力された呼び出しレベルに存在している*PRTFファイルの一時変更が削除されます。

名前 呼び出しレベルに存在する一時変更を削除する1つまたは複数の一時変更されているファイルの名前を指定してください。

トップ

呼び出しレベル (LVL)

削除されるファイル一時変更の呼び出しレベルを指定します。ジョブ処理(WRKJOB)コマンドから呼び出しスタック上に示された呼び出しスタック項目と、その呼び出しスタック項目の呼び出しレベルとは、1対1の対応となっています。

呼び出しスタック上の最初の呼び出しスタック項目名（リストの先頭）は、呼び出しレベル1の呼び出し先プログラムまたはプロシージャです。2番目の呼び出しスタック項目名は、呼び出しレベル2のプログラムまたはプロシージャです。最後の呼び出しスタック項目名は、そのジョブの最高の呼び出しレベルのプログラムまたはプロシージャです。

*ACTGRPDFN

削除するファイル一時変更の呼び出しレベルは、このコマンドを呼び出すプログラムの活動化グループによって決まります。活動化グループが省略時の活動化グループである時には、削除する一時変更の呼び出しレベルは呼び出し側プログラムの呼び出しレベルと等しくなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない時には、削除する一時変更の呼び出しレベルは呼び出し側プログラムの活動化グループと等しくなります。

* 削除されるファイル一時変更の呼び出しレベルは、DLTOVRコマンド処理プログラムを呼び出したプログラムの呼び出しレベルです。QCMDEXCを介してDLTOVRコマンドを呼び出した場合には、呼び出しレベルは、QCMDEXCの呼び出し元の呼び出しレベルと同じレベルです。

***JOB** ジョブに対する範囲のファイル一時変更が削除されます。ジョブ・レベルがOVRSCOPE(*JOB)の一時変更のみが削除されます。

トップ

例

例1:呼び出しレベル一時変更の削除

1. OVRDBF FILE(A) TOFILE(B)
2. OVRPRTF FILE(C) TOFILE(D)
3. OVRTAPF FILE(E) TOFILE(F)
- :
4. DLTOVR FILE(A C)
5. DLTOVR FILE(*ALL)

最初の3個の一時変更コマンドが、呼び出しレベルで以前に指定されている場合には、ファイルB、D、およびFが、ファイルA、C、およびEを一時変更します。4番目のコマンドは、ファイルAとCに影響を与えるファイ

ル一時変更のみを削除します。最後のコマンドは、呼び出しレベルで存在するすべてのファイル一時変更を削除します。この場合は、ファイルEを一時変更するコマンド、3番目のコマンドです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF180C

機能&1は使用できない。

CPF9841

指定されたレベルに一時変更が見つからない。

[トップ](#)

プログラム装置項目一時変更削除 (DLTOVRDEVE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置項目一時変更削除(DLTOVRDEVE)コマンドは、ある呼び出しレベルで前に指定された1つまたは複数のプログラム装置の一時変更を削除します。

DLTOVRDEVEコマンドで指定された一時変更される各プログラム装置の場合には、DLTOVRDEVEコマンドと同じ呼び出しレベルで指定された一時変更が削除されます。コマンドが対話式に入力されている時、あるいはバッチ・ジョブのプログラムの外側で入力された時には、その呼び出しレベルのプログラム装置一時変更が削除されます。コマンドがCLプログラムで使用された時には、そのプログラムの呼び出しレベルのプログラム装置一時変更が削除されます。プログラム装置一時変更は、プログラム装置一時変更コマンドのICFプログラム装置項目一時変更(OVRICFDEVE)の結果です。

DLTOVRDEVEコマンドは、同じ呼び出しレベルのすべてのプログラム装置一時変更を削除するか、あるいは同じ呼び出しレベルの特定のプログラム装置一時変更を削除することができます。コマンドが入力された呼び出しレベルのプログラム装置一時変更だけが削除されます。たとえば、一時変更コマンドが経路指定ステップ中の1つのプログラムで入力され、呼び出される別のプログラムにも一時変更コマンドが入っている場合には、2番目のプログラムで入力されたDLTOVRDEVEコマンドは、そのプログラムで起こる一時変更だけを削除することができます。DLTOVRDEVEコマンドは、プログラムが呼び出される前に入力された一時変更コマンドには何も影響しません。削除されたプログラム装置一時変更は、プログラム装置の後続の使用法にはまったく影響しません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGMDEV	一時変更されるプログラム装置	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
LVL	呼び出しレベル	*ACTGRPDFN, *, *JOB	オプション

トップ

一時変更されるプログラム装置 (PGMDEV)

削除中のプログラム装置一時変更を指定します。1つまたは複数のプログラム装置一時変更を名前別に指定することができます。

単一値

***ALL** このコマンドが入力された呼び出しレベルに存在しているすべてのプログラム装置の一時変更が削除されます。

その他の値（最大50個指定可能）

名前 呼び出しレベルにある一時変更が削除されるはずの1つまたは複数の一時変更されているプログラム装置の名前を指定してください。

トップ

呼び出しレベル (LVL)

削除されるプログラム装置一時変更の呼び出しレベルを指定します。ジョブ処理(WRKJOB)コマンドから呼び出しスタック上に示された呼び出しスタック項目と、その呼び出しスタック項目の呼び出しレベルとは、1対1の対応となっています。

呼び出しスタック上の最初の呼び出しスタック項目名（リストの先頭）は、呼び出しレベル1の呼び出し先プログラムまたはプロシージャです。2番目の呼び出しスタック項目名は、呼び出しレベル2のプログラムまたはプロシージャです。最後の呼び出しスタック項目名は、そのジョブの最高の呼び出しレベルのプログラムまたはプロシージャです。

*ACTGRPDFN

削除するプログラム装置一時変更の呼び出しレベルは、このコマンドを呼び出すプログラムの活動化グループによって決まります。活動化グループが省略時の活動化グループである時には、削除するプログラム装置一時変更の呼び出しレベルは呼び出し側プログラムの呼び出しレベルと等しくなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない時には、削除するプログラム装置一時変更の呼び出しレベルは呼び出し側プログラムの活動化グループと等しくなります。

* 削除されるプログラム装置一時変更の呼び出しレベルは、DLTOVRDEVEコマンド処理プログラムを呼び出したプログラムの呼び出しレベルです。QCMDEXCを介してDLTOVRDEVEコマンドを呼び出した場合には、呼び出しレベルは、QCMDEXCの呼び出し元の呼び出しレベルと同じレベルです。

*JOB ジョブに適用されるプログラム装置一時変更が削除されました。指定されたOVRSCOPE(*JOB)を持つジョブ・レベルの一時変更だけが削除されます。

トップ

例

例1:省略時活動化グループ中の呼び出し側プログラムでのプログラム装置一時変更の削除

```
DLTOVRDEVE PGMDEV(*ALL)
```

このコマンドは、呼び出し側プログラムが省略時活動化グループで実行される時に、呼び出しレベルに存在するすべてのプログラム装置の一時変更を削除します。呼び出し側プログラムが省略時活動化グループ以外の活動化グループで実行される時には、その活動化グループに適用されるプログラム装置一時変更が削除されます。

例2:任意の活動化グループ中の呼び出し側プログラムでのプログラム装置一時変更の削除

```
DLTOVRDEVE PGMDEV(*ALL) LVL(*)
```

このコマンドは、呼び出し側プログラムが実行される活動化グループにかかわらず、呼び出しレベルに存在するすべてのプログラム装置一時変更を削除します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF180C

機能&1は使用できない。

CPF1892

機能&1は使用できない。

CPF9841

指定されたレベルに一時変更が見つからない。

ページ定義の削除 (DLTPAGDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ページ定義削除(DLTPAGDFN)コマンドは、指定したライブラリーからページ定義を削除します。ページ定義が見つからない場合には、ページ・セグメントが見つからなかったことを示すメッセージがユーザーに送られます。

制約事項: オブジェクトを削除するためには、*OBJEXIST権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PAGDFN	ページ定義	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ページ定義	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

ページ定義 (PAGDFN)

削除するページ定義を指定します。特定のページ定義または総称ページ定義を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ページ定義

総称名 削除するページ定義の総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称ページ定義名と同じ接頭部の名前のすべてのページ定義が削除されます。

名前 削除するページ定義の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

現行ライブラリーだけが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1:現行ライブラリーからのページ定義の削除

```
DLTPAGDFN  PAGDFN(*CURLIB/P1DFLT)
```

このコマンドは、ページ定義P1DFLT（現行ライブラリーで見つかった場合）を削除します。

例2:ページ定義の削除

```
DLTPAGDFN  PAGDFN(*LIBL/P1*)
```

このコマンドは、ジョブのライブラリー・リストでP1から始まるすべてのページ定義を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

ページ・セグメントの削除 (DLTPAGSEG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ページ・セグメント削除(DLTPAGSEG)コマンドは、指定したライブラリーからページ・セグメントを削除します。ページ・セグメントが見つかった場合には、それは削除されます。ページ・セグメントが見つからなかった場合には、ページ・セグメントを見つけることができません、というメッセージがユーザーに送られます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PAGSEG	ページ・セグメント	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ページ・セグメント	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

ページ・セグメント (PAGSEG)

削除するページ・セグメントを指定します。特定のページ・セグメントまたは総称ページ・セグメントを指定することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ページ・セグメント

総称名 削除するページ・セグメントの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称ページ・セグメント名と同じ接頭部の名前をもつすべてのページ・セグメントが削除されます。

名前 削除するページ・セグメントの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ページ・セグメントを削除するために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 ライブラリー名を指定してください。このパラメーターに指定されたライブラリーだけが、ページ・セグメントを削除するために検索されます。

トップ

例

例1:ライブラリー・リストのページ・セグメントの削除

```
DLTPAGSEG  PAGSEG(*LIBL/PAGSEG1)
```

このコマンドは、PAGSEG1という名前のページ・セグメントがライブラリー・リストのライブラリーに入っている場合は、これを削除します。ライブラリー・リストにPAGSEG1が入っているライブラリーが複数ある場合は、最初に現れる文字だけが削除されます。

例2:すべてのライブラリーのページ・セグメントを削除

```
DLTPAGSEG  PAGSEG(*ALL/PAGSEG1)
```

このコマンドは、PAGSEG1という名前のすべてのページ・セグメントを削除します（この名前をもつIBM提供のページ・セグメントも含む）。

例3:現行ライブラリーのページ・セグメントの削除

DLTPAGSEG PAGSEG(*CURLIB/PG*)

このコマンドは、ジョブの現行ライブラリーに入っていて名前がPGから始まるすべてのページ・セグメントを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

PDFマップの削除 (DLTPDFMAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PDFマップ削除(DLTPDFMAP)コマンドは、指定したライブラリーからPDFマップを削除します。PDFマップが見つかった場合には、それが削除されます。PDFマップが見つからない場合には、ユーザーにPDFマップが見つからなかったことを示すメッセージが送られます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PDFMAP	PDFマップ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: PDFマップ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

PDFマップ (PDFMAP)

PDFマップの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: PDFマップ

名前 PDFマップの名前を指定します。

修飾子2:ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

***CURLIB**

ジョブの現行ジョブ・ライブラリーを検索します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***ALL** QSYSを含むシステム上のすべてのライブラリーを検索します。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にリストされたライブラリーだけを検索します。

***ALL** QSYSを含むシステム上のすべてのライブラリーを検索します。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。

名前 指定したライブラリーを検索します。

[トップ](#)

例

DLTPDFMAP PDFMAPOBJ(QGPL/BIGSALES)

この例は、PDFマップを削除する方法を表しています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

印刷記述子グループ削除 (DLTPDG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷記述子グループ削除(DLTPDG)コマンドは、印刷記述子グループについての情報を含み、その関連印刷記述子名が保管されるタイプ*PDG のオブジェクトを削除します。

制約事項:

印刷記述子グループ(PDG)に対して*OBJEXIST権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PDG	記述子グループの印刷	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 記述子グループの印刷	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

記述子グループの印刷 (PDG)

削除する印刷記述子グループ(PDG)の名前およびライブラリーを指定します。

使用できるPDG値は次の通りです。

印刷記述子グループ名

削除するPDGの名前を指定してください。

総称 *印刷記述子グループ名

削除するPDGの総称名を指定してください。総称パターンと一致するすべてのPDGが削除されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGPI       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPI38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSBRM     QUSRRDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

考えられる値は次の通りです。

印刷記述子グループ名

削除する印刷記述子グループの名前を指定してください。

総称*名

削除しようとしている印刷記述子グループの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば、ABC*など) です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる名前をもち、ユーザーが権限をもっているすべての印刷記述子グループが表示されます。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが組み込まれていない場合には、システムはこれを完全な印刷記述子グループ名と見なします。総称名の使用の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックを参照してください。

トップ

例

```
DLTPDG    PDG(P3820*)
```

このコマンドは、P3820*で始まっている印刷記述子グループのすべてを削除します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

PEXデータの削除 (DLTPEXDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DLTPEXDTA (PERFORMANCE EXPLORERデータ削除) コマンドは、PERFORMANCE EXPLORERツールで収集され、特定のライブラリーに入っている物理ファイルのセット全体で保管されているデータを削除します。

制約事項:ユーザーは、指定されたライブラリーに入っている各PERFORMANCE EXPLORERデータベース・ファイルに対するオブジェクト存在権限を持っている必要があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTAMBR	データ・メンバー	名前	必須, 定位置 1
DTALIB	データ・ライブラリー	名前, <u>QPEXDATA</u>	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

データ・メンバー (DTAMBR)

パフォーマンス・データのメンバー名を指定します。メンバー名は、PERFORMANCE EXPLORERツールで使用されるそれぞれの物理ファイルと同じです。

[トップ](#)

データ・ライブラリー (DTALIB)

パフォーマンス・データ・ファイルが存在するライブラリーを指定します。

QPEXDATA

パフォーマンス・データは、ライブラリーQPEXDATA中のファイルから削除されます。

ライブラリー名

パフォーマンス・データ・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

DLTPEXDTA DTAMBR(STATS3) DTALIB(TESTLIB)

このコマンドは、ライブラリーTESTLIBのPERFORMANCE EXPLORER データベース・ファイルからSTATS3という名前のメンバーを除去します。これらのメンバーは、'SSNID(STATS3) DTAOPT(*LIB) DTALIB(TESTLIB)'を指定して、PERFORMANCE EXPLORERデータ収集セッションを終了(ENDPEX CL コマンド) したときに作成されています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

プログラム削除 (DLTPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム削除(DLTPGM)コマンドは、コンパイル済みプログラムまたはプログラムのグループを削除します。プログラムが現在実行中の場合には、別のジョブで特定のオブジェクト割り振り(ALCOBJ)コマンドが有効となっていないかぎり、このコマンドを出した時にプログラム処理が異常終了されます。高水準言語(HLL)またはCLプログラムは削除することができます。

制約事項:

- プログラムに対してはオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が、プログラムが入っているライブラリーに対しては実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- 削除するプログラムを現在デバッグ中の場合には、削除されるプログラムに対して暗黙参照が行なわれた場合（たとえば、変数変更(CHGVAR)コマンドがPGM(*DFTPGM)を指定している）には、機能チェックが起ります。機能チェックを回避するためには、プログラム除去(RMVPGM)コマンドを使用して、それを削除する前にデバッグ・セッションからプログラムを除去してください。ユーザーがデバッグ・モードにいる時にプログラムを再コンパイルする場合には、デバッグ・モードからプログラムを除去し（RMVPGMコマンドの使用）、システムからそれを除去し（プログラム除去(DLTPGM)コマンドの使用）、そのプログラムを変更および再コンパイルして、そのプログラムの新しいバージョンをデバッグ・モードに追加（プログラム追加(ADDPGM)コマンドの使用）してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

プログラム (PGM)

削除するプログラムを指定します。特定のプログラム名または総称プログラム名を指定することができます。いずれの場合も、必要に応じてライブラリー名で修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 削除するプログラムの名前を指定してください。

総称名 削除するプログラムの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXMX
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

トップ

例

```
DLTPGM  PGM(LIB1/PROG1)
```

このコマンドは、ライブラリーLIB1からプログラムPROG1を削除します。ただし、ユーザーは、このプログラムとライブラリーに対して適切な権限が必要です。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPFA030

オブジェクトはすでに使用中である。

CPFE007

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

パネル・グループ削除 (DLTPNLGRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パネル・グループ削除(DLTPNLGRP)コマンドは、指定されたパネル・グループをシステムから取り除きます。

制約事項:

- パネル・グループに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限と、パネル・グループが入っているライブラリーに対する使用(*USE)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PNLGRP	パネル・グループ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: パネル・グループ	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

パネル・グループ (PNLGRP)

削除する1つまたは複数のパネル・グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: パネル・グループ

総称名 削除するパネル・グループの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、その総称パネル・グループ名と同じ接頭部の名前を持つすべてのパネル・グループが削除されます。

名前 削除するパネル・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGGL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX  QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM     QUSR RDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
DLTPNLGRP  PNLGRP(*CURLIB/AR*)
```

このコマンドは、現行ライブラリーとしてリストされたライブラリーから、接頭部ARをもつ名前のすべてのパネル・グループ (たとえばARINV, ARREC, ARPERS)を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

問題削除 (DLTPRB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー（一般には、システム操作員またはシステム問題を扱う責任があるユーザー）は問題削除 (DLTPRB) コマンドを使用して、1つまたは複数の項目を削除することで問題ログのサイズを保守します。問題ログ・サイズ制御の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「システム操作の基本」情報を参照してください。

制約事項: このコマンドは、*EXCLUDEの共通認可で出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV, および QSRVBAS ユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用する私用認可があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PRBID	問題識別コード	文字値, *ALL	オプションル, 定位置 1
STATUS	状況タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 6 回の繰り返し): *OPENED, *READY, *PREPARED, *SENT, *ANSWERED, *VERIFIED, *CLOSED	オプションル
DAYS	日数	0-999, 30	オプションル
ORIGIN	起点	要素リスト	オプションル
	要素 1: ネットワーク識別コード	通信名, *NETATR, *ALL	
	要素 2: 制御点名	通信名, *NETATR, *ALL	

トップ

問題識別コード (PRBID)

削除される問題の ID を指定します。異なる起点システムをもつ問題が同じ ID をもっている場合があります。特定の起点システムから1つの問題を選択するためには、このパラメーターと一緒に起点 (ORIGIN) パラメーターを使用することができます。

*ALL 他 の選択基準に一致するすべての問題が削除されます。

問題ID

削除される問題の10文字の問題 ID を指定してください。問題 ID を指定した場合には、状況タイプ (STATUS) パラメーターおよび日数 (DAYS) パラメーターは無視されます。

トップ

状況タイプ (STATUS)

問題ログ項目の状況を指定します。次の7つのタイプの状況があります。

*OPENED

問題はオープンされた状況になっています。問題が識別されていて、問題レコードは作成されました。

*READY

問題は送信可能状況になっています。問題分析情報が問題レコードに追加されました。

*PREPARED

問題は準備完了状況になっています。問題を報告する準備が完了しました。

*SENT

問題は送信状況になっています。問題がサービス提供元に送信されましたが、応答が戻ってきません。

*ANSWERED

問題が回答状況になっています。サービス提供元によって応答が戻されたか、システムの操作員によって追加されました。

*VERIFIED

問題が検査状況になっています。問題は解決し、システム操作員はプログラムが正しいことを検査しました。

*CLOSED

問題がクローズされました。

注: このパラメーターは、**問題識別コード (PRBID)**パラメーターに*ALLを指定した場合にだけ有効です。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。入力画面が表示されており、これらの複数個の値を入力するために追加の入力フィールドが必要な場合には、"値の続きは+"の句の反対側の入力フィールドにプラス符号(+)を入力し、実行キーを押してください。

***ALL** 他の選択基準に一致するすべての問題が削除されます。

状況タイプ

7種類の状況タイプの1つを指定してください。

[トップ](#)

日数 (DAYS)

この値より古い問題を削除することを指定します。有効な値の範囲は、**提示されたまたは終了された日付後の0-999日**です。終了された以外の状況の問題は、**提示された日付後の指定した日数**に削除されます。終了された状況の問題は**終了された日付後の指定した日数の後に**削除されます。

このパラメーターは、**問題識別コード (PRBID)**パラメーターに*ALLを指定した場合にだけ有効です。

30 問題削除までの省略時の日数。

日数 日数を指定してください。この値がシステム値QPRBHLDTVより小さい場合には、代わりにこのシステム値が使用されます。

起点 (ORIGIN)

指定したノードだけを起点とする問題ログ項目が削除されることを指定します。

可能なネットワーク ID値は、次の通りです。

***NETATR**

このシステムのネットワーク属性で定義されたのと同じローカル・ネットワーク IDのシステムで始まっている項目だけが削除されます。

***ALL** 起点システムのネットワーク IDと関係なく、すべての項目が削除されます。

ネットワークID

ネットワーク IDを指定してください。

可能な制御点名の値は次の通りです。

***NETATR**

このシステムのネットワーク属性で定義されたのと同じローカル制御点名のシステムで始まっている項目だけが削除されます。

***ALL** 指定されたネットワーク IDのシステムで始まっているすべての項目が削除されます。

制御点名

制御点名を指定してください。

例

```
DLTPRB STATUS(*OPENED *READY *SENT) DAYS(15)
```

このコマンドは、15日前に問題ログに追加された**OPENED**、**READY**、または**SENT**状況になっている項目をすべて削除します。

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF7AA6

問題レコード&1を削除することはできない。

CPF7AA7

問題&1が見つからなかったか、または使用中である。

CPF7A9C

この時点で、問題ログを処理することはできない。

CPF7A93

問題&2はジョブ&1によって現在使用中である。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

PSF構成の削除 (DLTPSF CFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PSF構成の削除 (DLTPSF CFG)コマンドは、印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを指定したライブラリーから削除します。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、PSF機能が必要です。
- このコマンドを使用するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PSFCFG	PSF構成	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: PSF構成	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

PSF構成 (PSFCFG)

削除する印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: PSF構成

名前 削除するPSF構成オブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

*CURLIB

ジョブの現行ジョブ・ライブラリーを検索します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 指定したライブラリーを検索します。

[トップ](#)

例

DLTPSF CFG PSFCFG(MYLIB/MYPSFCFG)

このコマンドは、ライブラリーMYLIB中のMYPSFCFGという名前のPSF構成オブジェクトを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9805

ライブラリー&3のオブジェクト&2が壊れている。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

プログラム一時修正の削除 (DLTPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正削除(DLTPTF)コマンドは、プログラム一時修正(PTF)保管ファイル、その関連のカバー・レター、および発注され、PTFのレコードを削除するために使用されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PTF	PTF	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値, *ALL	必須, 定位置 1
LICPGM	プロダクト	文字値, *ALL	オプション
RLS	リリース	文字値, *ALL	オプション
DLTDUPPTF	重複PTF番号の削除	*YES, *NO	オプション

[トップ](#)

PTF (PTF)

削除するPTFのPTF識別番号を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 指定されたプロダクトのすべてのPTFが削除されます。

PTF番号

削除するPTFの識別番号を指定します。最大50個のPTF番号を指定することができます。

[トップ](#)

プロダクト (LICPGM)

PTFが削除されるプロダクトの7桁のIDを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 指定されたPTFの検索中は、プロダクトIDが無視されます。

ライセンス・プログラム

7桁のプロダクトIDを指定してください。

[トップ](#)

リリース (RLS)

削除されるPTFのリリース・レベルを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** すべてのリリースのプロダクトのPTFが削除されます。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。VXはバージョン番号、RYはリリース番号、MZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。LICPGM(*ALL)が指定されている場合には、特定のリリースを指定できません。

[トップ](#)

重複PTF番号の削除 (DLTDUPPTF)

重複PTF番号を削除するかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 重複PTF番号は削除されません。

***YES** 重複PTF番号が削除されます。

[トップ](#)

例

DLTPTF PTF(SI12345)

このコマンドは、QGPLライブラリーからSF12345という名前のPTFの保管ファイルを削除します。SF12345という名前のPTFのカバー・レター・ファイルのメンバーも削除されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF35AE

重複したPTF &1が見つかった。

CPF35C5

PTF &1-&2 &3は削除されなかった。

CPF35E2

PTF &1-&2 &3の情報が見つからない。

CPF35F1

カバー・レター・ファイル&1が&2に見つからない。

CPF35F2

PTF &2-&1 &3のカバー・レターが見つからない。

CPF358A

リリースは正しくない。

CPF3586

PTFのリストが正しくない。

CPF6602

PTF &1-&2 &3が見つからない。

[トップ](#)

QUERY管理機能書式の削除 (DLTQMFORM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY管理機能書式削除(DLTQMFORM)コマンドによって、ライブラリーから既存のQUERY管理機能書式を削除することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QMFORM	QUERY管理機能報告書書式	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY管理機能報告書書式	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

QUERY管理機能報告書書式 (QMFORM)

削除するQUERY管理機能書式を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: QUERY管理機能報告書書式

総称名 削除する書式の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。総称名を指定した場合には, 名前がその総称名で始まり, ユーザーが権限を持っているすべての書式が指定されたライブラリーまたはライブラリー・リストから削除されます。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には, システムはその名前を完全な書式名と見なします。

名前 削除する書式の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで, 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には, 現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には, ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーだけが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
DLTQMFORM  QMQRY(RPTLIB/FORM1)
```

このコマンドは、ライブラリーRPTLIBからQUERY管理機能書式FORM1を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

QUERY管理機能プログラム削除 (DLTQMQR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY管理機能プログラム削除(DLTQMQR)コマンドは、ライブラリーから既存のQUERY管理機能プログラムを削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QMQR	QUERY管理機能プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY管理機能プログラム	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

QUERY管理機能プログラム (QMQR)

削除するQUERY管理機能プログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: QUERY管理機能プログラム

総称名 1つまたは複数のライブラリーから削除するQUERYの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。総称名を指定した場合には, 名前がその総称名で始まり, ユーザーが権限を持っているすべてのQUERYが指定されたライブラリーまたはライブラリー・リストから削除されます。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には, システムはその名前を完全なQUERY名と見なします。

名前 削除するQUERYの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで, 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には, 現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には, ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されません。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーだけが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGGL       QSRVAGT    QUSRINFSCR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
DLTQMQRV  QMQRV(RPTLIB/QUERY1)
```

このコマンドは、ライブラリーRPTLIBからQUERY管理機能QUERY QUERY1を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

QUERY削除 (DLTQRY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY削除(DLTQRY)コマンドは、既存のQUERY定義をライブラリーから削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QRY	QUERY	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

QUERY (QRYパラメーター)

削除するQUERY定義の修飾名を指定します。

QUERY名

削除するQUERY定義の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

QUERY定義の名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLXXXX	QUSRIJS	QUSRVXRXMX
QGPL	QSRVAGT	QUSRINFSCR	
QGPL38	QSYS2	QUSRNOTES	
QMGTC	QSYS2XXXX	QUSROND	
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA	
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR	
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS	
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS	
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI	

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1: QUERY定義を削除

```
DLTQRY QRY(LIB1/MYDEF)
```

このコマンドは、ライブラリーLIB1からQUERY定義MYDEFを削除します。

例2:すべてのライブラリーからQUERY定義を削除

```
DLTQRY QRY(*ALL/MYDEF)
```

このコマンドは、システム上の名前MYDEFのQUERY定義をすべて削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

質問・回答の削除 (DLTQST)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

質問削除(DLTQST)コマンドによって、ローカル質問・回答(Q&A)データベースを検索し、削除する1つまたは複数の質問を見つけることができます。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「システム操作の基本」情報で入手することができます。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. ユーザーは、このコマンドに対する権限をもち、このコマンドで参照されるすべてのQ&AデータベースのQ&Aデータベース回答担当者でなければなりません。
3. ユーザーがこのコマンドによって会話型質問または候補質問を削除することはできません。
4. このコマンドは、対話式でのみ使用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QSTDB	Q/Aデータベース	名前, <u>*SELECT</u>	オプション、位置 1
LIB	Q/Aデータベースが存在するライブラリー	名前, <u>*QSTLIB</u>	オプション、位置 2

[トップ](#)

Q/Aデータベース (QSTDB)

質問を削除するQ&Aデータベースを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

Q&Aデータベースを指定するように要求されています。システム上に1つのQ&Aデータベースしか存在していない場合には、それが省略時の値になります。

質問データベース

質問を削除するQ&Aデータベースの名前を指定してください。

[トップ](#)

Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)

Q/Aデータベースが入っているライブラリーの名前を指定します。

Q/Aデータベースの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***QSTLIB**

指定されたQ/Aデータベースが入っているライブラリーが検索されます。QSTDB パラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたすべてのライブラリーの中の任意のQ/Aデータベースを選択することができます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。QSTDBパラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたライブラリーの中の任意のQ/Aデータベースを選択することができます。

[トップ](#)

例

DLTQST

このコマンドは、検索変数指定画面を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

Q/Aデータベース削除 (DLTQSTDB)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

質問・回答データベース削除(DLTQSTDB)コマンドによって、認可されたユーザーはこのシステムから質問・回答(Q&A)データベースを削除することができます。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「システム操作の基本」情報で入手することができます。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. ユーザーは、このコマンドに対する権限をもち、このコマンドで参照されるすべてのQ&AデータベースのQ&Aデータベース回答担当者でなければなりません。
3. このコマンドは、対話式でのみ使用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QSTDB	Q/Aデータベース	名前, <u>*SELECT</u>	オプションル, 位置 1
LIB	Q/Aデータベースが存在するライブラリー	名前, <u>*QSTLIB</u>	オプションル, 位置 2

[トップ](#)

Q/Aデータベース (QSTDB)

このシステムから削除されるQ&Aデータベースを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

Q&Aデータベースを指定するように要求されています。システム上に1つのQ&Aデータベースしか存在していない場合には、それが省略時の値になります。

質問データベース

このシステムから削除されるQ&Aデータベースの名前を指定してください。

[トップ](#)

Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)

削除されるQ&Aデータベースが入っているライブラリーの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***QSTLIB**

指定されたQ&Aデータベースが入っているライブラリーが検索されます。QSTDB パラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたすべてのライブラリーの中の任意のQ&Aデータベースを選択することができます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。QSTDBパラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたライブラリーの中の任意のデータベースを選択することができます。

[トップ](#)

例

DLTQSTDB

このコマンドは、Q&Aデータベース削除確認画面を表示します。複数のQ&Aデータベースが選択に使用可能な場合には、Q&Aデータベース選択画面が最初に表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

サブシステム記述削除 (DLTSBSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サブシステム記述削除 (DLTSBSD)コマンドは、指定されたサブシステム記述（それらに追加されたすべての作業項目またはルーティング項目を含む）をシステムから削除します。ジョブ待ち行列項目追加 (ADDJOBQE)コマンドによってこのサブシステムに割り当てられたジョブ待ち行列は削除されません。削除する前に、関連サブシステムを非活動状態にしておかなければなりません。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対する使用(*USE)およびオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- 活動サブシステムがこの記述と関連付けられている場合には、このコマンドを実行することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBSBD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

サブシステム記述 (SBSBD)

削除しようとしているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。特定のサブシステム記述または総称サブシステム記述を指定することができ、いずれの場合もライブラリー名で修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

総称名 削除されるサブシステム記述の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。このパラメーターに総称名を指定した場合には、総称サブシステム記述と同じ接頭部を持つ名前のすべてのサブシステム記述が削除されます。

名前 削除しようとしているサブシステム記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。特定のオブジェクト名（総称名ではなく）を指定した場合には、最初に見つかったその名前のオブジェクトだけが削除されます。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ライブラリー・リストのユーザー一部分にリストされたライブラリーだけが検索されます。特定のオブジェクト名（総称名ではなく）を指定した場合には、最初に見つかったその名前のオブジェクトだけが削除されます。

***ALL** 現在スレッドのライブラリー名スペースの一部となっている補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。これには、システムASP (ASP 1), すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。ユーザーの固有のQTEMPライブラリーだけが検索されます。スレッドの名前スペースのすべてのライブラリーの、指定された名前およびオブジェクト・タイプと一致したすべてのオブジェクトが削除されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXX    QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSCR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 サブシステム記述が入っているライブラリーを指定します。

[トップ](#)

例

DLTSBSD SBSD(LIB1/BAKER)

このコマンドは、BAKERと呼ばれる非活動状態のサブシステム記述をライブラリーLIB1から削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF5702

ファイルがDDMファイルでないか、あるいは見つからない。

[トップ](#)

検索見出し削除 (DLTSCHIDX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

検索見出し削除(DLTSCHIDX)コマンドは、指定されたヘルプ見出しをシステムから除去します。

制約事項:

- パネル・グループに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限と、パネル・グループが入っているライブラリーに対する使用(*USE)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SCHIDX	検索見出し	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 検索見出し	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

検索見出し (SCHIDX)

削除するヘルプ見出しを指定します。

これは必須パラメーターです。

総称名 削除されるヘルプ見出しの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称パネル・グループ名と同じ接頭部をもつ名前のすべてのヘルプ見出しが削除されます。

名前 削除しようとするヘルプ見出しの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGGL      QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX  QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
DLTSCHIDX  SCHIDX(*CURLIB/AR*)
```

このコマンドは、現行ライブラリーとしてリストされたライブラリーから、名前の接頭部がARのすべての検索見出し（たとえばARINV, ARREC, ARPERS)を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

スペル援助辞書削除 (DLTSPADCT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

THE DELETE SPELLING AID DICTIONARY (DLTSPADCT) COMMAND ALLOWS YOU TO DELETE THE SPECIFIED SPELLING AID DICTIONARY FROM THE SYSTEM.

RESTRICTION: YOU MUST HAVE OBJECT EXISTENCE OR ALL AUTHORITY FOR THE SPELLING AID DICTIONARY BEING DELETED.

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SPADCT	スペル援助辞書	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: スペル援助辞書	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

スペル援助辞書 (SPADCT)

SPECIFIES THE DICTIONARY OR DICTIONARIES TO BE DELETED. A SPECIFIC SPELLING AID DICTIONARY OR GENERIC SPELLING AID DICTIONARY CAN BE SPECIFIED; EITHER TYPE CAN BE QUALIFIED BY A LIBRARY NAME.

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

SPELLING-AID-DICTIONARY-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE SPELLING AID DICTIONARY TO BE DELETED.

GENERIC*-SPELLING-AID-DICTIONARY-NAME

SPECIFY THE GENERIC NAME OF THE SPELLING AID DICTIONARY THAT IS TO BE DELETED. A GENERIC NAME IS ONE OR MORE CHARACTERS FOLLOWED BY AN ASTERISK (*). IF A GENERIC NAME IS SPECIFIED, ALL SPELLING AID DICTIONARIES THAT HAVE NAMES WITH THE SAME PREFIX AS THE GENERIC SPELLING AID DICTIONARY NAME ARE DELETED.

THE POSSIBLE LIBRARY VALUES ARE:

***LIBL** ALL LIBRARIES JOB'S LIBRARY LIST ARE SEARCHED UNTIL THE FIRST MATCH IS FOUND. IF A SPECIFIC SPELLING AID DICTIONARY NAME IS SPECIFIED (RATHER THAN A GENERIC NAME), ONLY THE FIRST SPELLING AID DICTIONARY FOUND WITH THAT NAME IS DELETED.

***CURLIB**

THE CURRENT LIBRARY FOR THE USER'S JOB IS SEARCHED.

LIBRARY-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE LIBRARY WHERE THE DICTIONARY IS LOCATED.

YOU MUST HAVE OPERATIONAL AUTHORITY FOR THE LIBRARY SPECIFIED.

トップ

例

DLTSPADCT SPADCT(MYLIB/LANGUAGE)

THIS COMMAND DELETES THE SPELLING AID DICTIONARY NAMED LANGUAGE IN LIBRARY MYLIB.

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE メッセージ**

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

トップ

スプール・ファイル削除 (DLTSPLF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

スプール・ファイル削除(DLTSPLF)コマンドは、指定されたスプール・ファイルを出力待ち行列から除去するために使用されます。スプール・ファイルが現在装置で作成中の場合には、即時に処理が停止され、除去されます。生成されなかったデータはすべて失われます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	スプール・ファイル	名前, *SELECT	必須, 定位置 1
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST, *ANY	オプション, 定位置 3
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成時刻	時刻, *ONLY, *LAST	
SELECT	ファイル選択	要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー	名前, *CURRENT, *ALL	
	要素 2: 印刷装置	名前, *ALL, *OUTQ	
	要素 3: 用紙タイプ	文字値, *ALL, *STD	
	要素 4: ユーザー・データ	文字値, *ALL	
要素 5: ASP	1-32, *ALL, *ASPDEV		
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション

[トップ](#)

スプール・ファイル (FILE)

出力待ち行列から除去するスプール・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

*SELECT

ファイル選択 (SELECT)パラメーターに指定された選択値を満たすすべてのスプール・ファイルが削除されます。この値は、ジョブ名 (JOB)パラメーター、スプール・ファイル番号 (SPLNBR)パラメーター、ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)パラメーター、または作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)パラメーターに指定される値と相互に排他的です。

名前 システムから除去するスプール・ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

出力待ち行列から除去されるスプール・ファイルを作成した（あるいは作成中である）ジョブの名前を指定します。

単一値

* このコマンドを出したジョブが、削除するスプール・ファイルを作成したジョブです。

修飾子1: ジョブ名

名前 削除するファイルを作成したジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

スプール・ファイルを作成したジョブのシステム割り当てジョブ番号を指定してください。

[トップ](#)

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

出力待ち行列から除去するジョブのスプール・ファイルの番号を指定します。

*ONLY

ジョブ内の1つのスプール・ファイルだけが指定されたファイル名をもっています。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

*LAST

ジョブで作成され、指定されたファイル名の最高の番号を持つスプール・ファイルが削除されるファイルになります。

*ANY 使用するスプール・ファイルを決断するのに、スプール・ファイル番号は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、スプール・ファイル番号よりジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

スプール・ファイル番号

指定されたファイル名を持ち、削除されるスプール・ファイルの番号を指定してください。

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター) が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時を持つスプール・ファイルは、1つです。

*CURRENT

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時を持つ現行システム上で作成されたスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決定するのに、ジョブ・システム名は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、ジョブ・システム名よりスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

名前 スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定します。

トップ

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

単一値

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名を持つスプール・ファイルは、1つです。

*LAST

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最後の作成日時を持つスプール・ファイルが使用されます。

要素1: 作成日

日付 スプール・ファイルが作成された日付を指定します。

要素2: 作成時刻

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日を持つスプール・ファイルは、1つです。

*LAST

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最後の作成時刻を持つスプール・ファイルが使用されます。

時刻 スプール・ファイルが作成された時刻を指定します。

[トップ](#)

ファイル選択 (SELECT)

削除するために選択するファイルのグループを指定します。次の定位置値を使用して、ファイルを選択することができます。すなわち、ファイルを作成したユーザー、ファイルが待機している装置、指定された用紙タイプ、ファイルと関連したユーザー・データ・タグ、またはファイルが入っている補助記憶域プールです。各値と一致するファイルだけが選択されます。

要素1: ユーザー

*CURRENT

このコマンドを実行中のユーザーによって作成されたファイルだけが選択されます。

***ALL** すべてのユーザーによって作成されたファイルが選択されます。

名前 ユーザー名を指定してください。そのユーザー名によって作成されたファイルだけを選択します。

要素2: 印刷装置

***ALL** 装置作成またはユーザー作成の出力待ち行列上にあるファイルが選択されます。

*OUTQ

ユーザー作成の出力待ち行列のすべてのファイルが選択されます。ユーザー作成の出力待ち行列とは、装置によって自動的に作成されない出力待ち行列です。ユーザー作成の出力待ち行列は通常は装置と同じ名前にはなりません。同じ名前の場合には、それはライブラリーQUSRSYS内にはありません。

名前 装置名を指定してください。その装置の装置作成の出力待ち行列に入れられたファイルだけが選択されます。装置作成の出力待ち行列は装置と同じ名前を持ち、QUSRSYSライブラリーにあります。この出力待ち行列がすでに存在していなければ、装置の作成時にシステムによって自動的に作成されます。装置作成の出力待ち行列を削除することはできません。

要素3: 用紙タイプ

***ALL** すべての用紙タイプのファイルが選択されます。

***STD** 標準用紙タイプを指定するファイルだけが選択されます。

用紙タイプ

ファイルを選択する用紙タイプを指定してください。

要素4: ユーザー・データ

***ALL** ユーザー・データ・タグが指定されているファイルがどれも選択されます。

ユーザー・データ

ファイルを選択するためのユーザー・データ・タグを指定してください。

要素5: ASP

***ALL** 補助記憶域プール装置(ASPDEV)パラメーターに指定された通りにすべてのファイルが選択されます。

***ASPDEV**

補助記憶域プール装置(ASPDEV)パラメーターに指定されたファイルが選択されます。

1から32

選択するファイルの補助記憶域プール(ASP)を指定してください。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

選択されるスプール・ファイルが入っている補助記憶域プール装置名を指定します。このパラメーターが有効なのは、選択パラメーターのASP番号(ASP)要素が*ALLまたは*ASPDEVである場合だけです。

* 現在スレッドのライブラリー名スペースの一部となっているASPで見つかったファイルが選択されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、また、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ内の1次および2次ASPが含まれます。

***SYSBAS**

システムASP (ASP 1)およびすべての定義済みユーザーASP (ASP 2から32)で見つかったファイルが選択されます。

***CURASGRP**

スレッドのASPグループの1次および2次ASPで見つかったファイルが選択されます。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

名前 補助記憶域プール装置記述の名前を指定してください。指定された1次または2次ASPで見つかったファイルが選択されます。スレッドのASPグループ内にある1次または2次ASPのみを指定することができます。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

[トップ](#)

例

```
DLTSPLF FILE(WEEKLY) JOB(000146/SMITH/PAYROLL5)
```

このコマンドは、(ユーザーSMITHのためのジョブ番号000146のジョブPAYROLL5の) WEEKLYという名前のスプール・ファイルを出力待ち行列から削除します。PAYROLL5という名前のジョブによって作成された別の名前をもつスプール・ファイルは、このコマンドの影響を受けません。ジョブがWEEKLYという名前のファイルを1つ以上作成した場合には、SPLNBR(*ONLY)とみなされているためにファイルは削除されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF337E

ASP装置&1がスレッドの現行ASPグループにありません。

CPF337F

ASP番号&2ではASP装置&1は使用できません。

CPF33D0

印刷装置&1が存在していない。

CPF33D1

ユーザー&1が存在していない。

CPF3303

ファイル&1はジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

CPF3309

&1という名前のファイルは活動状態でない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3340

指定された名前のファイルが、ジョブ&5/&4/&3で複数個見つかった。

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3が見つからない。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3344

ファイル&1番号&8はもはやシステムにない。

CPF34A4

ファイル&1番号&8は保留または削除されない。

CPF3478

ファイル&1はライブラリー&7の出力待ち行列&6のジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

CPF3492

スプール・ファイルに対しては許可されていない。

CPF8128

ライブラリー&9の出力待ち行列&4に&8の損傷がある。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRP PRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

[トップ](#)

SQLパッケージの削除 (DLTSQLPKG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構造化照会言語パッケージ削除(DLTSQLPKG)コマンドは、1つのSQLパッケージまたは1グループのパッケージを削除するために使用されます。

DLTSQLPKGはローカル・コマンドであり、削除するSQLパッケージが存在しているISERIESシステム上で使用しなければなりません。

ISERIESシステムでもあるリモート・システム上のSQLパッケージを削除するには、リモート・コマンド投入(SBMRMTCMD)コマンドを使用して、リモート・システム上でDLTSQLPKGコマンドを実行してください。

ユーザーは、ISERIESシステムではないリモート・システムからSQLパッケージを削除するために、以下を実行できます。

- 対話式SQLを使用してCONNECT操作およびDROP PACKAGE操作を実行します。
- リモート・システムにサインオンして、コマンドをそのシステムのローカルとして使用する。
- DROP PACKAGE SQLステートメントを含むSQLプログラムを作成および実行します。

制約事項:

- リモート・システムのSQLパッケージを削除するために、DLTSQLPKGコマンドを使用することはできません。リモート・システムからSQLパッケージを削除するためには、次の1つを実行してください。
 - SQLを対話式に使用して、CONNECTおよびDROP PACKAGEステートメントを実行する。
 - リモート・システムにサインオンして、コマンドをそのシステムのローカルとして使用する。
 - DROP PACKAGE SQLステートメントが入っているSQLプログラムを作成し、実行する。
- このコマンドを実行するには、SQLパッケージに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限、およびSQLパッケージが入っているライブラリーに対する読み取り(*READ)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SQLPKG	SQLパッケージ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: SQLパッケージ	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

SQLパッケージ (SQLPKG)

削除するSQLパッケージを指定します。総称SQLパッケージ名を指定することによって、複数のSQLパッケージを削除することができます。

修飾子1: SQLパッケージ

総称名 削除するSQLパッケージの総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くにアスタリスク(*)からなる文字ストリングです。

名前 削除するSQLパッケージの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

例

```
DLTSQLPKG SQLPKG(JONES)
```

このコマンドは、SQLパッケージJONESを削除します。

エラー・メッセージ

なし

サービス構成の削除 (DLTSRVCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス構成の削除 (DLTSRVCFG)コマンドは、すべてのサービスおよびサポート・アプリケーション (エレクトロニック支援(ECS), ELECTRONIC SERVICE AGENT,およびINFORMATION CENTER UPDATE)のために使用されるサービス構成を削除します。基本構成とバックアップ構成が削除されます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- DLTCMNCFG(*YES)が指定されている場合は、該当するサービス構成オブジェクト (回線, 制御装置, および装置記述) に対してオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLTCMNCFG	通信構成の削除	*NO, *YES	オプション, 定位置 1

[トップ](#)

通信構成の削除 (DLTCMNCFG)

サービス構成に関連したすべての通信構成を削除するかどうかを指定します。これには、このサービス構成とともに使用するよう定義された接続プロファイル, 回線記述, 制御装置記述, および装置記述が含まれます。

注: 通信構成オブジェクトは、別のプロファイルによって参照されている場合には、削除されません。

***NO** サービス構成オブジェクトは削除されません。

***YES** サービス構成オブジェクトは削除されます。

[トップ](#)

例

例1:通信オブジェクトの削除

DLTSRVCFG DLTCMNCFG(*YES)

このコマンドは、エレクトロニック支援(ECS), ELECTRONIC SERVICE AGENT,およびINFORMATION CENTER UPDATEが使用するサービス構成を削除します。この構成の通信オブジェクトは、別の通信構成と共有されていない場合に削除されます。

例2:通信オブジェクトの非削除

DLTSRVCFG DLTCMNCFG(*NO)

このコマンドは、エレクトロニック支援(ECS), ELECTRONIC SERVICE AGENT,およびINFORMATION CENTER UPDATEが使用するサービス構成を削除します。この構成の通信オプションは削除されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

TCP8205

必要なオブジェクト&2/&1タイプ*&3が見つからない。

TCP8211

POINT-TO-POINTプロファイル&1が見つかりません。

[トップ](#)

サービス・プログラムの削除 (DLTSRVPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・プログラム削除(DLTSRVPGM)コマンドは、バインドされたサービス・プログラムまたはサービス・プログラムのグループを、モジュールとバインド・ディレクトリーの1つのセットから削除します。

制約事項:

- サービス・プログラムに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が必要です。
- サービス・プログラムを削除するライブラリーに対して実行(*EXECUTE)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SRVPGM	サービス・プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サービス・プログラム	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

サービス・プログラム (SRVPGM)

削除するサービス・プログラムを指定します。特定サービス・プログラムまたは総称サービス・プログラムを指定することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サービス・プログラム

総称名 削除するサービス・プログラムの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば, ABC*など) です。総称名が指定された場合には、その総称名で始まる名前のサービス・プログラムで、それに対してユーザーが権限をもっているすべてのサービス・プログラムが削除されます。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全なサービス・プログラム名と見なします。

名前 削除するサービス・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM     QUSRRDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

例

```
DLTSRVPGM  SRVPGM(XYZ/S*)
```

このコマンドは、文字Sで始まっているライブラリーXYZ内のサービス・プログラムのすべてを削除します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

- CPF2110**
ライブラリー&1が見つかりません。
- CPF2113**
ライブラリー&1を割り振ることができない。
- CPF2114**
&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。
- CPF2117**
タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。
- CPF2125**
オブジェクトは削除されなかった。
- CPF2160**
オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。
- CPF2176**
ライブラリー&1に損傷がある。
- CPF2182**
ライブラリー&1の使用は認可されていない。
- CPF2189**
&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。
- CPFA030**
オブジェクトはすでに使用中である。
- CPFE007**
コマンドの処理中にエラーが起こった。
- CPF9803**
ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

トップ

テープ・カテゴリーの削除 (DLTTAPCGY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ・カテゴリー削除(DLTTAPCGY)コマンドは、前にテープ・カテゴリー作成(CRTTAPCGY)コマンドによって作成されたユーザー定義カテゴリー名を削除します。このカテゴリーに現在カートリッジIDが割り当てられている場合には、カテゴリーは削除されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CGY	カテゴリー	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: カテゴリー名	文字値	
	要素 2: カテゴリー・システム	文字値, <u>*CURRENT</u>	

[トップ](#)

カテゴリー (CGY)

削除するカテゴリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

要素1: カテゴリー名

文字値 ユーザー定義のカテゴリーの名前を指定してください。このカテゴリー名は、前にテープ・カテゴリー作成(CRTTAPCGY)コマンドによって作成されたものでなければなりません。

要素2: カテゴリー・システム

カテゴリーが属するシステムを識別します。システム名は、ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドの現行システム名フィールドから取られます。

*CURRENT

現在コマンドを実行中のシステム。

文字値 カテゴリーの基本所有者であるシステムの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

DLTTAPCGY CGY(CAT1 RCHAS215)

このコマンドは、ユーザー定義のCAT1という名前のカテゴリーを基本所有者RCHAS215から削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF67C6

カテゴリー&4は削除されなかった。

CPF67E3

カテゴリーは削除されなかった。

[トップ](#)

テーブル削除 (DLTTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テーブル削除(DLTTBL)コマンドは、指定したテーブル（複数の場合もある）を削除します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TBL	テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: テーブル	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

テーブル (TBL)

削除されるテーブルの名前を指定します。特定テーブルまたは総称テーブルを指定することができ、いずれのタイプもライブラリー名によって任意に修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

テーブル名

削除されるテーブルの修飾名を指定してください。

総称*テーブル名

削除されるテーブルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とそれに続くアスタリスク（*）からなる文字ストリングとして指定することができます。総称名を指定した場合には、総称テーブル名と同じ接頭部のある名前のすべてのテーブルが削除されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

削除されるテーブルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGGL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

ライブラリー名を指定してください。このパラメーターに指定したライブラリーだけが、削除されるテーブルを見つけるために検索されます。

[トップ](#)

例

```
DLTTBL  TBL(SCRAMTBL)
```

このコマンドは、SCRAMTBLという名前のテーブルをシステムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

[トップ](#)

時間帯記述削除 (DLTTIMZON)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

時間帯記述削除 (DLTTIMZON)コマンドは、指定された時間帯記述オブジェクトを削除します。

制約事項:

- 削除する時間帯記述に対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が必要です。
- QSYSライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- QTIMZONシステム値に指定された時間帯記述を削除することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TIMZON	時間帯記述	総称名, 名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

時間帯記述 (TIMZON)

削除する時間帯記述を指定します。

これは必須パラメーターです。

総称名 削除する時間帯記述の総称名を指定します。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部を持つ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 時間帯記述の名前を指定します。

[トップ](#)

例

DLTTIMZON TIMZON(CENTRAL)

このコマンドは、時間帯記述CENTRALを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF09A2

時間帯記述&1は削除されていません。

CPF1842

システム値&1をアクセスすることができない。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

トレースの削除 (DLTTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

トレース・データの削除(DLTTRC)コマンドは、ENDTRC (トレースの終了)コマンドによってデータベース・ファイルのセットに保管したトレース・データを削除します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限を持っているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してオペレーティング・システムのサービス・トレース機能に許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDを持つ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、トレース操作を実行できるユーザーのリストを変更するために使用できません。
- このコマンドを使用するには、トレース・データが保管されるそのライブラリー内のライブラリーおよびデータベース・ファイルに対する権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTAMBR	データ・メンバー	名前	オプションル、 位置 1
DTALIB	データ・ライブラリー	名前, *CURLIB	オプションル

[トップ](#)

データ・メンバー (DTAMBR)

削除したいトレース・データを含むデータベース・ファイル・メンバーを指定します。このメンバー名は、トレースの開始(STRTRC)およびトレースの終了(ENDTRC)コマンドに指定したトレース・セッションIDと同じです。メンバー名は、トレース・データが入っている各物理ファイルと同じです。

これは必須パラメーターです。

名前 トレース・データが入っているデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

[トップ](#)

データ・ライブラリー (DTALIB)

収集されたトレース・データが記憶される、データベース・ファイルのセットが入っているライブラリーを指定します。

***CURLIB**

トレース・データは、ジョブの現行ライブラリー中のファイルから削除されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 トレース・データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

例

DLTTRC DTAMBR(MYTRACE) DTALIB(MYTRCLIB)

このコマンドは、トレース・セッションMYTRACEと関連したトレース・データが入っているライブラリーMYTRCLIB中のファイルのデータベース・ファイル・メンバーを除去します。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPC3925

&1メンバーが除去されて、&2メンバーが除去されていない。

CPF39CE

DLTTRCコマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF98A2

&1コマンドは認可されていない。

トップ

ユーザー定義FSの削除 (DLTUDFS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー定義ファイル・システム削除(DLTUDFS)コマンドは、既存のアンマウントされたユーザー定義ファイル・システム(UDFS)とその中のすべてのオブジェクトを削除します。UDFSがマウントされている場合には、このコマンドは正常に実行されません。

制約事項:

1. 削除するUDFSはマウントされてはなりません。
2. このコマンドを指定できるのは、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限を持つユーザーだけです。
3. ユーザーは、UDFS内のすべてのオブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限を持っていないければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
UDFS	ユーザー定義ファイル・システム	パス名	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ユーザー定義ファイル・システム (UDFS)

削除する既存のUDFSのパス名を指定します。これは、次の2つの形式のうちの一つでなければなりません。

- `/DEV/QASPXX/UDFSNAME.UDFS`,ここで、`XX`は有効なシステムまたは基本ユーザー補助記憶域プール(ASP)番号の一つで、`UDFSNAME`はユーザー定義ファイル・システムの名前です。名前の他の各部分はすべて上記の例のように指定しなければなりません。
- `/DEV/ASPNAME/UDFSNAME.UDFS`,ここで`ASPNAME`はシステムの有効な独立ASP名の一つで、`UDFSNAME`はユーザー定義ファイル・システムの名前です。名前の他の各部分はすべて上記の例のように指定しなければなりません。

パスの名前部分は、指定された`QASPXX`または`ASPNAME`ディレクトリー内で固有でなければなりません。

*'および?'などのワイルドカード文字は、このパラメーターでは使用できません。指定されたUDFSが現在マウントされている場合には、このコマンドは正常に実行されません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

例1: ユーザー定義ファイル・システムの削除

```
DLTUDFS  UDFS('/DEV/QASP01/JOE.UDFS')
```

このコマンドは、システム補助記憶域プール(ASP 1)から*JOE.UDFS*という名前のユーザー定義ファイル・システム(UDFS)を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09E

オブジェクトが使用中。オブジェクトは&1です。

CPFA0AC

要求を完了することができない。ディレクトリーにオブジェクトが入っています。

CPFA1B8

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

ユーザー見出し削除 (DLTUSRIDX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー索引削除(DLTUSRIDX)コマンドはシステムからユーザー見出しを削除します。

制約事項:このコマンドを入力するためには、削除するユーザー見出しに対する*OBJEXIST権限および*USE権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRIDX	ユーザー見出し	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ユーザー見出し	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

ユーザー見出し (USRIDX)

削除するユーザー見出しの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPLIB     #RPLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGGL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

指定できるユーザー見出しの値は次の通りです。

ユーザー見出し名

削除するユーザー見出しの名前を指定してください。

総称*ユーザー見出し名

ユーザー見出しの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば、ABC*)です。総称名を指定した場合には、総称名で始まる名前のすべてのユーザー見出し、およびユーザーが権限をもっているユーザー見出しが表示されます。

[トップ](#)

例

```
DLTUSRIDX  USRIDX(MYBEST/USRIDXTEST)
```

このコマンドは、MYBESTという名前のライブラリーのUSRIDXTESTという名前のユーザー索引をシステムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル削除 (DLTUSRPRF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・プロファイル削除(DLTUSRPRF)コマンドは、システムからユーザー・プロファイルを削除します。このコマンドのユーザーには、プログラム借用操作によって得ることができる、機密保護管理者(*SECADM)特殊権限、および削除されるユーザー・プロファイルに対してのオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限および使用(*USE)権限が必要です。

このユーザー・プロファイルと関連付けられたメッセージ待ち行列が自動的に削除されるのは、そのユーザー・プロファイルがそのメッセージ待ち行列の所有者である場合です。

ユーザー・プロファイルがシステム障害によって損傷している場合には、ユーザー・プロファイル削除(DLTUSRPRF)コマンドを使用してプロファイルを削除し、ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)コマンドを使用して再作成することができます。ユーザー・プロファイルの再作成後に、所有していたオブジェクトと1次グループ・オブジェクトを元に戻すことができます。また、オブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)コマンドを使用して、損傷したプロファイルに認可されていた権限を新しいユーザー・プロファイルに再度認可することができます。

制約事項:

- このユーザー・プロファイルに対して使用(*USE)およびオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限を持っていないければなりません。
- このユーザー・プロファイルと関連づけられ、このプロファイルにより所有されているメッセージ待ち行列を削除するためには、*OBJEXIST、*USE、および削除(*DLT)権限を持っていないければなりません。
- ユーザーがそのプロファイルのもとで現在実行中であつたり、そのプロファイルがオブジェクトを所有し、OWNOBJOPT(*NODLT)が指定されている場合には、ユーザー・プロファイルを削除することはできません。そのユーザー・プロファイル内のすべてのオブジェクトは、最初にオブジェクト所有者変更(CHGOBJOWN)コマンドを使用して新しい所有者に転送するか、あるいはシステムから削除する必要があります。これは、また、オブジェクトを削除するためのOWNOBJOPT(*DLT)または所有権を変更するためのOWNOBJOPT(*CHGOWNユーザー・プロファイル名)を指定することによっても実行することができます。ユーザーに認可された権限は、オブジェクト権限取り消し(RVKOBJAUT)コマンドによって明示的に取り消す必要はありません。ユーザー・プロファイルが削除された時に自動的に取り消されます。
- オブジェクトを削除するには、そのオブジェクトに対する*OBJEXIST権限を持っていないければなりません。
- ユーザー・プロファイルがオブジェクトの1次グループである場合には、このプロファイルを削除することはできません。ユーザーが1次グループであるオブジェクトは、オブジェクト1次グループ変更(CHGOBJPGP)コマンドを使用して新しいユーザーにすべて転送するか、あるいはシステムからすべて削除しないければなりません。転送は、1次グループを変更するPGPOPT(*CHGPGPユーザー・プロファイル名)を指定して行なうことができます。
- このコマンドは、システム配布ディレクトリー・サポートを呼び出してユーザーをディレクトリーから削除し、必要な場合にはそのユーザーを配布リストから削除します。システム配布ディレクトリー・サポートでは、システム配布ディレクトリー・ファイル(QUSURSYS/QAOS*)についてジャーナル処理およ

びコミットメント制御が使用されます。この機能が要求された場合には、コミットメント制御は非活動状態でなければなりません。この機能が要求された時にコミットメント制御が活動状態になっていた場合には、ジャーナルはQUSRSYS/QAOSDIAJRNでなければなりません。

追加の考慮事項

1. 所有オブジェクト・タイプの*USRPRF, *RCT, および*AUTHLRはシステムから削除されません。これらのオブジェクト・タイプの所有権は、ユーザー・プロファイルQDFTOWNに転送されます。
2. タイプが*PRDDFNの所有オブジェクトは削除されません。所有権はユーザー・プロファイルQSYSに転送されます。
3. 上記の制約事項に加えて、DLTLIBに適用されるすべての制限がOWNOBJOPT(*DLT)の指定にも適用されます。たとえば、オブジェクトが使用中であった場合には、それを削除することはできません。あるいは、物理ファイルに、別のユーザーによって所有されている関連論理ファイルがあった場合には、その物理ファイルを削除することはできません。
4. 別のユーザー・プロファイルによって所有されているオブジェクトがライブラリーに含まれていた場合には、タイプが*LIBの所有オブジェクトはシステムから削除されません。ライブラリーの所有権はシステム・ユーザー・プロファイルQDFTOWNに転送されます。
5. 別のユーザー・プロファイルによって所有されているオブジェクトがディレクトリーに含まれていた場合には、タイプが*DIRの所有オブジェクトはシステムから削除されません。ディレクトリーの所有権はシステム・ユーザー・プロファイルQDFTOWNに転送されます。
6. *BLKSFによって表されるユーザー定義のファイル・システムに、別のユーザー・プロファイルによって所有されているオブジェクトが含まれている場合には、タイプが*BLKSFの所有オブジェクトはシステムから削除されません。ユーザー定義のファイル・システムの所有権はシステム・ユーザー・プロファイルQDFTOWNに転送されます。
7. 1つのユーザー・プロファイルがオブジェクトの所有者であると同時にそのオブジェクトの1次グループであることはできません。したがって、すでに新しい所有者が現行ユーザーの所有するオブジェクトの1次グループであった場合には、所有権の転送は正常に実行されません。また、新しい1次グループが、現行ユーザーが1次グループとなっているオブジェクトをすでに所有している場合にも、1次グループの転送は正常に実行されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前	必須, 定位置 1
OWNOBJOPT	所有オブジェクト・オプション	単一値: *NODLT, *DLT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 所有オブジェクト値	*CHGOWN	
	要素 2: ユーザー・プロファイル名(*CHGOWN)	名前	
PGPOPT	1次グループ・オプション	単一値: *NOCHG その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 1次グループ値	*CHGPGP	
	要素 2: 新しい1次グループ	名前, *NONE	
	要素 3: 新しい1次グループ権限	*OLDPGP, *PRIVATE, *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	

キーワード	記述	選択項目	注
EIMASSOC	EIM関連	*DLT, *NODLT	オプション

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

削除するユーザー・プロファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

注: 次のIBM提供ユーザー・プロファイルはこのパラメーターでは無効です。

QANZAGENT, QAUTPROF, QCLUMGT, QCLUSTER, QCOLSRV, QDBSHR, QDBSHRDO, QDFTOWN, QDIRSRV, QDLFM, QDOC, QDSNX, QEJB, QEJBSVR, QFNC, QGATE, QIBMHELP, QIPP, QLPAUTO, QLPINSTALL, QMGTC, QMSF, QNETSPLF, QNFSANON, QNTP, QPEX, QPGMR, QPM400, QSECOFR, QSNADS, QSPL, QSPLJOB, QSRV, QSRVAGT, QSRVBAS, QSYS, QSYSOPR, QTCM, QTCP, QTFTP, QTMHHTTP, QTMHHTTP1, QTSTRQS, QUSER, QYCMCIMOM, QYPSJSVR

名前 削除するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

トップ

所有オブジェクト・オプション (OWNOBJOPT)

ユーザー・プロファイルの所有オブジェクトで実行される操作のタイプを指定します。

単一値

*NODLT

ユーザーがオブジェクトを所有している場合には、このユーザー・プロファイルの所有オブジェクトは変更されず、ユーザー・プロファイルは削除されません。

***DLT** ユーザー・プロファイルの所有オブジェクトは削除されます。すべての所有オブジェクトの削除が正常に行なわれた場合には、ユーザー・プロファイルが削除されます。

要素1: 所有オブジェクト値

*CHGOWN

ユーザー・プロファイルの所有オブジェクトの所有権が、指定されたユーザー・プロファイルに転送されます。すべての所有オブジェクトの転送が正常に完了した場合には、そのユーザー・プロファイルは削除されます。

*CHGOWNを指定した場合には、新規ユーザー・プロファイルのユーザー・プロファイル名を指定する必要があります。この新規ユーザー・プロファイルが、**ユーザー・プロファイル (USRPRF)**パラメーターで指定されたユーザー・プロファイルが所有していたすべてのオブジェクトを所有します。

要素2: ユーザー・プロファイル名(*CHGOWN)

名前 新規所有者となるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

トップ

1 次グループ・オプション (PGPOPT)

削除するユーザー・プロファイルが1次グループであるオブジェクトで実行される操作のタイプを指定します。

単一値

***NOCHG**

ユーザー・プロファイルが1次グループであるオブジェクトは変更されません。また、ユーザーがオブジェクトの1次グループである場合には、そのユーザー・プロファイルは削除されません。

要素1: 1 次グループ値

***CHGPGP**

ユーザー・プロファイルが1次グループであるオブジェクトは、指定されたユーザー・プロファイルに転送されます。すべてのオブジェクトの転送が正常に完了した場合には、そのユーザー・プロファイルは削除されます。

*CHGPGPが指定された場合には、ユーザー・プロファイル名または*NONEを指定しなければなりません。ユーザー・プロファイル名を指定した場合には、そのユーザーは、USRPRFパラメーターで指定されたユーザー・プロファイルが1次グループとなるすべてのオブジェクトの1次グループとなります。*NONEが指定された場合には、USRPRFパラメーターで指定されたユーザー・プロファイルが1次グループとなるすべてのオブジェクトは、もはや1次グループをもっていません。

要素2: 新しい1 次グループ

***NONE**

このオブジェクトには、1次グループはありません。

名前 新規1次グループとなるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。指定されたユーザー・プロファイルには、グループID番号(**GID**)がなければなりません。

要素3: 新しい1 次グループ権限

***OLDPGP**

新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して旧1次グループが持っていたものと同じ権限を持ちます。

***PRIVATE**

新しい1次グループがそのオブジェクトに対して専用認可を持っている場合には、これがそのオブジェクトの1次グループとなり、1次グループの権限はその専用認可であった内容となります。新しい1次グループがオブジェクトに対する専用認可を持っていない場合には、それが1次グループになりますが、オブジェクトに対するどんな権限も持ちません。

***ALL** 新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して*ALL権限を持ちます。

***CHANGE**

新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して*CHANGE権限を持ちます。

***USE** 新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して*USE権限を持ちます。

***EXCLUDE**

新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して*EXCLUDE権限を持ちます。

トップ

EIM関連 (EIMASSOC)

ローカル・レジストリー内のこのユーザーのエンタープライズ識別マッピング(EIM)関連を削除するかどうかを指定します。ローカル・レジストリー内のこのユーザーのすべての関連タイプ (ターゲット, ソース, 管理, およびポリシーを含む) が削除されます。

このシステムがEIM用に構成されていない場合は、無処理です。このシステムがEIM用に構成されているが、EIMへの接続が失敗する (たとえば、EIMを使用するように構成されているが、アクティブではないLDAPサーバーなど) 場合は、1時間の間はEIMへの接続を試みるQSYEIMジョブが投入されます。EIM関連を削除できなくても、プロファイルの削除が失敗する原因にはなりません。

関連が削除されないと、同じ名前で作成されるプロファイルがこれらの関連を使用することになります。

***DLT** EIM関連は削除されます。

***NODLT**

EIM関連は削除されません。

[トップ](#)

例

DLTUSRPRF USRPRF(JJADAMS)

このコマンドは、オブジェクトをユーザー・プロファイルが所有していなくて、ユーザーがそのもとで実行中ではなく、さらにそのユーザーが任意のオブジェクトの1次グループでない場合は、JJADAMSという名前のユーザー・プロファイルをシステムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPFA030

オブジェクトはすでに使用中である。

CPF22BF

ユーザー・プロファイル&1は削除されなかった。

CPF22B3

ユーザー・プロファイル&1は削除されなかった。

CPF22C1

NEWOWNとUSRPRFパラメーターを同じにすることはできない。

CPF220A

新しい所有者&1にユーザーIDがない。

CPF220B

新しい1次グループ&1にグループIDがない。

CPF220C

所有者と1次グループを同じにすることはできない。

CPF2203

ユーザー・プロファイル&1が正しくない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF221A

ユーザー・プロファイル&1は削除されなかった。

CPF221E

ユーザー・プロファイル&1は削除されなかった。

CPF221F

PGPOPTパラメーターとUSRPRFパラメーターを同じにすることはできない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2215

ユーザー・プロファイル&1は削除されなかった。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2222

記憶域限界が、ユーザー・プロファイル&1に指定されているものより大きい。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF2227

コマンドの処理中に1つ以上のエラーが起こった。

CPF2229

ユーザー・プロファイルの削除は認可されていない。

CPF2238

ユーザー・プロファイルへのアクセス・パスに損傷がある。

CPF2258

グループ・プロファイル&1は削除されなかった。

CPF2263

&1ユーザー・プロファイルからグループ情報が除去された。

CPF2265

ユーザー・プロファイル&1は削除されなかった。

STATUS メッセージ*CPI2236**

オブジェクト所有権の削除中。

[トップ](#)

ユーザー待ち行列削除 (DLTUSRQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー待ち行列削除(DLTUSRQ)コマンドは、システムからユーザー待ち行列を削除します。このコマンドを入力するユーザーは、削除されるユーザー待ち行列に対する*OBJEXIST権限および*USE権限を持っていないければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRQ	ユーザー待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ユーザー待ち行列	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

ユーザー待ち行列 (USRQ)

削除するユーザー待ち行列の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPLIB     #RPLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGGL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRDRDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

指定できるユーザー待ち行列の値は次の通りです。

ユーザー待ち行列名

削除するユーザー待ち行列の名前を指定してください。

総称*ユーザー待ち行列名

ユーザー待ち行列の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。総称名を指定した場合には、総称名で始まる名前のすべてのユーザー待ち行列、およびユーザーが権限をもっているユーザー待ち行列が表示されます。

[トップ](#)

例

```
DLTUSRQ  USRQ(MYBEST/USRQSAMPLE)
```

このコマンドは、MYBESTという名前のライブラリーのUSRQSAMPLEという名前のユーザー待ち行列をシステムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

ユーザー空間削除 (DLTUSRSPC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー空間削除(DLTUSRSPC)コマンドは、システムからユーザー空間を削除します。このコマンドを入力するユーザーは、削除されるユーザー空間に対する*OBJEXIST 権限および*USE権限を持っていない限りなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRSPC	ユーザー・スペース	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ユーザー・スペース	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

ユーザー・スペース (USRSPC)

削除されるユーザー空間の名前およびライブラリーを指定します。特定のユーザー空間または総称ユーザー空間を指定することができ、ライブラリーによってタイプを任意に修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGGL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

指定できるユーザー空間の値は次の通りです。

ユーザー空間名

削除するユーザー空間の名前を指定してください。

総称*ユーザー空間名

ユーザー空間の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。総称名を指定した場合には、総称名で始まる名前のすべてのユーザー空間、およびユーザーが権限をもっているユーザー空間が表示されます。

[トップ](#)

例

```
DLTUSRSPC  USRSPC(MYBEST/USRSPCTEST)
```

このコマンドは、MYBESTという名前のライブラリーのUSRSPCTESTという名前のユーザー・スペースをシステムから削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

[トップ](#)

ユーザー・トレースの削除 (DLTUSRTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・トレース・バッファ削除(DLTUSRTRC)コマンドは、ユーザー・トレース・バッファおよび指定のジョブのレコードを削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: <u> </u> その他の値: 修飾ジョブ名	オプション、位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前, *ALL, *CURRENT	
	修飾子 2: ユーザー	総称名, 名前, *ALL, *CURRENT	
	修飾子 3: 番号	000000-999999, *ALL	

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

ユーザー・トレース・バッファを削除するジョブを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

* コマンドを実行しているジョブのユーザー・トレース・バッファが削除されます。

指定できるジョブ名修飾子の値は、次の通りです。

*ALL 指定されたユーザー名およびジョブ番号と一致するすべてのジョブのユーザー・トレース・バッファが削除されます。

*CURRENT

現行ジョブ名をもつすべてのジョブのユーザー・トレース・バッファが削除されます。

ジョブ名

ユーザー・トレース・バッファを削除するジョブの名前を指定してください。

総称*ジョブ名

ユーザー・トレース・バッファを削除するジョブの総称ジョブ名を指定してください。

指定できるユーザー名修飾子の値は、次の通りです。

*ALL 指定されたジョブ名およびジョブ番号と一致するすべてのジョブのユーザー・トレース・バッファが削除されます。

***CURRENT**

現行ジョブのユーザー名をもつすべてのジョブのユーザー・トレース・バッファが削除されます。

ユーザー名

ユーザー・トレース・バッファを削除するジョブのユーザーの名前を指定してください。

総称*ユーザー名

ユーザー・トレース・バッファを削除するジョブの総称ユーザー名を指定してください。

指定できるジョブ番号修飾子の値は、次の通りです。

***ALL** 指定されたジョブ名およびユーザー名と一致するすべてのジョブのユーザー・トレース・バッファが削除されます。

ジョブ番号

ユーザー・トレース・バッファを削除するジョブの6桁の番号を指定してください。

[トップ](#)

例

例1:現行ジョブのユーザー・トレース・バッファの削除

```
DLTUSRTRC
```

このコマンドは、現行ジョブのユーザー・トレース・バッファを削除します。

例2:特定ユーザーのユーザー・トレース・バッファの削除

```
DLTUSRTRC JOB(*ALL/JSMITH/*ALL)
```

このコマンドは、ユーザー名JSMITHをもつジョブのすべてのユーザー・トレース・バッファを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPFA98D

ジョブ&3/&2/&1と関連したユーザー・トレース・バッファを削除できなかった。

[トップ](#)

妥当性検査リストの削除 (DLTVLDDL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

妥当性検査リスト削除(DLTVLDDL)コマンドは、指定された妥当性検査リストをライブラリーから削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VLDDL	妥当性検査リスト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 妥当性検査リスト	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

[トップ](#)

妥当性検査リスト (VLDDL)

削除する妥当性検査リストを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 妥当性検査リスト

総称名 削除する妥当性検査リストの総称名を指定してください。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリングです。たとえば、ABC*など。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

名前 削除する妥当性検査リストの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**
ライブラリー・リストのユーザー部分にリストされたライブラリーだけが検索されます。

***CURLIB**
ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***ALL** QSYSを含むシステム上のすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

ジョブのライブラリー・リストのライブラリーだけでなく、ユーザー定義のすべてのライブラリーおよびQGPLライブラリーを含め、システム・ライブラリー以外のすべてのライブラリーが検索されます。名前が英字のQで始まるライブラリー(QGPLライブラリーを除く)は含まれません。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

DLTVLDL VLDL(WEBLIB/WEBUSRS)

このコマンドは、ユーザーがWEBUSRSという名前の妥当性検査リストおよびライブラリーに対して正しい権限をもっている場合は、その妥当性検査リストを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

[トップ](#)

WINDOWSサーバーの削除 (DLTWNTSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

WINDOWSサーバーの削除 (DLTWNTSVR)コマンドは、指定されたWINDOWSネットワーク・サーバー記述およびWINDOWSサーバーの導入 (INSWNTSVR) コマンドによって作成されたすべての関連オブジェクトを削除します。これらのオブジェクトにはネットワーク・サーバー記述、回線記述、TCP/IPインターフェース、サーバー記憶スペース、およびシステム作成のネットワーク・サーバー記憶スペースがあります。このコマンドを出すには、ネットワーク・サーバーをオフラインに変更しなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)および全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWSD	ネットワーク・サーバー記述	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ネットワーク・サーバー記述 (NWSD)

削除するネットワーク・サーバーの名前を指定します。ネットワーク・サーバー名は最大8文字とすることができます。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

WSCSTの削除 (DLTWSCST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト削除(DLTWSCST)コマンドによって、ユーザーはワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを削除することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	名前	
	修飾子 2:	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

削除するワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの修飾名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

オブジェクト名

削除されるオブジェクトの名前を指定します。

[トップ](#)

例

DLTWSCST WSCST(MYLIB/PERSONNEL)

このコマンドは、名前PERSONNELのワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

ジョブ遅延 (DLYJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ遅延 (DLYJOB)コマンドは、指定された秒数だけ、あるいは指定された時刻になるまで現行ジョブを待機させてから、実行を再開します。

注: ジョブ遅延時間 (DLY)パラメーターかジョブ再開時刻 (RSMTIME)パラメーターのどちらかに値を指定しなければなりません、両方に指定する必要はありません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLY	ジョブ遅延時間	1-999999	オプション、位置 1
RSMTIME	ジョブ再開時刻	時刻	オプション、位置 2

[トップ](#)

ジョブ遅延時間 (DLY)

ジョブを遅延する秒数を指定します。DLYキーワードでは、最大値の999999秒（約11日と14時間）を使用することができます。ジョブ再開時刻 (RSMTIME)パラメーターが指定されない場合には、これは必須パラメーターです。

1から999999

ジョブを遅延する秒数を指定します。

[トップ](#)

ジョブ再開時刻 (RSMTIME)

ジョブの実行を再開する時刻を指定します。再開時刻を指定する時には、指定した時刻によって日付が暗示されます。再開時刻が現行時刻よりも後である場合には、日付は現行日付と見なされます。再開時刻が現行時刻よりも前である場合には、翌日の日付と見なされます（遅延は翌日のこの時刻まで続きます）。ジョブ遅延時間 (DLY)パラメーターが指定されない場合には、これは必須パラメーターです。

時刻 ジョブの実行を再開する時刻を指定します。

[トップ](#)

例

例1:ジョブの15秒の遅延

```
DLYJOB DLY(15)
```

このコマンドは、ジョブの実行を15秒遅延させます。

例2:真夜中までのジョブの遅延

```
DLYJOB RSMTIME('000000')
```

このコマンドは、ジョブの実行を真夜中まで遅延させます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

オブジェクト・ダンプ (DMP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ダンプ(DMP)コマンドは、QPSRVDMPという名前のスプール印刷装置ファイルに対する指定された統合ファイル・システム・オブジェクトの内容または属性あるいはその両方をダンプします。内容または属性あるいはその両方をダンプできるかどうかは、オブジェクト・タイプによります。任意の統合ファイル・システム・オブジェクトをダンプすることができますが、このコマンドで一度に指定できるオブジェクトは1つだけです。

制約事項:

- そのオブジェクトを含むディレクトリーに対して読み取りおよび実行(*RX)権限が必要で、オブジェクトに対して読み取り(*R)が必要です。オブジェクトがQSYS.LIBファイル・システムにある場合には、ユーザーはオブジェクトに対する使用(*USE)権限と、ライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。内部文書ライブラリー・オブジェクトをダンプするには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
- ダンプ(DMP)コマンドではパス名にディレクトリーのパターンを指定することはできず、オブジェクト名を指定するだけです。オブジェクト・リンク処理(WRKLNK)コマンドを呼び出して、ディレクトリー中のオブジェクトを参照することができます。
- パス名の指定の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CL」情報の第2章を参照してください。オブジェクト名パターンの詳細説明は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報にあります。
- すべてのファイル・システムがDMPコマンドをサポートするわけではありません。次のローカル・ファイル・システムのリストがサポートされます。
 - ルート・ファイル・システム
 - QOPENSYSファイル・システム
 - QSYS.LIBファイル・システム
 - QDLSファイル・システム
 - ユーザー定義ファイル・システム

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名, * _	オプション的, 定位置 1

トップ

オブジェクト (OBJ)

ダンプするオブジェクトのパス名を指定します。

* 対話式ジョブから呼び出した場合は、「オブジェクト選択」メニューが表示されて、そのジョブの現行ディレクトリー中のすべてのディレクトリーおよびファイルがリストされます。この画面から、ダンプするオブジェクトを選択することができます。DMPコマンドの実行の前に、現行ディレクトリーの変更(CHGCURDIRまたはCDまたはCHDIR)コマンドを使用して、現行ディレクトリーを変更することができます。

パス名 ダンプするオブジェクトのパス名を指定します。パターンがこのパラメーターで指定され、複数のオブジェクトがパターンと一致する場合には、対話式ジョブのリストからオブジェクトを選択することができます。これがバッチ・ジョブの場合には、コマンドはエラー・メッセージで失敗します。

トップ

例

例1:ストリーム・ファイル内容をダンプする

```
DMP OBJ('/USER/TEST.STMF')
```

このコマンドは、ストリーム・ファイル/USER/TEST.STMFの内容をダンプします。ダンプはプリンター出力ファイルQPSRVDMPにスプールされます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

トップ

CLプログラム・ダンプ (DMPCLPGM)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CLプログラム・ダンプ(DMPCLPGM)コマンドは、変数（コマンドが処理されるCLプログラムの中で使用されているもの）、およびプログラムのメッセージ待ち行列上のすべてのメッセージをスプール印刷装置ファイルにダンプします(QPPGMDMP)。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

```
PGM
DCL . . .
DCL . . .
MONMSG MSGID(CPF9999) EXEC(GOTO DUMP)
:
RETURN
DUMP: DMPCLPGM
ENDPGM
```

このCLプロシージャは、機能チェック・メッセージCPF9999をモニターします。プロシージャ内で機能チェックが発生すると、DUMPというラベルにあるコマンドに制御権が渡されます。そうすると、プログラムのメッセージ待ち行列のダンプが取られ、プロシージャの変数が印刷されます。このダンプを使用して、機能チェックの原因を突き止めることができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0570

&2のCLプログラム&1をダンプすることができない。

[トップ](#)

クラスター・トレースのダンプ (DMPCLUTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター・トレース・ダンプ(DMPCLUTRC)コマンドは、問題分析用に使用されます。これはクラスター関連トレースおよびデバッグ情報をファイルにダンプします。1つ以上のクラスター・ノードで、1つ以上のクラスター資源グループについての情報が論理的にダンプされます。ダンプされる各クラスター資源グループにはファイル中にファイル・メンバーがあります。ファイル・メンバーの名前はクラスター資源グループの名前です。ダンプされる情報は特定のクラスター資源グループに依存します。ダンプされる情報の量はダンプ・レベルによって決定されます。ダンプが出力されるのは、指定されたクラスター資源グループの活動クラスター資源サービス・ジョブがあるノードだけです。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、ユーザーにはサービス(*SERVICE)特殊権限が必要であり、また、ISERIES ナビゲーターのアプリケーション管理サポートによりオペレーティング・システムのサービス・トレース機能に対して許可されていなければなりません。
2. また、このコマンドでダンプするクラスター資源グループ・オブジェクトのすべてに対する使用(*USE)権限も必要です。
3. このコマンドがリモート側で機能する（このコマンドを出しているノード以外の任意のノードで機能する）ためには、クラスターがバージョン3以上になっていなければなりません。
4. クラスター資源サービスは、このコマンドの発行元のノードで、活動状態または開始の進行中でなければなりません。
5. このコマンドに関係できるのは、所要クラスター資源グループのジョブがあるノードだけです。
6. このコマンドが成功したかどうかを判別するには、影響をうけたノードでダンプ・ファイルを調べてください。ファイルがそこにはない場合は、ジョブ・ログでメッセージに関連したクラスター・ジョブを調べてください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
CRG	クラスター資源グループ	名前, *ALL	必須, 定位置 2
NODE	ノード識別コード	名前, *ALL, *LOCAL	オプション
LEVEL	レベル	*BASIC, *ERROR, *INFO, *VERBOSE	オプション
FILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 物理ファイル	名前, *NODE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, QGPL, *CURLIB	
OVERWRITE	上書きオプション	*YES, *NO	オプション

クラスター (CLUSTER)

情報をダンプまたは印刷する対象のクラスター名を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスターの名前を指定してください。

トップ

クラスター資源グループ (CRG)

ダンプするクラスター資源グループを指定します。

***ALL** 全グループ (予約名QCSTCTLおよびQCSTCRGMを含む)。

名前 ダンプするクラスター資源グループの名前を指定してください。また、クラスター制御およびクラスター資源グループの予約名 (それぞれ、QCSTCTLおよびQCSTCRGM)を指定することもできます。

これは必須パラメーターです。

トップ

ノードID (NODE)

ダンプするクラスター・ノードを指定します。

***LOCAL**

ローカル・ノード。すなわち、このコマンドを出す対象のノード。

***ALL** クラスター内の全活動ノード。

名前 クラスター・ノードの名前を指定します。

トップ

構成オブジェクト・タイプ (LEVEL)

ダンプ・レベルを指定します。各レベルの情報の量と種類はダンプしようとする特定のクラスター資源グループに依存します。

***BASIC**

ダンプ情報の基本レベルを指定します。これは、フライト・レコーダー情報のように連続的に保守されている情報をダンプします。

***ERROR**

ダンプ情報のエラー・レベルを指定します。これはエラー情報をダンプし、*BASICレベル情報を含みます。

INFO** ダンプ情報の情報レベルを指定します。これは、完了情報と警告情報をダンプし、ERROR**レベル情報を含みます。

***VERBOSE**

ダンプ情報の冗長レベルを指定します。これは、詳細トレース情報およびデバッグ情報をダンプし、***INFO**レベルを含みます。

[トップ](#)

物理ファイル (FILE)

ダンプの書き込み先の物理ファイルを指定します。このファイルは、**OVERWRITE**パラメーターに従って、ダンプが要求されている各ノード上に書き込まれます。これと同一のライブラリー名が全ノードで使用されます。ファイル名が***NODE**以外として指定されている場合は、このファイル名は全ノード上でも同じになります。

修飾子1: 物理ファイル

***NODE**

クラスター・ノードIDはファイル名として使用されます。たとえば、クラスター・ノードIDが**NODE1**である場合は、このファイル名は**NODE1**です。複数のノードをダンプ中の場合は、各ノードは異なるファイル名をもつこととなります。

名前 物理ファイルの名前を指定してください。この名前は全ノードで使用されます。

修飾子2: ライブラリー

QGPL このファイルはライブラリー**QGPL**内に作成されます。

***CURLIB**

このコマンドを起動中のジョブの現行ライブラリーが使用されます。このライブラリーはダンプ要求が任意の他のノードに送信される前に判別されます。

名前 物理ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。これと同一のライブラリー名が指定された全ノードで使用されます。ダンプはライブラリーが指定されていないどのノードでも行われません。

[トップ](#)

上書きオプション (OVERWRITE)

指定されたファイルに上書きするかどうかを指定します。このファイルが存在している場合は、削除して再作成されます。このパラメーターはノードごとに検査されます。***NO**が複数のノードと一緒に指定されている場合は、ダンプが行われるのはこのファイルがないノードだけです。成功、失敗、またはノード上のファイルに上書きできないことを示す**CPDDB07**メッセージが、ダンプに関係しているクラスター資源サービスのすべてのジョブ・ログに送られます。

***YES** 指定されたファイルには上書きされます。

***NO** 指定されたファイルには上書きされません。このファイルが存在している場合は、指定されたノードでダンプは行われません。

[トップ](#)

例

例1: 1つのノード上の1つのクラスター資源グループのダンプ

```
DMPCLUTRC CLUSTER(EXAMPLE) CRG(CRG1) NODE(NODE1)
```

このコマンドは、クラスターEXAMPLE中のノードNODE1のクラスター資源グループCRG1をダンプします。NODE1では、QGPL/NODE1の名前のファイルが作成されます。これには、CRG1の名前の1つのメンバーがあります。

例2: すべてのノード上の1つのクラスター資源グループのダンプ

```
DMPCLUTRC CLUSTER(EXAMPLE) CRG(CRG1) NODE(*ALL)  
          LEVEL(*ERROR) FILE(QGPL/*NODE) OVERWRITE(*NO)
```

ファイルが存在しない場合に、このコマンドは、すべてのクラスター・ノード上のクラスター資源グループCRG1からエラー情報をダンプします。各ノードは、ファイルがすでに存在するかを個別に検査します。ファイルの名前はQGPL/ノードIDです。

例3: すべてのノード上のすべてのクラスター資源グループのダンプ

```
DMPCLUTRC CLUSTER(EXAMPLE) CRG(*ALL) NODE(*ALL)  
          LEVEL(*INFO) FILE(MYLIB/DUMP) OVERWRITE(*YES)
```

このコマンドは、すべてのノード上のすべてのクラスター資源グループをダンプします。ライブラリー名は、このコマンドを起動したジョブによって判別されます。そのライブラリー名がMYLIBの場合には、各ノードにはMYLIB/DUMPの名前ファイルがあり、QCSTCTLおよびQCSTCRGM用のメンバーの他に、ダンプされたグループ当たり1つのファイル・メンバーがあります。ファイルが存在し、ダンプ用に再作成された場合には、それは破棄されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF98A2

&1コマンドは認可されていない。

CPFBB02

クラスター&1は存在していない。

CPFBB09

クラスター・ノード&1はクラスター&2の中には存在していない。

CPFBB0F

クラスター資源グループ&1はクラスター&2の中には存在していない。

CPFBB70

要求&1は現行のクラスター・バージョンと互換性がありません。

CPFBBA0

クラスター資源グループ&2のクラスター・ノード&1が応答していません。

[トップ](#)

通信トレースのダンプ (DMPCMNTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信トレース・ダンプ(DMPCMNTRC)コマンドは、指定された回線、ネットワーク・インターフェース記述、またはネットワーク・サーバー記述の不定形式トレース・データをユーザー指定ストリーム・ファイルにコピーします。ストリーム・ファイルのデータは、通信トレース印刷(PRTCMNTRC)コマンドを使用してFROMSTMFパラメーターを指定することによって、現行システムか別のシステムのどちらかで、後で形式設定することができます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限を持っているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してオペレーティング・システムのサービス・トレース機能に許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDを持つ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、トレース操作を実行できるユーザーのリストを変更するために使用できません。
- このコマンドに対する権限は次のユーザー・プロファイルにあります。
 - QSECOFR
 - QSRV

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGOBJ	構成オブジェクト	名前	必須, 定位置 1
CFGTYPE	タイプ	*LIN, *NWI, *NWS	必須, 定位置 2
TOSTMF	TOストリーム・ファイル	パス名	必須, 定位置 3
REPLACE	ファイルの置き換え	*NO, *YES	オプション

トップ

構成オブジェクト (CFGOBJ)

トレースされた構成オブジェクトを指定します。このオブジェクトは、回線記述、ネットワーク・インターフェース記述、またはネットワーク・サーバー記述のいずれかです。

名前 構成オブジェクトの名前を指定してください。

トップ

タイプ (CFGTYPE)

トレースされた構成記述のタイプを指定します。

- *LIN 構成オブジェクトは回線記述です。
- *NWI 構成オブジェクトはネットワーク・インターフェース記述です。
- *NWS この構成オブジェクトはネットワーク・サーバー記述です。

[トップ](#)

TOストリーム・ファイル (TOSTMF)

データをコピーする先のストリーム・ファイルを指定します。パス名のすべてのディレクトリーが存在しなければなりません。新規ディレクトリーは作成されません。ストリーム・ファイルが存在していない場合には、それが作成されます。

パス名 使用するストリーム・ファイルのパス名を指定します。

[トップ](#)

ファイルの置き換え (REPLACE)

指定された名前のストリーム・ファイルがすでに存在する場合に、ダンプ操作がレコードを置換するのか、あるいはこのレコードをストリーム・ファイルにコピーするのかを指定します。ストリーム・ファイルが存在していない場合には、それが作成されます。

- *NO ファイルがすでに存在する場合には、レコードはコピーされず、エラー・メッセージが通知されません。
- *YES トレース・データ・レコードは、既存のストリーム・ファイルのレコードを置換します。

[トップ](#)

例

```
DMPMNTRC  CFGOBJ(*QESLINE) CFGTYPE(*LIN)
           TOSTMF('/USER/TEST.STMF') REPLACE(*YES)
```

このコマンドは、ストリーム・ファイル/USER/TEST.STMFに対する回線記述QESLINEの通信トレースをダンプします。このストリーム・ファイルがすでに存在している場合は、置き換えられます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF39AF

トレース終了中-しばらくお待ちください。

CPF39A8

通信トレース保守ツールに対して認可されていない。

CPF39A9

通信トレース機能の実行中にエラーが起こった。

CPF39B0

通信トレースが存在していない。

CPF39B1

トレース&1タイプ&2が存在していない。

CPF39B3

トレース&1タイプ&2にデータが入っていない。

CPF39B6

通信トレース機能は実行できない。

CPF39B8

トレース&1タイプ&2でSNAデータが見つからない。

CPF3CF2

&1 APIの実行中にエラーが起こった。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9872

ライブラリー&2のプログラムまたはサービス・プログラム&1が終了した。理由コードは&3です。

CPFA0D4

ファイル・システム・エラーが起こった。エラー番号は&1です。

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクト・ダンプ (DMPDLO)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト・ダンプ(DMPDLO)コマンドは、主に問題分析に使用されます。このコマンドは、フォルダー、文書、または内部文書ライブラリー・システム・オブジェクトの内容および属性を、QPSRVDMPの名前のスプール印刷出力ファイルにコピーします。印刷出力がスプールされないで、印刷装置が使用可能でない場合には、印刷装置ファイルは一時変更されます。

制約事項:

- このコマンドは、共通の除外(*EXCLUDE)権限で出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBAS ユーザー・プロファイルはこのコマンドを使用するための専用認可をもっています。
- 文書またはフォルダーをダンプするためには、それらに対する読み取り(*R)権限が必要です。
- 内部システム・オブジェクトをダンプするには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *SYSOBJNAM, *INT	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー中	文字値, *NONE	オプション, 定位置 2
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション
SYSOBJATR	システム・オブジェクト属性	*NONE, *INTDOC, *DST	オプション

トップ

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

ダンプされる文書ライブラリー・オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

*SYSOBJNAM

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)パラメーターに指定された文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を使用して、ダンプするフォルダーまたは文書を識別します。内部または配布文書、あるいはフォルダーに入っていない文書をダンプするためには、この値を使用しなければなりません。

***INT** 内部文書ライブラリー・システム・オブジェクトがダンプされます。

名前 ダンプされる文書またはフォルダーの名前を指定してください。

フォルダー中 (FLR)

文書またはフォルダーが入っているフォルダーを指定します。文書またはフォルダーがフォルダー内に存在しない場合には、*NONEが指定されます。

*NONE

オブジェクトはフォルダー内にありません。

名前 ダンプされるフォルダーまたは文書が入っているフォルダーの修飾名を指定します。

トップ

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

ダンプされる文書のシステム・オブジェクト名を指定します。*SYSOBJNAM が文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに指定された場合には、システム・オブジェクト名をこのパラメーターに入力しなければなりません。

*NONE

ダンプされるオブジェクトはシステム・オブジェクト名によって識別されません。

名前 ダンプされるフォルダーまたは文書のシステム・オブジェクト名を指定します。

トップ

システム・オブジェクト属性 (SYSOBJATR)

ダンプされるオブジェクトの属性を指定します。このパラメーターに*NONE以外の値を入力できるのは、文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに*SYSOBJNAMが指定された場合だけです。

*NONE

オブジェクトの属性は指定されません。

*INTDOC

ダンプされるオブジェクトは内部文書です。

***DST** ダンプされるオブジェクトは配布文書です。

トップ

例

例1:文書のダンプ

```
DMPDLO DLO(KAREN) FLR(PEGGY)
```

このコマンドは、文書またはKARENという名前のフォルダー(PEGGYという名前のフォルダー内にある)をダンプします。

例2:システム・オブジェクト名の指定

```
DMPDLO DLO(*SYSOBJNAM) SYSOBJNAM(BHZM052634)
```

このコマンドは、BHZM052634という名前のシステム・オブジェクト名で識別された文書ライブラリーをダンプします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8A43

フォルダー・パス&1のタイプ&4の&2のダンプまたはダンプの一部が正常に実行されなかった。

[トップ](#)

ジョブ・ダンプ (DMPJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・ダンプ(DMPJOB)コマンドは、基本データ構造、あるいは現行ジョブまたはサービス・ジョブ開始(STRSRVJOB)コマンドの結果としてサービスされているジョブの特定の呼び出しをダンプします。情報は、印刷用のスプール印刷装置ファイル(QPSRVDMP)にダンプされます。ユーザーがCHGPRTFコマンドまたはOVRPRTFコマンドのいずれか一方にSPOOL(*NO)を指定した場合には、出力はスプールされませんが、直接印刷され、印刷装置が使用可能でない場合は、このコマンドは印刷ジョブを一時変更し、出力をスプールします。ユーザーが上記2つのコマンドのどちらかにSPOOL(*NO)を指定した場合には、ユーザーは印刷装置ファイルとしてQPSRVDMPを指定しなければなりません。ダンプには、指定されたプログラムについての定様式情報と、指定したオペレーティング・システム・オブジェクト、システム・オブジェクト、およびこのジョブに関連したスレッドのダンプが含まれます。

制約事項:

- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための専用認可を受けています。
 - QPGMR
 - QSYSOPR
 - QSRV
 - QSRVBAS

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	ダンプするプログラム	単一値: *ALL, *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: プログラム	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *ALL	
	要素 2: 呼び出しレベル	整数, *LAST, *FIRST, *ALL	
JOBARA	ジョブ構造区域	*ALL, *NONE	オプション
ADROBJ	アドレスで参照されたオブジェクト	*YES, *NO	オプション
JOBTHD	ジョブ・スレッド	*YES, *NO, *THDSTK	オプション
SLTTHD	組み込むスレッドID	単一値: *ALL, *SELECT その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 16 進値	オプション

トップ

ダンプするプログラム (PGM)

ダンプするプログラムを指定します。最大10個のプログラムを指定することができます。

単一値

***ALL** 呼び出しスタック上のすべてのプログラムがダンプされます。

***NONE**

プログラムはダンプされません。呼び出されたプログラムおよび活動化されたプログラムのリストだけがダンプされます。

要素1: プログラム

修飾子1: プログラム

名前 ダンプのために呼び出されるプログラムの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** すべてのライブラリーを使用して、ダンプするよう指定されたプログラムを見つけます。

*ALLを指定する場合には、呼び出しレベル（要素3）を指定することはできません。

名前 ダンプするプログラムを見つけるために使用するライブラリーの名前を指定します。

要素2: 呼び出しレベル

***LAST**

指定したプログラム名の最後の（最新の）呼び出しがダンプされます。

***FIRST**

指定したプログラム名の最初の（最も古い）呼び出しがダンプされます。

***ALL** 指定されたプログラム名のすべての呼び出しがダンプされます。

整数 スタック内で複数の呼び出しを持つプログラムの呼び出しレベルを指定します。ライブラリー名修飾子に*ALLを指定した場合には、呼び出しレベルを指定することはできません。

トップ

ジョブ構造区域 (JOBARA)

処理のジョブ構造域のダンプを指定します。ジョブ構造域は次から成っています。

- 作業制御ブロック
- ライブラリー検索リスト
- ジョブ一時ライブラリー
- ジョブ内部データ域
- スプール制御ブロック
- データ管理通信待ち行列

- サービス（通信）オブジェクト
- 処理定義テンプレート
- 処理ロック・リスト
- マシン・インターフェース(MI)応答待ち行列

***ALL** ジョブ構造域がダンプされます。

***NONE**

ジョブ構造域はダンプされません。

トップ

アドレスで参照されたオブジェクト (ADROBJ)

ダンプされるプログラムのプログラム記憶域からアドレッシングされたオブジェクトもダンプするように指定します。**ダンプするプログラム (PGM)**パラメーターに***NONE**を指定した場合には、アドレッシングされたオブジェクトはダンプされません。

***YES** アドレスされたオブジェクトをダンプします。

***NO** アドレスされたオブジェクトをダンプしません。

トップ

ジョブ・スレッド (JOBTHD)

ジョブのスレッドのリストおよび情報をダンプするかどうかを指定します。

スレッド情報は以下から構成されます。

- DMPJOBを実行中のスレッドの場合：
 - スレッド制御ブロック(TCB)。
- すべてのスレッドの場合：
 - スレッドID
 - スレッド・ハンドラー
 - スレッド実行状況(16進数値)
 - スレッド待機状況(16進数値)
 - スレッド・スタック

***YES** スレッド・リストおよび情報がダンプされます。

***NO** スレッド・リストおよび情報はダンプされません。

***THDSTK**

スレッド呼び出しスタックだけがダンプされます。

トップ

組み込むスレッドID (SLTTHD)

情報を組み込みたいジョブ内の最高20までのスレッドのリストを指定します。ジョブ・スレッド (JOBTHD) パラメーターに*NOを指定した場合には、スレッドはダンプされません。

単一値

***ALL** すべてのスレッドがダンプされます。

*SELECT

組み込みたい最高20までを選択することができるスレッドIDのリストが表示されます。

その他の値

スレッドID

情報を組み込みたい最高20までのスレッドのIDを指定してください。

[トップ](#)

例

例1: プログラムをダンプする

```
DMPJOB  PGM((QGPL/UPDATE *FIRST) (PAYROLL/MASTER *ALL))
        JOBARA(*ALL)  ADROBJ(*NO)
```

このコマンドは、呼び出しスタック中にQGPL/UPDATEの最初のオカレンスとPAYROLL/MASTERのすべてのオカレンスをダンプします。ジョブ構造域がダンプされます。

例2: ジョブ構造全体をダンプする

```
DMPJOB
```

このコマンドは、ジョブ構造全体をダンプします。

例3: 呼び出し側プログラムおよび活動状態プログラムのリストをダンプする

```
DMPJOB  PGM(*NONE)  JOBARA(*NONE)
```

このコマンドは、呼び出されたプログラムおよび活動状態のプログラムのリストをダンプします。

例4: ジョブ・スレッド・リストおよび情報をダンプする

```
DMPJOB  PGM(*NONE)  JOBARA(*NONE)  JOBTHD(*YES)
```

このコマンドは、ジョブ・スレッドとその情報のリストをダンプします。

例5: 1つのジョブ・スレッドの情報だけをダンプする

```
DMPJOB  PGM(*NONE)  JOBARA(*NONE)  JOBTHD(*YES)
        SLTTHD(00000001)
```

このコマンドは、スレッドID 00000001とその情報をダンプします。

例6: スレッド呼び出しスタックだけをダンプする

```
DMPJOB  PGM(*NONE)  JOBTHD(*THDSTK)
```

このコマンドは、ジョブのスレッド呼び出しスタックだけをダンプします。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3546

指定したプログラム・パラメーターが見つからなかった。

CPF3560

保守中のジョブは実行中でない。

CPF3563

&2のファイル&1のオーバーフロー値が大きすぎる。

CPF3585

ライブラリー名*ALLと呼び出しレベルを一緒に使用することはできない。

CPF3909

サービス・コマンドが処理されないことになる。

CPF3918

保守要求が取り消された。

CPF3925

ファイル&1をオープンすることができない。

CPF3935

保守の対象となるジョブがダンプ中に終了した。

CPF3950

ファイル&1に対してエラー・メッセージ&2を受け取った。要求は終了しました。

CPF3951

ファイル&1をファイル名&2に一時変更することはできない。

CPF3967

保守の対象となるジョブが実行中でないためダンプは開始されない。

CPF3968

保守の対象となるジョブの実行が完了しているためダンプは開始されない。

CPF3969

ファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。出力は未完了の場合があります。

ジョブ内部事象ダンプ (DMPJOBINT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ内部イベント・ダンプ(DMPJOBINT)コマンドは、現行ジョブまたはサービス・ジョブ開始(STRSRVJOB)コマンドの結果として保守されるジョブの、マシン処理に関連したマシン内部データをダンプします。内部データがダンプされると、ジョブ内部イベント・ダンプ(DMPJOBINT)コマンドを出したユーザーへのメッセージでダンプIDが送られます。内部データ印刷(PRTINTDTA)コマンドを使用してダンプ出力を印刷することができます。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,またはQSRVBASとしてサインオンするか、あるいは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

DMPJOBINT

このコマンドは、コマンド入力したジョブに対して、ジョブと関連したマシン内部データをダンプします。ダンプID付きのメッセージがコマンドを入力したユーザーに送信されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3560

保守中のジョブは実行中でない。

CPF3636

内部ジョブはダンプされなかった。

CPF3909

サービス・コマンドが処理されないことになる。

CPF3918

保守要求が取り消された。

CPF3935

保守の対象となるジョブがダンプ中に終了した。

CPF3950

ファイル&1に対してエラー・メッセージ&2を受け取った。要求は終了しました。

CPF3967

保守の対象となるジョブが実行中でないためダンプは開始されない。

CPF3968

保守の対象となるジョブの実行が完了しているためダンプは開始されない。

[トップ](#)

JAVA仮想マシンのダンプ (DMPJVM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

JAVA仮想計算機ダンプ(DMPJVM)コマンドは、指定されたジョブのためのJAVA仮想計算機(JVM)に関する情報をダンプします。この情報は、印刷装置ファイルQSYSPRTを使用してダンプされます。このダンプには、CLASSPATH、ガーベッジ・コレクション、およびJVMと関連したスレッドに関する定様式情報が含まれます。

制約事項

- このコマンドはSTRSRVJOBコマンドおよびSTRDBGコマンドを使用します。このコマンドのユーザーは、それらのコマンドに対して許可されていなければなりません。
- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限付きで出荷されて、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルにはこのコマンドを使用するための専用認可が付与されています。
- このコマンドの発行は、JVMジョブのジョブ・ユーザー識別と同じか、あるいはJVMジョブのジョブ・ユーザー識別に対する使用(*USE)権限があるユーザー・プロファイルのもとで実行中でなければなりません。
- リモート・サービス操作が別のジョブのために開始されていて、そのジョブがこのコマンドに指定されたものと同じジョブでない場合には、このコマンドは使用できません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	修飾ジョブ名	オプション、位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
STACKFRAME	スタック・フレーム	0000-9999, <u>10</u> , *ALL	オプション
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	<u>*SELECT</u> , *MSG	オプション

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

JVMが実行中のジョブの名前を指定します。ジョブ番号が指定されていない場合には、現在システム内にあるジョブのすべてから単純ジョブ名が検索されます。入力するジョブ名は、現在JVMが実行中のジョブでなければなりません。

***SRVJOB**

現在サービス中のジョブ内のJVMに関する情報がダンプされます。ジョブが現在サービス中でない場合には、ジョブIDが必要です。

ジョブ名

JVMジョブの名前を指定してください。

ユーザー名

JVMジョブのユーザーの名前を指定してください。

ジョブ番号

JVMジョブの番号を指定してください。

トップ

スタック・フレーム (STACKFRAME)

各スレッドごとに処理するスタック・フレームの最大数を指定します。この値はゼロより大きくしなければならず、100より大きくすることはできません。スレッドのスタックで、指定された数より多くのフレームがある場合には、そのスタックで新しい方のフレームが処理されて、スタック・フレームのすべてが処理されたわけではないことを示すために'...'が使用されます。

10 スレッドごとに最大10個のスタック・フレームが処理されます。

***ALL** スレッドごとにすべてのスタック・フレームが処理されます。スレッドに100個を超えるスタック・フレームがある場合には、最初の100個のフレームしか処理されません。

1-100 スレッドごとに処理されるスタック・フレームの最大数を指定します。

トップ

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが検出されたときに行う処置を指定します。

***SELECT**

対話式セッション中に重複ジョブが検出されると、選択画面が表示されます。そうでない場合には、エスケープ・メッセージが発行されます。

***MSG** 重複ジョブが検出されると、エスケープ・メッセージが発行されます。

トップ

例

DMPJVM JOB(099246/FRED/QJVACMDSRV)

このコマンドは、ジョブ名がQJVACMDSRV、ユーザー名がFRED、ジョブ番号が099246のジョブのJAVA仮想マシンの情報をダンプします。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

JVAB601

DMPJVMが理由コード&1で失敗しました。

JVAB602

ジョブ・パラメーターが必要です。

JVAB603

印刷ファイルをオープンできません。

JVAB60A

ジョブが見つからない。

CPF1938

サービス・ジョブが活動状態でない時に、このコマンドを使用することはできない。

CPF3524

指定した名前のジョブが複数個見つかった。

CPF3536

ジョブが完了しているのでジョブを保守することができない。

CPF3938

すでに別のジョブを保守中である。

CPF9824

ライブラリー&2のコマンド&1は認可されていない。

[トップ](#)

メイン・メモリー情報のダンプ (DMPMEMINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メイン・メモリー情報のダンプ (DMPMEMINF)コマンドは、主記憶域のページについての情報をファイルにダンプします。

注: ダンプしている記憶域プールで、どの主記憶域ページが常駐であるかが変わることを避けるために、このコマンドは自身の記憶域プールで実行されるようお勧めします。

制約事項:

- このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- 出力ファイルとライブラリーが許可されていなければなりません。詳細な権限の要件については、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)の付録Dを参照してください。
- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限を持っているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してオペレーティング・システムのサービス・ダンプ機能に許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_DUMPの機能IDをもつ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドを使用して、ダンプ操作を実行できるユーザーのリストを変更することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
NBRPAGE	ページ数	符号なし整数, 10000, *ALL	オプション

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるライブラリーとデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドは、ライブラリーQSYS中のファイルQAPYDMPMEMをモデルとして使用し、指定したライブラリーの中にデータベース・ファイルを作成します。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 出力ファイルを探し出すために使用するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

ページ数(NBRPAGE)

情報レコードを出力ファイルに書き込むための主記憶域ページ数を指定します。主記憶域ページの一様分布処理が行われます。

10000 出力ファイルに書き込む情報に、主記憶域の10,000ページが使用されます。

***ALL** 出力ファイルに書き込む情報に、すべての主記憶域ページが使用されます。

符号なし整数

情報を出力ファイルに書き込むための主記憶域ページ数を指定してください。

注: 処理される実際のページ数は、アクセス可能でないページのため、あるいは論理区画(LPAR)の主記憶域サイズが動的に変わるために、指定された数よりも小さくなる場合があります。

[トップ](#)

例

例1:主記憶域のサンプルをダンプ

```
DMPMEMINF  OUTFILE(MYLIB/DMPMEM)  OUTMBR(TEST1)
            NBRPAGE(20000)
```

このコマンドは、主記憶域の最大20,000ページのサンプルについての情報をライブラリーMYLIBのファイルDMPMEMにダンプします。このレコードは、メンバーTEST1に書き込まれます。

例2: すべての主記憶域ページ情報をダンプ

```
DMPMEMINF  OUTFILE(MYLIB/DMPMEM)  OUTMBR(TEST2)
            NBRPAGE(*ALL)
```

このコマンドは、使用可能なすべての主記憶域ページについての情報をライブラリーMYLIBのファイルDMPMEMにダンプします。このレコードは、メンバーTEST2に書き込まれます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

CPF98A2

&1コマンドは認可されていない。

[トップ](#)

オブジェクト・ダンプ (DMPOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト・ダンプ(DMPOBJ)コマンドは、指定されたオペレーティング・システム・オブジェクトの内容または属性を、QPSRVDMPという名前のスプール印刷出力ファイルにダンプします。内容または属性をダンプできるかどうかは、オブジェクトのタイプによって異なります。ユーザーがCHGPRTFコマンドまたはOVRPRTFコマンドのいずれか一方にSPOOL(*NO)を指定した場合には、出力はスプールされませんが、直接印刷され、印刷装置が使用可能でない場合は、このコマンドは印刷ジョブを一時変更し、出力をスプールします。ユーザーが上記2つのコマンドのどちらかにSPOOL(*NO)を指定した場合には、ユーザーは印刷装置ファイルとしてQPSRVDMPを指定しなければなりません。ライブラリーに記憶されたライブラリーまたはオブジェクトはダンプできますが、このコマンドには一度に1つしか指定することはできません。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,またはQSRVBASとしてサインオンするか、あるいは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, QTEMP	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DIR, *DOC, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MODD, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSCFG, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDL, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *WSCST	必須, 定位置 2

トップ

オブジェクト (OBJ)

ダンプするオブジェクトを指定します。ライブラリーに記憶されているオブジェクトだけをダンプすることができます。DMPコマンドを使用して、ディレクトリーに保管されたオブジェクトをダンプすることができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オブジェクト

名前 ダンプするオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

名前 オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

ダンプするオペレーティング・システム・オブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。どのようなオブジェクト・タイプでも指定することができます。

これは必須パラメーターです。

オブジェクト・タイプ

ダンプされるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

トップ

例

例1: ファイル内容をダンプする

```
DMPOBJ OBJ(ORDENT/ORDERIN) OBJTYPE(*FILE)
```

このコマンドは、ORDENTライブラリーに保管されているファイルORDERINの内容をダンプします。

例2: プログラムをダンプする

```
DMPOBJ OBJ(MYPROG) OBJTYPE(*PGM)
```

このコマンドは、ライブラリー・リストで見つかったプログラムMYPROGの最初のコピーをダンプします。ダンプはプリンター出力ファイルQPSRVDMPにスプールされます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3560

保守中のジョブは実行中でない。

CPF3561

コンテキスト&8 &9 &7が見つからない。

CPF3562

オブジェクト&7が見つかりません。

CPF3673

ライブラリー&7は認可されていない。

CPF3909

サービス・コマンドが処理されないことになる。

CPF3918

保守要求が取り消された。

CPF3925

ファイル&1をオープンすることができない。

CPF3935

保守の対象となるジョブがダンプ中に終了した。

CPF3946

コンテキストに損傷がある。

CPF3947

ライブラリー&7が使用できない。

CPF3948

ライブラリー&3は前に削除されている。

CPF3949

ライブラリー&7に損傷がある。

CPF3950

ファイル&1に対してエラー・メッセージ&2を受け取った。要求は終了しました。

CPF3951

ファイル&1をファイル名&2に一時変更することはできない。

CPF3967

保守の対象となるジョブが実行中でないためダンプは開始されない。

CPF3968

保守の対象となるジョブの実行が完了しているためダンプは開始されない。

CPF3969

ファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。出力は未完了の場合があります。

[トップ](#)

システム・オブジェクト・ダンプ (DMPSYSOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム・オブジェクト・ダンプ(DMPSYSOBJ)コマンドは主に、各種の問題分析タスクに使用します。このコマンドは、マシン・インターフェース(MI)システム・オブジェクトの内容または属性を、QPSRVDMPという名前のスプール印刷装置ファイルにダンプします。どのようなコンテキストに記憶されているどのようなMIオブジェクトでも、またコンテキストに記憶されているオブジェクトを介してアドレッシングできるどのようなMIオブジェクトでも、ダンプすることができます。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,またはQSRVBASとしてサインオンするか、あるいは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	文字値, *PCS, *MCHCTX, *ALL	オプション, 位置 1
CONTEXT	コンテキストまたはライブラリー	名前, *NONE, *MCHCTX	オプション, 位置 2
TYPE	内部オブジェクト・タイプ	*ALL, 01, 02, 03, 04, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 18, 19, 1A, 1B, 1C	オプション, 位置 3
SUBTYPE	内部オブジェクト・サブタイプ	文字値, *ALL	オプション, 位置 4
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL, *ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEV, *DIR, *DOC, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOB, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MODD, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSCFG, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDL, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBS, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *WSCST	オプション, 位置 5
OFFSET	16進オフセット	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 00000000-00FFFFFF	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SPACE	ダンプする空間の区域	単一値: * その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 16進オフセット	00000000-00FFFFFF	
	要素 2: 16進数の長さまたは *	00000001-00FFFFFF, * *	

トップ

オブジェクト (OBJ)

どのシステム・オブジェクトをダンプするかを指定します。特定のオブジェクトの名前、オブジェクトのグループの総称名、ジョブの処理制御空間、マシン・コンテキスト、またはコンテキスト内のすべてのオブジェクトを指定することができます。ライブラリー名を指定した場合、そのライブラリーがダンプされますが、その中のオブジェクトはダンプされません。ここに、QTEMPが指定されて、**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーター上に*LIBがあるか、あるいは**内部オブジェクト・タイプ (TYPE)**パラメーター上に**04**と**内部オブジェクト・サブタイプ (SUBTYPE)**パラメーター上に**01**がある場合には、このコマンドを入力したジョブ、またはサービス・ジョブ開始(STRSRVJOB)コマンドの結果としてサービスされるジョブと関連する一時的なジョブ・コンテキストがダンプされます。いずれの場合にも、**コンテキストまたはライブラリー (CONTEXT)**パラメーター値は無視されます。

***PCS** 現行ジョブまたはサービス・ジョブ開始(STRSRVJOB)コマンドの結果としてサービスされるジョブの処理制御空間がダンプされます。ここに指定された*PCSを、**16進オフセット (OFFSET)**パラメーターおよび**ダンプする空間の区域 (SPACE)**パラメーターと一緒に使用して、ジョブ構造中のオブジェクトをダンプすることができます。*PCSを指定した場合は、次のパラメーターは無視されます。

- オブジェクト・タイプ(OBJTYPEパラメーター)
- 内部オブジェクト・サブタイプ(SUBTYPEパラメーター)
- 内部オブジェクト・タイプ(TYPEパラメーター)
- コンテキストまたはライブラリー(CONTEXTパラメーター)

*MCHCTX

マシン・コンテキスト（コンテキスト中のオブジェクトのリストが入っている）がダンプされます。ここに*MCHCTXを指定すると、このコマンドのその他のパラメーターはすべて無視されます。

***ALL** OBJTYPEパラメーターまたはTYPEとSUBTYPEパラメーターのいずれかに指定された要件と一致した場合に、指定されたコンテキストのすべてのシステム・オブジェクトがダンプされます。

総称名 ダンプするシステム・オブジェクトのグループを識別するオブジェクト総称名を指定します。オブジェクト名は最高30文字まで可能です。

名前 ダンプするオブジェクトの名前を指定します。最高30文字までの名前を指定することができます。同じ名前を持つオブジェクトが複数ある場合には、指定された属性に一致するその名前のオブジェクトがすべてダンプされます。

特定のオブジェクトをダンプする場合には、次のパラメーター・グループの1つに値を指定する必要があります。

- CONTEXT, TYPE,およびSUBTYPE
- CONTEXTおよびOBJTYPE

コンテキストまたはライブラリー (CONTEXT)

ダンプするオブジェクトが配置されたコンテキストまたはライブラリーを指定します。

*NONE

オブジェクト (OBJ)パラメーターに指定されたオブジェクトがコンテキスト中にありません。

*NONEが有効となるのは、*PCSまたは*MCHCTXが指定されたか、あるいはOBJパラメーターで省略時の値として使用されたか、あるいはQTEMPがOBJ上に指定された場合で、さらに、OBJTYPEパラメーターに*LIBがあるか、あるいはTYPEパラメーターに**04**およびSUBTYPEパラメーターに**01**があるかのいずれかの場合だけです。

*MCHCTX

ダンプするオブジェクトはマシン・コンテキスト中にあります。システム・オブジェクト名を括弧内に指定する、次のオペレーティング・システムのオブジェクト・タイプは、次の**マシン**コンテキストに**しか**存在しません。すなわち、ライブラリー (コンテキスト)、ユーザー・プロファイル、装置記述、回線記述、ネットワーク・インターフェース記述、および制御装置記述です。

*MCHCTXは、これらの5つのオブジェクト・タイプの1つがダンプされた場合にだけ有効です。

名前

ダンプするオブジェクトが入っているコンテキストの名前を指定します。QGPLまたはQTEMPなどのライブラリーの名前を指定することができます。QTEMPを指定する場合、ダンプするオブジェクトはこのコマンドを入力するジョブまたはジョブ保守開始(STRSRVJOB)コマンドの結果として保守されるジョブに関連した一時的なジョブ・コンテキスト中にあります。

トップ

内部オブジェクト・タイプ (TYPE)

ダンプするMIオブジェクトのタイプを指定します。

*ALL 指定された名前 (指定がある場合) を持ち、また指定されたコンテキスト中にあるすべてのオブジェクト・タイプがダンプされます。

16進値のMIシステム・オブジェクト・タイプ

ダンプするシステム・オブジェクトのタイプを示す16進値を指定します。値には両方の文字を指定しなければなりません、アポストロフィで囲む必要はありません。

トップ

内部オブジェクト・サブタイプ (SUBTYPE)

指定されたMIオブジェクトのサブタイプをダンプするように指定するか、あるいはすべてのサブタイプをダンプすることを指定します。このパラメーターが有効なのは、**内部オブジェクト・タイプ (TYPE)**パラメーターも指定されている場合だけです。

*ALL 指定されたオブジェクトのすべてのサブタイプがダンプされます。

16進値のMIシステム・オブジェクト・サブタイプ

ダンプするシステム・オブジェクトの特定のサブタイプを指定します。サブタイプは00からFFの範

囲です。しかし、指定されるサブタイプは、指定したコンテキストに実際にあるMIオブジェクト用のものでなければなりません。TYPEパラメーターに*ALLを指定した場合は、特定のサブタイプを指定することはできません。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

関連したMIシステム・オブジェクトをダンプするオペレーティング・システム・オブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。オブジェクト・タイプを指定する場合には、**内部オブジェクト・タイプ (TYPE)**パラメーターまたは**内部オブジェクト・サブタイプ (SUBTYPE)**パラメーターに値を指定することはできません。

***ALL** オペレーティング・システムすべてのオブジェクト・タイプについて指定したMIオブジェクトをダンプします。

オペレーティング・システム・オブジェクト・タイプ

ダンプするオブジェクトのオペレーティング・システム・オブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

トップ

16進オフセット (OFFSET)

ダンプする単一のオブジェクトを間接的にアドレスするためのオフセットとして使用する値のリストを指定します。この値は正の16進値またはゼロで、ポインターに加えた結果が有効なアドレスになるものでなければなりません。ゼロのオフセットをシステム・ポインターに加えると、その結果はそのシステム・ポインターがアドレスするオブジェクトに関連した空間の開始位置を示すポインターになります。

単一値

***NONE**

オフセットを指定しない。コンテキストをとおして見つかったオブジェクトがダンプされます。

その他の値

X'00000000'からX'00FFFFFF'

ダンプするオブジェクトまたは空間をアドレスするために使用するポインターの、オフセットのリストを指定する。最高50個のオフセット値を指定することができます。

トップ

ダンプする空間の区域 (SPACE)

ダンプする空間または関連した空間の区域を指定します。空間は **16進オフセット (OFFSET)**パラメーターで決められた最終ポインターによって示されます。OFFSETパラメーターに値が指定されていない場合は、最終ポインターはコンテキスト中の指定されたオブジェクトに対するシステム・ポインターです。

単一値

*
- 最終ポインターがシステム・ポインターの場合、そのポインターによって示されるオブジェクトがダンプされます。最終ポインターが空間ポインターの場合、そのポインターによって示される位置から開始する空間部分がダンプされます。

要素1: 16進オフセット

*X'00000000'*から*X'00FFFFFF'*

ダンプする区域の先頭を示す最終ポインターに加える値を指定してください。指定する値は正の16進値またはゼロで、最終ポインターに加えた値が有効なアドレスにならなければなりません。

要素2: 16進数の長さまたは*

*
- 指定されたオフセット値によって示された空間の残りの部分がダンプされます。

*X'00000000'*から*X'00FFFFFF'*

ダンプする区域の長さを示す正の16進値を指定してください。指定した長さが実際の空間の長さより大きい場合には、実際に使用可能な空間だけがダンプされます。

トップ

例

例1:索引をダンプする

```
DMPYSOBY CONTEXT(QTEMP) TYPE(0E)
```

このコマンドは、印刷用スプール・ファイルに対して一時ジョブ・コンテキストのすべての索引の内容と属性をダンプします。MI索引はタイプ・コード0Eによって識別されます。

例2:装置記述をダンプする

```
DMPYSOBY OBJ(WS1) CONTEXT(*MCHCTX) OBJTYPE(*DEV)
```

このコマンドは、マシン・コンテキストに保管されているワークステーションWS1の装置記述をダンプします。

例3:処理制御スペースをダンプする

```
DMPYSOBY OBJ(*PCS) SPACE(0 2A0)
```

このコマンドは、ジョブの処理制御スペースと関連したジョブの処理制御スペースをダンプします。

例4:オフセット値を指定する

```
DMPYSOBY OBJ(*PCS) OFFSET(60 E0 10 10) SPACE(0 20)
```

このコマンドは、32バイト長の(SPACE(0 20))処理自動記憶域 (オフセット60 E0)の2番目の呼び出し項目をダンプします。3番目の呼び出しレベルがダンプされる場合は、OFFSET(60 E0 10 10)が指定されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3502

オブジェクトが見つからないので印刷されなかった。

CPF3508

サブタイプ(&5)の値は許されない。

CPF3523

開始オフセット&8が空間のサイズより大きい。

CPF3534

オブジェクトが認可されていない。

CPF3537

オブジェクト&2に損傷がある。

CPF3538

オブジェクトを割り振ることができない。

CPF3539

オブジェクトがダンプ中に壊された。

CPF3560

保守中のジョブは実行中でない。

CPF3561

コンテキスト&8 &9 &7が見つからない。

CPF3562

オブジェクト&7が見つかりません。

CPF3563

&2のファイル&1のオーバーフロー値が大きすぎる。

CPF3566

オブジェクトが見つからないのでオブジェクトはダンプされない。

CPF3577

データ・オブジェクト&7が見つからない。

CPF3578

基本データ・オブジェクト&7が見つからない。

CPF3642

連鎖ポインター&7のアドレスが許されない。

CPF3643

連鎖ポインター&7のアドレスが16バイトに位置合わせされていない。

CPF3644

基本オブジェクト&7に関連した空間がない。

CPF3645

基本オブジェクト&7が認可されていない。

- CPF3646**
基本オブジェクト&2に損傷がある。
- CPF3647**
基本オブジェクト&8または前の基本オブジェクトが壊されている。
- CPF3648**
基本オブジェクト&2のデータ域が見つからない。
- CPF3649**
連鎖ポインター&7が指定した位置に存在していない。
- CPF3650**
連鎖ポインター&7は命令ポインターである。
- CPF3651**
基本オブジェクト&7のオフセットが大きすぎる。
- CPF3652**
最後の連鎖ポインターのオフセットが大きすぎる。
- CPF3653**
最後の連鎖ポインターの位置が16バイト境界に位置合わせされていない。
- CPF3654**
オブジェクト&2に損傷がある。
- CPF3655**
最後の基本オブジェクトまたは最終オブジェクトが前に削除されている。
- CPF3656**
基本オブジェクト&2のデータ域が見つからない。
- CPF3663**
番号&7の基本オブジェクトが見つからなかった。
- CPF3664**
オブジェクト&2に関連した空間がない。
- CPF3665**
オブジェクト&2のダンプが認可されていない。
- CPF3666**
オブジェクト&2に損傷がある。
- CPF3667**
ダンプしたいオブジェクトが壊されている。
- CPF3668**
オブジェクト&2のデータ域が見つからなかった。
- CPF3669**
指定した位置に最終ポインターが存在していない。
- CPF3670**
最終ポインターが命令ポインターである。
- CPF3671**
開始オフセット&8が大きすぎる。

CPF3672

最終ポインターで指定したオブジェクトが見つからなかった。

CPF3673

ライブラリー&7は認可されていない。

CPF3909

サービス・コマンドが処理されないことになる。

CPF3913

コンテキスト&7は前に削除されている。

CPF3914

コンテキスト&7のデータ域が見つからない。

CPF3915

コンテキスト&7に損傷がある。

CPF3916

コンテキスト&7が使用可能でない。

CPF3918

保守要求が取り消された。

CPF3925

ファイル&1をオープンすることができない。

CPF3935

保守の対象となるジョブがダンプ中に終了した。

CPF3941

CONTEXT(*MCHCTX)とTYPE(&4)と一緒に使用することはできない。

CPF3942

CONTEXT(*MCHCTX)とOBJTYPE(&6)と一緒に使用することはできない。

CPF3946

コンテキストに損傷がある。

CPF3947

ライブラリー&7が使用できない。

CPF3948

ライブラリー&3は前に削除されている。

CPF3949

ライブラリー&7に損傷がある。

CPF3950

ファイル&1に対してエラー・メッセージ&2を受け取った。要求は終了しました。

CPF3951

ファイル&1をファイル名&2に一時変更することはできない。

CPF3967

保守の対象となるジョブが実行中でないためダンプは開始されない。

CPF3968

保守の対象となるジョブの実行が完了しているためダンプは開始されない。

CPF3969

ファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。出力は未完了の場合があります。

[トップ](#)

テープ・ダンプ (DMPTAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DMPTAP (テープ・ダンプ) コマンドは、ラベル情報またはデータ・ブロック (あるいはその両方) を、標準ラベル・テープまたはラベルなしテープからQPTAPDMPという名前のスプール印刷装置ファイルへダンプします。このコマンドによってユーザーは、1つまたは複数のデータ・ファイルをテープ・ボリュームからダンプし、情報を印刷装置ファイルに書き出すことができます。

ダンプされるテープ・ボリュームは、指定された装置上になければなりません。DMPTAPコマンドが入力されてから要求された情報が印刷されるまでに、必要な数のテープが読み取られます。

保護されたテープ上のデータ・ファイルをダンプすることができるのは機密保護担当者だけですが、保護されたテープ上のダンプ・ラベル情報は、どのユーザーもダンプすることができます。

DMPTAPコマンドのパラメーターに省略時の値が使用された場合には、テープのラベル域および最初のファイルからの最少量のデータが印刷されます。このコマンドでは、ラベルなしテープ上のデータ・ファイルのレコード様式を判別するのに役立てたり、ラベル付きデータ・ファイルに関するすべてのラベル情報の正確な内容を判別することができます。

制約事項:

1. TYPE(*HEX)を使用してテープをダンプできるのは、全オブジェクト特殊権限(*ALLOBJ)を持つユーザーだけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	テープ装置	名前	必須, 定位置 1
VOL	ボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	オプション, 定位置 2
SEQNBR	順序番号の範囲	単一値: *ALL, *SEARCH その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 開始ファイル順序番号	1-16777215, *FIRST	
	要素 2: 終了ファイル順序番号	1-16777215, *ONLY, *LAST	
LABEL	ファイル・ラベル	文字値, *NONE	オプション, 定位置 4
TYPE	ダンプするデータ・ファイル情報	単一値: *BASIC, *ALL, *NONE, *HEX その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *HDRLBL, *DTABLK, *TLRLBL	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
DTABLK	ダンプするデータ・ブロック	単一値: *ALL, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 開始データ・ブロック番号	1-2147483647, *FIRST	
	要素 2: 終了データ・ブロック番号	1-2147483647, *ONLY, *LAST	
VOLLBL	ダンプ・ボリューム・ラベル	*YES, *NO	オプション
CODE	コード	*EBCDIC, *ASCII	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション

トップ

装置 (DEV)

ダンプされるボリュームがあるテープ装置を指定します。ボリュームはラベル付きの場合も、ラベルなしの場合もあります。テープまたは媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

名前 テープ装置の名前を指定してください。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

ダンプされるラベル付きテープのボリュームIDを指定するか、あるいは指定したテープ装置のテープ・ボリュームがダンプされることを指定します。

注: 指定した装置が媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置である場合には、指定するボリュームは、取り付けて使用するカートリッジIDまたは仮想テープ・ボリューム名とする必要があります。

*MOUNTED

指定した装置上のボリュームがダンプされます。ボリュームはラベル付きの場合も、ラベルなしの場合もあります。ラベルなしボリュームの場合には、VOLパラメーターに*MOUNTEDを指定し、**ファイル・ラベル(LABEL)**パラメーターに*NONEを指定しなければなりません。媒体ライブラリー装置の場合は、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによってマウントされたカテゴリの次のカートリッジです。仮想テープ装置の場合、使用されるボリュームは現在取り付けられているボリュームであるか、現在取り付けられているボリュームがなければ、イメージ・カタログ内でロード状況になっている次のボリュームが使用されます。

文字値 ダンプされるラベル付きボリュームのIDを指定します。この値は、ラベル付きボリュームをダンプする場合にだけ指定することができます。指定した装置上のテープにここで指定したものと異なるボリュームIDがある場合、あるいはそのテープがラベルなしの場合には、テープ・ダンプ(DMPTAP)コマンドのユーザーにエラー・メッセージが送られ、テープはダンプされません。

トップ

順序番号の範囲 (SEQNBR)

ダンプされるデータ・ファイルの順序番号の範囲を指定します。ダンプされるデータ・ファイルは、**ファイル・ラベル (LABEL)**パラメーターを使用してさらに制約される場合があることに注意してください。

単一値

***ALL** 指定した装置にあるボリューム上のすべてのデータ・ファイルがダンプされます。

***SEARCH**

LABELパラメーターに指定された値と一致するIDを持つデータ・ファイルが検索されます。

***SEARCH**を指定した場合には、ボリュームはラベル付きでなければならず、ファイル・ラベルをLABELパラメーターに指定しなければなりません。ファイルが見つからない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。

要素1: 開始ファイル順序番号

***FIRST**

ダンプされるデータ・ファイルの範囲は、テープ・ボリューム上の最初のファイルから（順序番号にかかわらず）開始されます。

1から16777215

ダンプされるデータ・ファイルの範囲は、指定した順序番号を持つデータ・ファイルから始まります。ファイルの終了順序番号の値より小さいか等しい番号を指定してください。

要素2: 終了ファイル順序番号

***ONLY**

1つのデータ・ファイル（開始ファイル順序番号で指定した）だけがダンプされます。

***LAST**

ダンプされるデータ・ファイルの範囲は、開始順序番号のデータ・ファイルから始まり、リール上の最後のデータ・ファイルで終わります。

1から16777215

ダンプされるデータ・ファイルの範囲は、指定した順序番号のデータ・ファイルまでです。開始ファイル順序番号より大きい等しい番号を指定してください。

トップ

ファイル・ラベル (LABEL)

ダンプされる特定のデータ・ファイルのIDを指定します。テープ・データ・ファイルのファイルIDは、ファイル中のデータの前および後のラベルに記憶されます。

***NONE**

指定したSEQNBR範囲にあるボリューム上のすべてのデータ・ファイルがダンプされます。ラベルなしボリュームの場合には、**ボリューム識別コード (VOL)**パラメーターに***MOUNTED**を指定し、LABELパラメーターに***NONE**を指定しなければなりません。

ID ダンプされるデータ・ファイルのデータ・ファイルIDを指定してください。システムは、このIDを、**順序番号の範囲 (SEQNBR)**パラメーターによって指定された範囲内の各ファイルのラベルにあるデータ・ファイルIDと比較します。IDがこのデータ・ファイルIDと一致するデータ・ファイルはすべてダンプされ、IDがこのデータ・ファイルIDと一致しないデータ・ファイルはダンプされません。

総称ID

アスタリスク（*）が後に続く1つまたは複数の文字を含む総称ファイルIDの文字ストリングを指定します。総称ファイルIDと同じ接頭部を持つファイルIDのテープ・ファイルは、すべてダンプされます。

トップ

ダンプするデータ・ファイル情報 (TYPE)

ダンプされる情報のタイプを指定します。ダンプ出力は、データ・ファイル見出しラベル、データ・ファイル・トレーラー・ラベル、ファイルのデータ部分からのデータ・ブロック、あるいはこれらの3種類のすべての情報から構成されている場合があります。装置にあるテープ・ボリュームがラベルなしの場合には、値 *BASIC、*ALL、*HEX、または *DTABLK だけしかこのパラメーターに指定することができません。さもないと、コマンドのユーザーにエラー・メッセージが送られ、ボリュームはダンプされません。

単一値

*BASIC

標準ラベル・ボリュームの場合には、ダンプされる情報には、見出しラベルおよび**ダンプするデータ・ブロック (DTABLK)**パラメーターで指定したデータ・ブロックが含まれます。ラベルなしボリュームの場合には、データ・ブロックだけがダンプされます。

***ALL** 標準ラベル・ボリュームの場合には、ダンプは、見出しラベル、トレーラー・ラベル、およびデータ・ブロックを含みます。ラベルなしボリュームの場合には、値 *ALL を指定すると、データ・ブロックだけがダンプされます。

*NONE

データ・ファイルはダンプされません。*NONE を指定する場合には、ダンプされるテープ・ボリュームはラベル付きでなければならず、**ダンプ・ボリューム・ラベル (VOLLBL)**パラメーターに *YES を指定しなければなりません。そうでない場合には、テープ・ダンプ (DMPTAP) コマンドのユーザーにエラー・メッセージが送られます。

***HEX** 標準ラベル・ボリュームの場合、データは、ボリュームがラベルなしテープであるかのようにダンプされます。標準ラベル・ファイルの見出しラベル、データ・ブロック、およびトレーラー・ラベルは、3つの別々のラベルなしテープ・ファイルとなるように見えます。ラベルなしボリュームの場合、データは、*DTABLK が指定された場合と同様にダンプされます。

その他の値 (最大3個指定可能)

*HDRLBL

データ・ファイル見出しラベルがダンプされます。ユーザー指定の見出しラベルを含めて、指定したデータ・ファイルのすべての見出しラベルがダンプされます。ラベルなしボリュームの場合には、*HDRLBL は無効です。

*DTABLK

ファイル・データから1つまたは複数のデータ・ブロックがダンプされます。ダンプされるデータ・ファイル中のブロックは、**ダンプするデータ・ブロック (DTABLK)**パラメーターで指定します。

*TLRLBL

すべてのデータ・ファイル・トレーラー・ラベルがダンプされます。ユーザー指定のトレーラー・ラベルを含めて、指定したデータ・ファイルのすべてのトレーラー・ラベルがダンプされます。ラベルなしボリュームの場合には、*TLRLBL は無効です。

ダンプするデータ・ブロック (DTABLK)

ダンプされるデータ・ブロックを指定します。このパラメーターは、印刷装置にダンプされるテープ・ファイル・データの量を制限するために使用されます。 **ダンプするデータ・ファイル情報 (TYPE)**パラメーターに***BASIC**および***ALL** のいずれも指定せず、そのTYPEパラメーターに***DTABLK**も含まれていない場合には、このパラメーターは無視されます。

単一値

***ALL** このボリューム上にある指定したデータ・ファイルのすべてのデータ・ブロックがダンプされます。データ・ファイルが別のボリュームから続いているか、あるいは別のボリュームに続いている場合には、データ・ファイルのこのボリュームに記憶されている部分だけがダンプされます。

*LAST

データ・ファイルのデータ・ブロックの最後だけがダンプされます。

要素1: 開始データ・ブロック番号

*FIRST

ダンプされるデータ・ブロックはデータ・ファイルの最初のブロックから始まります。

1から2147483647

ダンプされる各ファイルのデータ・ブロックの最初の番号を指定してください。この番号が終了データ・ブロック要素に指定された番号より大きい場合には、ダンプを要求したユーザーにエラー・メッセージが送られ、テープはダンプされません。開始データ・ブロック番号がデータ・ファイル内のデータ・ブロックの実際の数より大きい場合には、ファイル内の最後のデータ・ブロックがダンプされます(エラー・メッセージなし)。

要素2: 終了データ・ブロック番号

*ONLY

開始データ・ブロックとして指定したデータ・ブロックだけがダンプされます。

*LAST

ダンプされるデータ・ブロックの範囲は、開始データ・ブロック値によって指定されたデータ・ブロックからファイル内の最後のブロックまでです。

1から2147483647

ダンプされる各ファイル中の最後のデータ・ブロックの番号を指定してください。この番号が開始データ・ブロック要素に指定された番号より小さい場合には、ダンプを要求したユーザーにエラー・メッセージが送られ、テープはダンプされません。終了データ・ブロック番号がデータ・ファイル内のデータ・ブロックの実際の数より大きい場合には、開始データ・ブロックからファイルの終わりまでのすべてのブロックがダンプされます(エラー・メッセージなし)。

ダンプ・ボリューム・ラベル (VOLLBL)

ボリューム・ラベルをダンプするかどうかを指定します。ラベルなしのボリュームの場合、あるいは標準ラベル・テープで **ダンプするデータ・ファイル情報 (TYPE)**パラメーターに***HEX**が指定された時には、このパラメーターは無視されます。

***YES** すべてのボリューム・ラベル（ユーザー指定のラベルを含む）がダンプされます。

***NO** ボリューム・ラベルはダンプされません。しかし、ボリューム・リストには、ダンプされるすべてのテープについて、ラベル付きボリュームのボリュームIDその他の基本情報が組み込まれます。

トップ

コード (CODE)

テープに記録されるデータに使用される文字コードのタイプを指定します。ラベル付きボリュームの場合には、データがEBCDICまたはASCII文字コードのいずれで記録されているかをテープ・ラベルで判別するため、このパラメーターは無視されます。

***EBCDIC**

テープにはEBCDIC文字コードのデータが入っています。ダンプ出力には、16進値および各データ・バイトに対応するEBCDIC文字が入っています。

***ASCII**

ASCII文字コードが使用されます。

トップ

テープ終了オプション (ENDOPT)

操作が終了した後にテープが巻き戻されるだけか、あるいは巻き戻されアンロードされるかどうかを指定します。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

トップ

例

```
DMPTAP  DEV(QTAPE2)  SEQNBR(5)  TYPE(*DTABLK)  DTABLK(3 7)
```

このコマンドは、情報を装置QTAPE2にあるテープ・ボリュームからダンプします。順序番号5によって指定されたデータ・ファイル内のデータ・ブロック3から7が印刷装置ファイルにダンプされます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF6718

装置&1を割り振ることができない。

CPF6720

装置&1で間違ったボリューム&2が見つかった。

CPF6721

装置&1はテープ装置でない。

CPF6723

装置&1のボリューム&2にファイルが見つからない。

CPF6724

ファイル・ラベル&5がボリューム&2に見つからなかった。

CPF6725

終了ファイル順序番号が開始順序番号より小さい。

CPF6726

終了データ・ブロックが開始ブロックより小さい。

CPF6727

装置&1で、ラベルなしのボリュームにダンプ・タイプを使用することはできない。

CPF6728

LABEL(*NONE)またはCRTDATE(*NONE)が必要。

CPF6729

装置&1のボリューム&2のファイル・データに対する権限がない。

CPF6730

ファイル順序番号&5をアクセスすることができない。

CPF6731

ファイル・ラベル&5がボリューム&2に見つからなかった。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

CPF6751

装置&4でロードの障害が起こった。

CPF6760

装置&1の準備ができていない。

CPF6772

装置&1のボリュームを処理することができない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

[トップ](#)

トレースのダンプ (DMPTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

トレース・ダンプ(DMPTRC)コマンドは、垂直マイクロコード(VMC)トレース・テーブルからデータベース・ファイルにデータをコピーします。ジョブは対話式で実行するか、あるいはバッチ・ジョブとして投入することができます。(バッチ・ジョブは投入者のジョブ記述およびユーザー・プロファイル下で実行されます。)

制約事項:

- このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- このコマンドを使用するには、*SERVICE特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してオペレーティング・システムのサービス・トレース機能に対して許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDをもつ機能使用法の変更(CHGFCNUSG) CLコマンドあるいは機能使用法情報の変更(QSYCHFUI) API も、トレース操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
- このコマンドに対する権限は次のユーザー・プロファイルにあります。
 - QSRV
 - QPGMR

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	メンバー	名前	必須, 定位置 1
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前, <u>QCTL</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QSYS</u> , *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション

トップ

メンバー (MBR)

トレース・テーブル・データがダンプされるデータベース・ファイルのメンバーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 使用するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

ライブラリー (LIB)

トレース・データ用のデータベース・ファイルが入っているライブラリーを指定します。指定したライブラリーの中にこのファイルが見つからない場合には、システムは自動的にそのライブラリーの中にファイルを作成します。

QPFRDATA

IBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが使用されます。

名前 使用するライブラリーの名前を指定します。

トップ

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

このトレースのダンプ(DMPTRC)コマンドをバッチ・ジョブとして実行したい場合に、使用するジョブ待ち行列を指定します。

単一値

***NONE**

ジョブは投入されません。DMPTRC要求は対話式に実行されます。

修飾子1: ジョブ待ち行列

QCTL ジョブ待ち行列QCTLが使用されます。

名前 使用するジョブ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

QSYS 弊社提供のシステム・ライブラリーQSYSを使用してジョブ待ち行列を見つけます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

データベース・メンバーを簡単に記述するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

例

DMPTRC MBR(TUESAM)

このコマンドによって、既存のVMC追跡データがライブラリーQPFRDATA中のメンバーTUESAMに書き込まれます。使用されるファイルはQAPMDMPTです。この要求は、ライブラリーQSYS中のジョブ待ち行列QCTLに投入されます。これは、バッチ・ジョブとして実行されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0A81

パフォーマンス・トレースをデータベース・ファイルに送信することはできない。

CPF0A82

パフォーマンス・トレースをデータベース・ファイルに送信することはできない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3307

ジョブ待ち行列&1が&2に見つからなかった。

CPF7207

&2を開始することができない。戻りコードは&3です。

トップ

ユーザー・トレースのダンプ (DMPUSRTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・トレース・バッファのダンプ(DMPUSRTRC)コマンドは、指定されたジョブのユーザー・トレース・バッファ中のトレース・レコードを形式設定します。形式設定されたトレース・レコードをデータベース・ファイルまたは**STDOUT**特殊ファイルに書き出すことができます。

トレース・レコードは、QP0ZUPRINTF, QP0ZDUMP, QP0ZDUMPSTACK, および QP0ZDUMPTARGETSTACK APIを使用してユーザー・トレース・バッファに書き出されます。問題判別APIの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト [HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説 (英文) , **OS/400 UNIX-TYPE API** を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプションル, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
TRCRCID	トレース・レコード識別コード	値 (最大 2 回の繰り返し): * <u>THD</u> , *JOB	オプションル
OUTPUT	出力	* <u>FILE</u> , *STDOUT	オプションル
SLTTHD	組み込むスレッドID	単一値: * <u>ALL</u> その他の値 (最大 8 回の繰り返し): 16 進値	オプションル
OMTTHD	除外するスレッドID	単一値: * <u>NONE</u> その他の値 (最大 8 回の繰り返し): 16 進値	オプションル

トップ

ジョブ名 (JOB)

ユーザー・トレース・バッファがダンプされるジョブを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

* コマンドを実行しているジョブのユーザー・トレース・バッファがダンプされます。

ジョブ名

ユーザー・トレース・バッファをダンプしているジョブの名前を指定してください。ユーザー名

またはジョブ番号修飾子が指定されない場合には、単純ジョブ名について現在システムにあるすべてのジョブを検索します。指定した名前に重複したものが見つかった場合には、修飾ジョブ名を指定しなければなりません。

ユーザー名

ユーザー・トレース・バッファをダンプしているジョブのユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

ユーザー・トレース・バッファをダンプしているジョブの6桁の番号を指定してください。

[トップ](#)

トレース・レコード識別コード (TRCRCID)

形式設定されたトレース・ポイント・レコードで使用されるレコードIDを指定します。IDを2つまで指定することができます。

考えられる値は、次の通りです。

***THD** スレッドIDが使用されます。各IDには16進数の数値が8個入っています。

***JOB** ジョブIDが使用されます。各IDには、修飾ジョブ名の6桁のジョブ番号部分が入っています。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力の送り先を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***FILE** 出力は、ライブラリーQTEMP中のデータベース・ファイルQAP0ZDMPにあるメンバーQPOZNNNNNNに書き出されます。ここで'NNNNNN'は、修飾ジョブ名の6桁のジョブ番号部分です。

***STDOUT**

出力は**STDOUT**特殊ファイルに書き出されます。

[トップ](#)

組み込むスレッドID (SLTTHD)

トレース・レコードが含まれるスレッドを8個までリストに指定します。指定されたスレッドIDをもつスレッドのトレース・レコードだけが含まれます。

注: このパラメーターとOMTTHDパラメーターを一緒に使用することはできません。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのトレース・レコードが含まれます。

スレッドID

トレース・レコードが含まれる8個までのスレッドのスレッドIDを指定してください。

除外するスレッドID (OMTTHD)

トレース・レコードが除外されるスレッドを8個までリストに指定します。指定されたものを除きすべてのスレッドのトレース・レコードが含まれます。

注: このパラメーターとSLTTHDパラメーターを一緒に使用することはできません。

考えられる値は、次の通りです。

*NONE

スレッドIDに基づいて除外されるトレース・レコードはありません。

スレッドID

トレース・レコードが除外される8個までのスレッドのスレッドIDを指定してください。

トップ

例

例1: 現行ユーザー・トレース情報のダンプ

```
DMPUSRTRC
```

このコマンドは、現行ジョブのユーザー・トレース情報をフォーマットし、このフォーマット済みトレース・レコードをライブラリーQTEMP中のファイルQAP0ZDMPに書き込みます。

例2: 特定ジョブのトレースのダンプ

```
DMPUSRTRC JOB(004842/ACCT/WS6) OUTPUT(*STDOUT)
```

このコマンドは、ジョブWS6のユーザー・トレース情報をフォーマットします。このジョブは、ユーザー・プロファイルACCTと関連付けられていて、ジョブ番号004842をもち、このフォーマット済みトレース・レコードをSTDOUT特殊ファイルに書き込みます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA98B

ジョブ&3/&2/&1に関連したユーザー・トレース・バッファーをダンプできなかった。

CPFA98C

ジョブ&3/&2/&1が固有でない。

トップ

DOグループ (DO)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DO (DO)コマンドによってCLプロシージャの中のコマンドをグループ化することができます。このコマンドは、1つのグループとしてまとめて処理されるコマンドのグループを識別するために、ENDDOコマンドと一緒に使用されます。通常、DOコマンドはIF コマンドの処理によって決定された結果として処理される1つのグループ・コマンドの開始を指定します。ただし、DOコマンドは、IFコマンドと関連付ける必要はありません。IFコマンドと一緒に使用する場合には、DOコマンドは決定の真の部分（すなわち、IFコマンドのTHENパラメーターの値）、または決定の偽の部分（ELSE コマンド）とすることができます。すべてのDOグループはENDDOコマンドによって終了しなければなりません。DOグループは他のDOグループ内でネストすることができますが、ネストのそのレベルを終了するために、各グループにENDDOコマンドがなければなりません。

制約事項:このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

例1:コマンドのグループの無条件処理

```
DO
: (CLコマンドのグループ)
ENDDO
```

DOとENDDOコマンドの間にあるコマンドが、コマンドのグループとして1回だけ処理されます。

例2:コマンドのグループの条件付き処理

```
IF &SWITCH DO
: (CLコマンドのグループ)
ENDDO
```

論理変数&SWITCHの値が'1'であれば、DOとENDDOコマンドの間にあるコマンドが処理されます。&SWITCHが'1'でなければ、ENDDOコマンドの次にあるコマンドに制御権がただちに移ります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

DO FOR (DOFOR)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DO FOR (DOFOR)コマンドは、このコマンドに指定された値に基づいて、CLコマンドのグループを0回以上処理します。

ループ制御CL変数(VARパラメーター)は、初期値(FROMパラメーター)に設定されて、ループ終了値(TOパラメーター)と比較されます。ループ増分値(BYパラメーター)が正またはゼロで、制御変数が終了値以下であると、DOFORと対応するENDDOコマンドとの間にあるコマンドが処理されます。ループ増分値が負で、制御変数が終了値以上であると、DOFORと対応するENDDOコマンドとの間にあるコマンドが処理されます。

制御がENDDOコマンドに達すると、ループ制御変数がループ増分値によって調整され、ループ終了値と比較されます。制御変数が終了値より大きい場合(BYが正またはゼロの場合)、または終了値より小さい場合(BYが負の場合)には、ENDDOコマンドの次のコマンドに制御が移ります。これ以外の場合は、DOFORステートメント(ループの先頭)より後にある最初のコマンドに制御が移ります。

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。
- ネストされたDO, DOWHILE, DOUNTIL,およびDOFORコマンドのレベルは、最大で25まで可能です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VAR	CL変数名	CL 変数名	必須, 定位置 1
FROM	取り出し値	整数	必須, 定位置 2
TO	宛先値	整数	必須, 定位置 3
BY	値による	整数, <u>1</u>	オプション

[トップ](#)

CL変数名 (VAR)

DOFORループの制御に使用されるCL変数を指定します。この変数は、タイプ*INTまたは*UINTの変数でなければなりません。この名前はアンパーサンド(&)で始まっていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

CL整変数名

ループ制御として使用する整変数の名前を指定してください。

[トップ](#)

取り出し値 (FROM)

DOFORループの制御に使用されるCL変数の初期値を指定します。この値は、整定数、タイプ*INTまたは*UINTとして宣言されたCL変数、あるいは結果が整数値になる式として指定する必要があります。初期値は、DOFORコマンドと対応するENDDOコマンドとの間にあるCLコマンドのグループの処理に先立って、ループ制御CL変数(VARパラメーター)に1回だけ割り当てられます。

これは必須パラメーターです。

整数 VARパラメーターを初期化するための整数の定数値を指定してください。

CL整変数名

ループの初期値として使用する整変数の名前を指定してください。

整式 結果が整数値として扱われる式を指定してください。

[トップ](#)

宛先値 (TO)

DOFORループを制御するために制御変数(VARパラメーター)と比較する最終値を指定します。この値は、整定数、タイプ*INTまたは*UINTとして宣言されたCL変数、あるいは結果が整数値になる式として指定する必要があります。各ループ反復後、DOFORと対応するENDDOステートメントとの間にあるCLコマンドのグループを処理する前に、ループ制御CL変数(VARパラメーター)がこの最終値と比較されます。

- BYパラメーター値が負の場合は、ループ制御変数がTO値より小さいと、ループは終了します。
- BYパラメーター値が整(またはゼロ)の場合は、ループ制御変数がTO値より大きいと、ループは終了します。

これは必須パラメーターです。

整数 ループの終了値として使用する定数値を指定してください。

CL整変数名

ループの終了値として使用する整変数の名前を指定してください。

整式 結果が整数値として扱われる式を指定してください。

[トップ](#)

値による (BY)

ループの各反復後にループ制御変数(VARパラメーター)に追加する数値を指定します。この値は整定数として指定する必要がありますが、正、負、またはゼロが可能です。

- 1** **CL変数名 (VAR)**パラメーターに指定された制御変数を、ループが1回終わるごとに1だけ増やします。

整数 VARパラメーターに指定された制御変数に追加する定数値を指定してください。

例

例1:回数が決められたDOFORコマンド・グループ

```
DCL VAR(&INT) TYPE(*INT) LEN(2)
:
DOFOR VAR(&INT) FROM(1) TO(10)
: (CLコマンドのグループ)
ENDDO
```

DOFORとENDDOの間にあるコマンドのグループが10回処理されます。CL変数&INTは、1という初期値に設定され、10というループ終了値と比較されます。ループが1回終わるごとに、&INTは1 (BYパラメーターの省略時値) だけ増えます。10回目のループが終わると、&INTの値は11になり、制御権はENDDOステートメントの次にあるコマンドに移ります。

注: DOFORループ中にCLコマンドのグループ内でCL変数&INTの値が変更されると、ループが10回より多く処理されたり、10回より少なく処理されたりすることがあります。

例2: FROMとTOに変数を使用するDOFOR

```
DCL VAR(&INT) TYPE(*INT) LEN(2)
DCL VAR(&START) TYPE(*INT) LEN(2)
DCL VAR(&END) TYPE(*INT) LEN(2)
:
CHGVAR VAR(&START) VALUE(100)
CHGVAR VAR(&END) VALUE(0)
:
DOFOR VAR(&INT) FROM(&START) TO(&END) BY(-5)
: (CLコマンドのグループ)
ENDDO
```

DOFORとENDDOの間にあるコマンドのグループが21回処理されます。CL変数&INTは、100という初期値に設定され、0というループ終了値と比較されます。増分値が負であるため、&INTが0より小さくなるまでループは処理されます。ループが1回終わるごとに、&INTは5だけ減り、TO値と比較されます。21回目のループが終わると、&INTの値は-5になり、制御権はENDDOステートメントの次にあるコマンドに移ります。

注: DOFORループ中にCLコマンドのグループ内でCL変数&INTまたは&ENDの値が変更されると、ループが21回より多く処理されたり、21回より少なく処理されたりすることがあります。ループ内のCL変数&STARTの値が変更されても、&STARTは最初のループの前にループ制御変数(&INT)を設定するために使用されるだけなので、ループの動作には影響がありません。

エラー・メッセージ

なし

DO UNTIL (DOUNTIL)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

DO UNTIL (DOUNTIL)コマンドは、CLコマンドのグループを1回以上処理します。グループ内のコマンドがすべて処理された後、論理条件が評価されます。

論理式が偽（論理0）であれば、式が偽に評価され続ける限りにおいて、このDO UNTILグループ内のコマンドが処理されます。論理式が真（論理1）に評価されると、関連したENDDOコマンドの次のコマンドに制御権が渡されます。

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。
- ネストされたDO, DOWHILE, DOUNTIL, およびDOFORコマンドのレベルは、最大で25まで可能です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
COND	条件	論理値	必須, 定位置 1

トップ

条件 (COND)

プログラム中の条件およびループを再び処理するかどうかを決定するために評価される論理式を指定します。論理式については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「論理式」を参照してください。式の中では変数、固定情報、そして%SUBSTRING, %SWITCH, および%BINARY組み込み関数を使用できることに注意してください。

これは必須パラメーターです。

論理値 CL論理変数または論理式の名前を指定してください。

トップ

例

例1: DOUNTILコマンド・グループ

```
DCL  VAR(&INT)  TYPE(*INT)  LEN(2)  VALUE(10)
:
DOUNTIL  COND(&INT *GT 100)
: (CLコマンドのグループ)
  CHGVAR  VAR(&INT)  VALUE(&INT + &VAL)
ENDDO
```

ENDDOコマンドの処理時に&INTの値が100より大きくなるまで、DOUNTILとENDDOの間にあるコマンドのグループが処理されます。DOUNTILグループの内容は、グループの始めにおける&INTの値にかかわらず、少なくとも1回は処理されます。

例2: DOUNTIL無限コマンド・グループ

```
DOUNTIL  COND('0')
: (CLコマンドのグループ)
ENDDO
```

LEAVEまたはGOTOコマンドのいずれかが検出されるまで、DOUNTILとENDDOの間にあるコマンドのグループが処理されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

DO WHILE (DOWHILE)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

DO WHILE (DOWHILE)コマンドは、論理式を評価し、式の評価にしたがってCLプロシーチャーのコマンドを条件つきで処理します。論理式が真（論理1）であれば、式が「真」に評価され続ける限りにおいて、このDO WHILEグループ内のコマンドが処理されます。論理式が偽（論理0）に評価されると、関連したENDDOコマンドの次のコマンドに制御権が渡されます。

制約事項:

- このコマンドはCLプロシーチャー内でのみ有効です。
- ネストされたDO, DOWHILE, DUNTIL,およびDOFORコマンドのレベルは、最大で25まで可能です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
COND	条件	論理値	必須, 定位置 1

トップ

条件 (COND)

プログラム中の条件およびループを再び処理するかどうかを決定するために評価される論理式を指定します。論理式については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「論理式」を参照してください。式の中では変数、固定情報、そして%SUBSTRING, %SWITCH,および%BINARY組み込み関数を使用できることに注意してください。

これは必須パラメーターです。

論理値 CL論理変数または論理式の名前を指定してください。

トップ

例

例1:常に処理されないDOWHILEコマンド・グループ

```
DCL  VAR(&LGL)  TYPE(*LGL)  VALUE('0')    /*偽*/
:
DOWHILE  COND(&LGL)
:      (CLコマンドのグループ)
ENDDO
:
```

&LGLの初期値が偽であるため、DOWHILEとENDDOの間にあるコマンドのグループは処理されません。制御権はENDDOの次にあるコマンドに移ります。

例2: DOWHILE無限コマンド・グループ

```
DCL  VAR(&LGL)  TYPE(*LGL)  VALUE('1') /*真*/
:
DOWHILE &LGL
:      (CLコマンドのグループ)
ENDDO
:
```

&LGLの値が偽（論理0）に設定されるまで、DOWHILEとENDDOの間にあるコマンドのグループが処理されます。このループは、DOWHILEグループの外側のラベルを指定するLEAVEコマンドまたはGOTOコマンドが実行されるまで続行されます。

トップ

エラー・メッセージ

なし

トップ

ジョブの切り離し (DSCJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブの切り離し (DSCJOB)コマンドにより、対話式ユーザーは、ワークステーションですべての対話式ジョブを切断し、サインオン画面に戻ることができます。

制約事項:

1. 切断するジョブは対話式ジョブでなければなりません。
2. 保留されているジョブは切断できません。
3. パススルー・ジョブは、ユーザーがシステム要求機能を使用してパススルー・ターゲット・システムからソース・システムに戻っていなければ切断できません。
4. このコマンドを切断するジョブ内から出すか、このコマンド発行側が切断するジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルのもとで実行しているか、このコマンド発行側がジョブ制御 (*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルのもとで実行していなければなりません。ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されません。これについては、WORK MANAGEMENTに詳細な説明があります。
5. PCオーガナイザーが活動している場合は、ジョブを切断できません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LOG	ジョブ・ログ	* <u>NOLIST</u> , *LIST	オプション、位置 1
DROP	回線切断	* <u>DEVD</u> , *YES, *NO	オプション、位置 2
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション、位置 3
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	* <u>SELECT</u> , *MSG	オプション

[トップ](#)

ジョブ・ログ (LOG)

この対話式ジョブのジョブ・ログを削除するか、あるいは印刷のためにジョブのスパール出力に含めるかを指定します。この入力は、ジョブに指定されたLOGパラメーターの値より優先します。このパラメーターが意味をもつのは、切り離し時間間隔が超過したために、切り離されたジョブが取り消された場合だけです。時間間隔はシステム値QDSCJOBITVによって定義されます。

***NOLIST**

ジョブ・ログ内の情報は削除されます。

***LIST** ジョブ・ログおよびジョブの残りのスパール出力が印刷のためにスパールされます。

トップ

回線切断 (DROP)

同じ回線上にサインオンされた他のワークステーションがない場合に、ワークステーションに接続されている交換回線を切り離す（電源を切る）かどうかを指定します。ワークステーションが非交換回線に接続されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***DEV D**

ワークステーションの装置記述のサインオフ時の回線切断 (DROP)パラメーターに指定された値が使用されます。

***YES** ジョブが終了した時に、交換回線上で他にサインオンしているワークステーションがない場合には、交換回線が切断されます。

***NO** ジョブが終了しても、交換回線は切断されません。

トップ

ジョブ名 (JOB)

ワークステーションから切り離すジョブの名前を指定します。ワークステーションから切り離されたジョブは、同じユーザーが同じワークステーションにサインオンすることによって、再接続することができます。

注: 活動ジョブまたは対話式ジョブの名前を指定するためには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。

単一値

* このコマンドを出したワークステーションと関連したジョブが切断されます。

修飾子1: ジョブ名

名前 ジョブの名前を指定します。追加のジョブ修飾子を指定しない場合には、そのジョブの名前を見つけるために、システムに現在あるすべてのジョブが検索されます。指定した名前に重複したものが見つかった場合には、修飾ジョブ名を指定しなければなりません。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが開始されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください

い。重複するジョブ名が異なるユーザーに存在している場合にだけ、ユーザーを修飾子として指定することが必要です。重複するジョブ名が同じユーザーに存在している場合には、ジョブはジョブ番号で修飾しなければなりません。

修飾子3: 番号

000000から999999

システム割り当てジョブ番号を指定してください。重複するジョブ名が同じユーザーに存在している場合にだけ、ジョブ番号を修飾子として指定することが必要です。

トップ

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

*SELECT

対話式セッション中に重複しているジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、メッセージが出されます。

*MSG 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

トップ

例

例1:すべての対話式ジョブを切断する

```
DSCJOB
```

このコマンドは、ワークステーションのユーザーが、ワークステーションと関連したすべての対話式ジョブを切断できるようにします。交換回線が切断されるのは、それがこのワークステーションのワークステーション装置記述に指定され、しかもこの回線上の他のワークステーションがいずれも活動していない場合だけです。QDSCJOBITVシステム値の切断間隔に達した時にジョブが切断されると、ジョブは終了され、ジョブ・ログはジョブのスパール出力に組み込まれません。

例2:交換回線を解放しないでジョブを切断する

```
DSCJOB LOG(*LIST) DROP(*NO)
```

このコマンドは対話式ジョブを切断しますが、交換回線は解放されません。QDSCJOBITVシステム値のためにジョブが終了されると、ジョブ・ログはジョブのスパール出力に組み込まれます。

例3:ジョブ・ログ内の情報を削除する

```
DSCJOB LOG(*NOLIST) DROP(*DEVD) JOB(123497/DEPT1/DSP04)
```

このコマンドは、対話式ジョブ123497/DEPT1/DSP04と、そのワークステーション上のその他のジョブ（たとえば、2次ジョブやグループ・ジョブなど）を切断します。QDSCJOBITVシステム値の切断間隔に達した時にジョブが切断されると、ジョブは終了され、ジョブ・ログはジョブのスパール出力に組み込まれません。交換回線を切断するかどうかを決定するために、ワークステーション装置記述が調べられます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1321

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3が見つからない。

CPF1332

重複したジョブ名の終わり。

CPF1333

この時点で、このジョブにジョブ切り離し(DSCJOB)コマンドを使用することはできない。

CPF1344

ジョブ&3/&2/&1を制御する権限がない。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1353

現在、このジョブにDSCJOBコマンドを使用することはできない。

CPF1354

現在、このジョブにDSCJOBコマンドを使用することはできない。

CPF1355

このジョブにDSCJOBコマンドを使用することはできない。

CPF1358

DSCJOBは許可されません。

CPF1385

この時点で、このジョブにジョブ切り離し(DSCJOB)コマンドを使用することはできない。

CPF1386

DSCJOBは正しくない。

CPF1387

DSCJOBは正しくない。

CPF1388

この装置でDSCJOBコマンドを使用することはできない。

CPF1389

この時点で、このジョブにジョブ切り離し(DSCJOB)コマンドを使用することはできない。

CPF1391

現在、このジョブにDSCJOBコマンドを使用することはできない。

CPF1656

テスト要求ジョブにジョブの切り離しを使用することはできない。

[トップ](#)

アクセス・コード表示 (DSPACC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アクセス・コード表示(DSPACC)コマンドは、システムで現在定義されているアクセス・コードを表示します。画面には、アクセス・コード番号およびアクセス・コードと関連した記述テキストの両方が表示されます。画面上の項目は、最も低い番号から最も高い番号へ向かう数字順に示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブによって要求された場合には、要求元のワークステーションに表示されません。これが対話式ジョブでない場合には、出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPACC

このコマンドは、対話式に入力されると、システム上の現在のアクセス・コードのすべてを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

[トップ](#)

アクセス・コード権限表示 (DSPACCAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アクセス・コード権限表示(DSPACCAUT)コマンドにより、ユーザーまたはユーザー・グループが権限をもつアクセス・コードを表示することができます。画面には、各ユーザーに認可されているアクセス・コードのほかに、ユーザー・プロファイル名のリストも表示されます。アクセス・コードはユーザー別に数字順に示されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USER	ユーザー・プロファイル	単一値: <u>*CURRENT</u> , *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	オプション、定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション、定位置 2

トップ

ユーザー・プロファイル (USER)

表示する認可済みアクセス・コードと関連したユーザー・プロファイル名を指定します。

*CURRENT

アクセス・コードが表示されます。

***ALL** システム配布ディレクトリーのユーザーのすべてのユーザー・プロファイル名およびこれと関連したアクセス・コード権限が表示されます。関連したアクセス・コードを持つユーザーだけが表示されます。

名前 表示するアクセス・コードと関連したユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブによって要求された場合には、要求元のワークステーションに表示されます。これが対話式ジョブでない場合には、出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

例

DSPACCAUT USER(*CURRENT) OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、現行ユーザーが認可されているアクセス・コードのすべてを印刷します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9022

エラーが起こったので、アクセス・コード権限は表示されなかった。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

活動事前開始ジョブの表示 (DSPACTPJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

活動事前開始ジョブの表示 (DSPACTPJ) コマンドは、活動サブシステム中の事前開始ジョブ項目と関連した活動事前開始ジョブの統計およびパフォーマンス情報を表示します。

画面の情報は、リセット・キーが押された時点、あるいは事前開始ジョブが開始された時点から収集されません。事前開始ジョブ項目は、サブシステムの開始時または事前開始ジョブの開始 (STRPJ) コマンドの使用時に開始されます。平均である値は時間間隔を伴う計算に基づいているので、システム・クロックが変更されると不正確になります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBS	サブシステム	名前	必須, 定位置 1
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

サブシステム (SBS)

事前開始ジョブ項目が入っている活動サブシステムの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 活動中の事前開始ジョブ項目が入っている活動サブシステムの名前を指定してください。

[トップ](#)

プログラム (PGM)

活動事前開始ジョブ項目を識別するプログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索され
ます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライ
ブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 プログラムを見つけるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷
するかを指定します。

***** 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷され
ます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

例1:ジョブ情報を表示する

```
DSPACTPJ  SBS(PJSBS)  PGM(QGPL/PGM1)
```

このコマンドは、プログラムPGM1がQGPLライブラリーにあるサブシステムPJSBS内の事前開始ジョブ項目
の情報を表示します。

例2:ジョブ情報を印刷する

```
DSPACTPJ  SBS(PJSBS)  PGM(QGPL/PGM2)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、プログラムPGM2がQGPLライブラリーにある活動サブシステムPJSBS内の事前開始ジョブ
項目の活動事前開始ジョブ情報を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1833

活動事前開始ジョブ表示コマンドは現在使用できない。

CPF1834

プログラム&1の事前開始ジョブ項目が&2に存在していない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

活動プロファイル・リスト表示 (DSPACTPRFL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

活動プロファイル・リスト表示(DSPACTPRFL)コマンドは、常に活動状態とみなされ、したがって、プロファイル活動分析(ANZPRFACT)コマンド機能によって使用不可にならないユーザー・プロファイルのリストを表示します。非活動状態であるとは決してみなされないIBMユーザー・プロファイルはリストされません。この情報は活動プロファイル・リスト変更(CHGACTPRFL)から収集されたものです。この活動プロファイル・リスト表示(DSPACTPRFL)コマンドがCHGACTPRFLコマンドの前に出された場合には、空の報告書が作成されます。

制約事項:このコマンドを実行するためには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _,	オプション、定位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、印刷するかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのプール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPACTPRFL OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、プロファイル活動分析(ANZPRFACT)コマンドによって常に活動状態とみなされるプロファイルのリストを印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

[トップ](#)

活動化スケジュールの表示 (DSPACTSCD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

活動化スケジュール表示(DSPACTSCD)コマンドは、ユーザー・プロファイル、その使用可能と使用不能の時刻、およびそのプロファイルが活動化される曜日を表示します。この情報は、活動化スケジュール項目変更(CHGACTSCDE)コマンドから収集されたライブラリーQUSRSYSのファイルQASECACTの中にあります。

制約事項:このコマンドを実行するためには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT -	オプション、定位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、印刷するかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPACTSCD OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、ジョブのスパール出力を使用して活動化スケジュールを印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

[トップ](#)

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとしします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとしします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

(C) (御社名) (年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 (C) Copyright IBM Corp. 1998, 2006. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries
LPDA
OfficeVision
i5/OS
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



Printed in Japan